(19) 世界知的所有権機関 国際事務局



(43) 国際公開日 2003 年3 月27 日 (27.03.2003)

PCT

(10) 国際公開番号 WO 03/024942 A1

(51) 国際特許分類7: C07D 277/04, 417/12, 417/14, A61K 31/4439, 31/496, 31/454, A61P 3/04, 3/10, 43/00

(21) 国際出願番号:

PCT/JP02/09419

(22) 国際出願日:

2002年9月13日(13.09.2002)

(25) 国際出願の言語:

日本語

(26) 国際公開の言語:

日本語

(30) 優先権データ:

特願2001-279084 2001年9月14日(14.09.2001) JP 特願2001-304650 2001年9月28日(28.09.2001) JP

(71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 三菱 ウェルファーマ株式会社 (MITSUBISHI PHARMA CORPORATION) [JP/JP]; 〒541-0046 大阪府 大阪市 中央区平野町二丁目 6番 9 号 Osaka (JP).

(72) 発明者; および

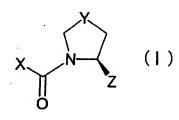
(75) 発明者/出願人: (米国についてのみ): 坂下 弘 (SAKASHITA,Hiroshi) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都

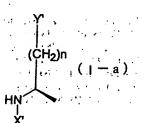
中央区 日本橋本町二丁目2番6号 三菱ウェル ファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 吉田 知 弘 (YOSHIDA,Tomohiro) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都 中央区 日本橋本町二丁目 2番6号 三菱ウェ ルファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 北嶋 浩 (KITAJIMA,Hiroshi) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都 中央区 日本橋本町二丁目 2番 6 号 三菱ウェル ゛ファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 竹内 昌 弘 (TAKEUCHI,Masahiro) [JP/JP]; 〒103-8405 東京 都 中央区 日本橋本町二丁目 2番 6号 三菱ウェ ルファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 田中 善仁 (TANAKA, Yoshihito) [JP/JP]; 〒103-8405 東京 都 中央区 日本橋本町二丁目 2番6号 三菱ウェ ルファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 芳村 琢也 (YOSHIMURA, Takuya) [JP/JP]; 〒631-0801 奈 良県 奈良市 左京 1 丁目 2-6 6 Nara (JP). 赤星 文 彦 (AKAHOSHI,Fumihiko) [JP/JP]; 〒103-8405 東京 都 中央区 日本橋本町二丁目2番6号 三菱ウェル ファーマ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP). 林 義治 (HAYASHI, Yoshiharu) [JP/JP]; 〒103-8405 東京都中 央区 日本橋本町二丁目 2番 6号 三菱ウェルファー マ株式会社 東京本社内 Tokyo (JP).

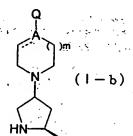
[続葉有]

(54) Title: THIAZOLIDINE DERIVATIVE AND MEDICINAL USE THEREOF

(54) 発明の名称: チアゾリジン誘導体およびその医薬用途







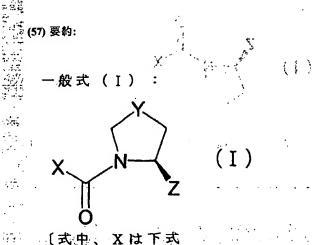
(57) Abstract: A thiazolidine derivative represented by the general formula (I) [wherein X represents a substituent represented by the formula (I-a) or (I-b) (wherein m is 1 or 2; n is an integer of 1 to 5; X' represents hydrogen, etc.; Y' represents arylamino, heterocycle, etc.; A represents carbon or nitrogen; and Q represents aryl, etc.); Y represents methylene, sulfur, etc.; and Z represents hydrogen or cyano] and a pharmaceutically acceptable salt of the derivative. They have potent DPP-IV inhibitory activity and can hence be provided as, e.g. a preventive/remedy for diabetes or preventive/remedy for obesity.

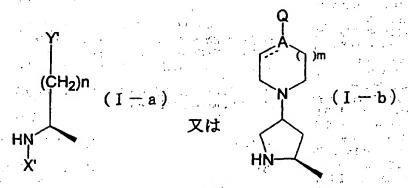
- (74) 代理人: 高島 ー (TAKASHIMA,Hajime); 〒541-0044 大阪府 大阪市 中央区伏見町四丁目 2 番 1 4 号 藤村 大和生命ビル Osaka (JP).
- (81) 指定国 (国内): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NO, NZ, OM, PH, PL, PT, RO, RU, SD, SE, SG, SI, SK, SL, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (広域): ARIPO 特許 (GH, GM, KE, LS, MW, MZ, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア特許 (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ 特許 (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, IE, IT, LU, MC, NL, PT, SE, SK, TR), OAPI 特許 (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語のガイダンスノート」を参照。





[式中、mは1又は2の整数を示し、nは1~5までの整数を示し、X'は水素原子等を示し、Y'はアリール置換アミノ基、ヘテロサイクル等を示し、Aは炭素原子又は窒素原子を示し、Qはアリール等を示す]から選ばれる置換基であり、

Yはメチレン、硫黄原子等を示し、Zは水素原子又はシアノを示す〕で表されるチアゾリジン誘導体およびその医薬上許容される塩は強力なDPP-IV阻害活性を示すことから、糖尿病の予防、治療剤または肥満の予防、治療剤等として提供することができる。

明細書

チアゾリジン誘導体およびその医薬用途

技術分野

本発明は、ジペプチジルペプチダーゼIV (DPP-IV) 阻害作用を示し、 5 DPP-IVが関与する疾患、特に、糖尿病又は肥満等の治療又は予防に有用な チアゾリジン誘導体又はその塩に関する。

背景技術

DPP-IVはN末端から2番目にプロリン(アラニン、ヒドロキシプロリンでもよい)を有するアミノ酸配列を認識し、ジペプチドXaa-Proを産生す 10 るセリンプロテアーゼである(Xaaは任意のアミノ酸、ProはLープロリンを示す)。DPP-IVは、哺乳動物組織中に広く分布し、特に血液、腎臓、腸管上皮及び胎盤に存在することが知られている。

哺乳動物におけるDPP-IVの生理学的役割は完全には解明されていないが、 神経ペプチドの分解〔ヘイマン(Heymann)等、FEBSレターズ(FE BS Letters)、第91巻、360-364頁(1978)]、T細胞 15 の活性化〔ショーン(Schon)等、バイオメディカ・バイオキミカ・アクタ (Biomedica Biochimica Acta)、第44巻、K9-K15頁(1985)]、転移性腫瘍細胞の内皮への接着〔ジョンソン(Joh nson)等、ジャーナル・オブ・セル・バイオロジー(Journal of C.e.l.l. Biology),第121卷、1423-1432頁(199 3) 」、H.I.V.ウイルスのリンパ球への侵入〔カレバウト(Callebau t) 等、サイエンス (Science) 、第262巻、2045-2050頁 (1993)〕等の広範囲にわたる生体機能に関与することが明らかにされつつ ある。なかでも、強力なインスリン分泌能を有し、食後の血糖値調節を担う生体 内物質グルカゴン様ペプチド(GLP-1)を不活性化する酵素としてのDPP 25 --I Vの役割が注目されている〔デアコン (Deacon) 等、ジャーナル・オ ブ・クリニカル・エンドクリノロジー・アンド・メタボリズム(Journal of Clinical Endocrinology and Metabo lism)、第80巻、952-957頁(1995)]。

GLP-1は生体内においては数分で代謝されることが知られている。その中でも特にDPP-IVによる代謝は重要であり、GLP-1を速やかに切断して不活性型GLP-1を産生する〔デアコン(Deacon)等、アメリカン・ジャーナル・オブ・フィジオロジー(American Journal of Physiology)、第271巻、E458-E464頁(1996)〕。加えて、この不活性型GLP-1がGLP-1レセプターに対し拮抗作用することから、GLP-1の生理的作用がさらに減弱化すると考えられている〔ヌーゼン(Knudsen)等、ヨーロピアン・ジャーナル・オブ・ファーマコロジン(European Journal of Pharmacology)、第318巻、429-435頁(1996)〕。したがつて、DPP-IV阻害によりGLP-1の分解を抑制する方法はGLP-1作用増強のアプローチとして最良と考えられる。すなわち、DPP-IV阻害薬はインスリン非依存型糖尿病(2型糖尿病)患者にとって、遷延性低血糖などの副作用を伴わずに食後高血糖を是正するための優れた治療方法になり得るものと期待されている。

15 DPP-IV阻害薬に関する特許出願には以下のようなものがある。

特表 Ψ 9-509921号公報には1-[$N-\epsilon-$ (ヒドロキシスクシニル)-L-リジル] ピロリジンが開示されている。このL-リジン部分はアシル置換体に限定されている。

特表 Ψ 9-509921号公報には(S)-2-シアノー1-Lープロリンピ 20 ロリジン誘導体が開示されている。これにおいて開示された化合物のLープロリン部分に相当する $L-\alpha-$ アミノ酸は疎水性側鎖を有する事を特徴とする。

また、WO99/61431公報には天然アミノ酸とチアゾリジン又はピロリジンからなる化合物がDPP-IV阻害作用を示すことが記載されている。

現在までに多くのDPP-I V阻害薬が報告されているが〔オウガスチンス (Augustyns)等、カレント・メディシナル・ケミストリー(Current Medicinal Chemistry)、第6巻、311-327 頁(1999)〕、いずれの化合物も、阻害活性、生体内における安定性及び安全性が十分とは言えず、医薬品として満足出来るものではない。したがって、DPP-I V阻害作用による治療効果を有し、医薬品として満足できる化合物の開

発が望まれている。

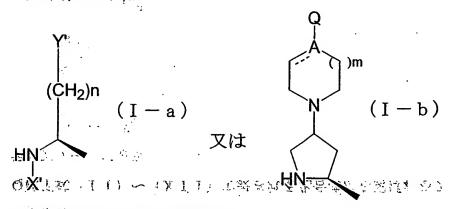
発明の開示

本発明者らは、上記の点に鑑み新規DPP-IV阻害薬の開発を目的とし鋭意 検討を行った。その結果、本発明者らは、側鎖に親水性のアミノ基を導入したチ アソリジン誘導体およびプロリンのγ位に置換基を導入した誘導体が強力なDP P-IV阻害作用を有する事を見出し、さらに安定性を高めて本発明を完成した。 すなわち、本発明は以下の化合物に関する。

[1] 一般式(I):

$$X \longrightarrow X$$
 (I)

〔式中、Xは下式



10 年武中号 面は1又は2の整数を示し、

nは1~5までの整数を示し、

X。は水素原子文は置換基を有してもよいアルキルを示し、

- → Y'は-NR¹R² (R¹は置換基を有してもよいアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールを示し、R²は水素原子、置換基を有してもよいアルキル、
- 15 置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールアルキルを示すか、又は互いに結合して、炭素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ原子を有していてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイク

は決単結合又は三重結合を示し、最高なデザデンジャンストールストラン 製造 Aは炭素原子又は窒素原子を示し、で料点のよう。数数変を集りますすが、サーサー

5 ただし、一つ。Aが炭素原子を示す場合、「Aは水酸基、カルボギジ文はアルコギジー カルボニルで置換されておよく、デル・1)、Aが窒素原子を示す場合、

(2) 在一个一个大概的数量是专作

<u>在在大</u>一片刻之的繁徽是看心。

は単結合を示じ、不はこの競級を来し、

Qは下式(II)~(XII)で表される化合物がら選ばれるアリールまたはヘデロアリールである;

10

$$-N = \mathbb{R}^4$$

$$\mathbb{R}^3$$

$$\mathbb{R}^7$$
 \mathbb{R}^6
 \mathbb{R}^5
 \mathbb{R}^5

ただし、

5 (i)式(II)中、a、b、c及びdは、 $1\sim3$ 個が窒素原子であり、かつ残りが炭素原子であるか、あるいはすべてが窒素原子であり、

R¹*は、アルキル、フェニル、ピリジル、ピリミジニル、イミダゾリルまたはオキサゾリルであり、これらの基はそれぞれ1または2以上のアルキル、アルコキシ、ハロゲンまたはシアノで置換されていてもよく、

- 10 R² は水素原子、アルキルまたはハロアルキルであり、ただし、
 - (i-1) bが窒素原子のときは R^2 は存在せず、
 - (i-2) c および d が共に窒素原子であり、a および b が共に炭素原子であり、 R^{1a} がフェニルであり、かつ R^{2a} がアルキルであるときは、 R^{1a} は、上記の置換基を 1 または 2 以上有し、
- 15 (i-3) a および d が共に窒素原子であり、 b および c が共に炭素原子であり、

かつR¹ が置換基を有しないフェニルであるときは、R² は、アルキルまたはハロアルキルであり、

- (i-4) a、b、c及びdがすべて窒素原子であり、かつ R^{1} 。がフェニルであるときは、①式 (I-b) のAは炭素原子であり、かつ R^{1} 。は上記置換基を有しないか、あるいは② R^{1} 。はアルキルまたはハロゲンで1または2以上置換されるかのいずれかであり、
- (ii) 式 (III) 中、e及びfは一方が窒素原子であり、他方が炭素原子であるか、あるいは共に炭素原子であり(「e、fは0~1個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり」と同義である)、
- 10 R³及びR⁴は、同じでも異なっていてもよく、それぞれ水素原子、アルキル、フェニルまたはピリジルであり、
 - (iii) 式 (IV) 中、j は硫黄原子、酸素原子または窒素原子であり、 h及びiは、同じでも異なっていてもよく、それぞれ窒素原子又は炭素原子であ り (「h、iは、 $0\sim2$ 個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり」と同義で
- .15 ある)、

 R^5 及び R^7 は、同じでも異なっていてもよく、それぞれ水素原子、フェニルまたはピリジルであり(ただし、hが窒素原子のときは R^7 は存在しない)、

R⁶は、水素原子またはアルキルであり(ただし、iが窒素原子のときはR⁶は存在しない)。 A Table A Ta

- (iv) 式 (V) 中、 k_1 、 』及びnは、同じでも異なっていてもよく、それぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくともひとつは炭素原子であり(「k、1、n は、 $0 \sim 2$ 個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり」と同義である)、R は、水素原子、フェニル、ピリジルまたはニトロであり(ただし、n が窒素原子のときはR は存在しない)、
- 25 R ^{8 a} は水素原子またはフェニルであり、

R®は、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

 R^{10} は、水素原子またはシアノであり(ただし、1 が窒素原子のときは R^{10} は存在しない)、ただし、

(iv-1) k およびn'が共に窒素原子のときは、①式 (I-b) のAは窒素原

子であり、かつR⁸*、R⁹及びR¹⁰はすべて水素原子であるか、または②R⁸*はフェニルであり、かつR⁹はハロアルキルであるかのいずれかであり、

(iv-2) k、1及v n がすべて炭素原子であるときは、v はピリジルであり、

- 5 (iv-3) kが窒素原子であり、かつ1およびn'が共に炭素原子であるときは、
 ① R^8 はフェニルまたはニトロであるか、あるいは② R^9 はシアノであるかのいずれかであり、
- 10 (v)、式(V I)、中、p は、窒素原子または炭素原子であり、<math>p が窒素原子であるとき、 R^{11} は、水素原子、フェニルまたはピリジルであり(ただし、p が窒素原子であるとき、 R^{11} はフェニルまたはピリジルである)、 R^{12} は、水素原子またはアルキルであり(ただし、p が窒素原子のときは R^{12} は存在しない)、
- 15 R 1 3 及び R 1 4 は、共に水素原子であるか、あるいはいずれか 1 個が水素原子であ り、かつ残りがシアノ、アルコキシまたはハロゲンであり、
 - (vi)式(VII)中、r及びsは、1個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり、
- R^{15} は、水素原子、アルキルまたはフェニルであり(ただし、r が窒素原子のと 20 きは R^{15} は存在しない)、
 - R^{16} は、水素原子またはアルキルであり(ただし、s が窒素原子のときは R^{16} は存在しない)、
 - R¹⁷は、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、
- (vii) 式 (VIII) 中、r $^{\prime}$ 及び s $^{\prime}$ は同じでも異なっていてもよく、それ 25 ぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくともひとつは窒素原子であり $(\lceil r \rceil, s \rceil)$ は $1 \sim 2$ 個が窒素原子であり残りが炭素原子であり」と同義である)、
 - R^{15a} は、水素原子、アルキルまたはフェニルであり(ただし、r'が窒素原子のときは R^{15a} は存在しない)、

 R^{16} は、水素原子またはアルキルであり(ただし、r およびs が共に窒素原子であるときは、 R^{16} は水素原子である)、

R¹⁷aは、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

(viii) 式(IX)中、tは、硫黄原子または酸素原子であり、

5 uは、炭素原子または窒素原子であり、

R¹⁸およびR¹⁸は、共に水素原子であるか、あるいはいずれか1個が水素原子であり、かつ残りがシアノ、アルコキシまたはハロゲンであり、ただし、

(viii-1) u が炭素原子であるときは、 R^{18} および R^{19} のいずれか 1 個は、シアノ、アルコキシまたはハロゲンであり(「 R^{18} および R^{19} が共に水素原子であ

10 ることはなく」と同義である)、

(viii-2) tが硫黄原子であるときは、式 (I-b) 中のAは炭素原子であり、 R^{19} は水素原子であり、かつ R^{18} はメトキシまたはシアノであり、

(viii-3) 式 (I-b) 中のAが窒素原子であり、tが酸素原子であり、 R^{19} が水素原子であり、かつuが炭素原子であるときは、 R^{18} はアルコキシまたはハロゲンであり、

(viii-4) 式 (I-b) 中のAが炭素原子であり、 R^{19} が水素原子であり、uが炭素原子であり、かつ t が酸素原子のときは、 R^{18} はハロゲンであり、

(ix) 式(X)中、v、w、x及びyは、同じでも異なっていてもよく、それぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくとも2つは炭素原子であり、ケッツ、yは、0~2個が窒素原子であり、残りが炭素原子であり、と同義である)、

 R^{20} 、 R^{21} 、 R^{22} 、 R^{23} 、 R^{24} 、 R^{25} 及び R^{26} は、同じでも異なっていてもよく、 $1\sim3$ 個がハロアルキル、メトキシ、エトキシ、イソプロポキシ、トリフルオロメトキシ、2, 2, 2ートリフルオロエトキシ、ヒドロキシ、シアノまたはハロゲンであり、残りが水素原子であり(ただし、vが窒素原子のときは R^{20} は存在せず、vが窒素原子のときは R^{23} は存在せず、vが窒素原子のときはv0ときはv0。

(ix-1) vが窒素原子であり、かつw、x及びyがすべて炭素原子のときは、 R^{22} はハロアルキルであり、

(ix-2) vおよびwが共に窒素原子であり、かつxおよびyが共に炭素原子のときは、 R^{21} はシアノであり、

(ix-3) wが窒素原子であり、かつ v、 x 及び y がすべて炭素原子のときは、 (ix-3) wが窒素原子であり、かつ R^{20} はシアノであるか、 (ix-3) を (ix-3) な (ix-3) かつ (ix-3) な (

(x)式(XI)中、R²⁷及びR²⁸は、同じでも異なっていてもよく、それぞれ ハロアルキルまたはアルコキシである。〕から選ばれる置換基であり、 Yはメチレン、ヒドロキシメチレン、硫黄原子、スルフィニル又はスルホニルを

15 示し、

Zは水素原子又はシアノを示す;

ただし、Xが式 (I-a) で表される置換基である場合は、Zは水素原子である。I で表されるチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

[2] 一般式 (I-a) のY'が、-NR¹R² [R¹は置換基を有してもよい アリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールを示し、R²は水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいヘテロアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールアルキルを示すか、又は互いに結合して、1~2個の窒素原子又は酸素原子をそれぞれ含んでいてもよく、かつ置換基を有してもよい ヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい 芳香環が置換又は縮合していてもよい。〕である上記[1]に記載のチアプリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

[3] 一般式 (I) のXが式 (I-a) で表される置換基であり、かつZが水素原子である上記 [1] または [2] に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許

容される塩。

[4] 一般式 (I) のXが式 (I-b) で表される置換基である上記 [1] に 記載のチアプリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

[5] 一般式 (I-a) のY' が下式

$$A'=b'$$
 R^{3a} $(I I-a)$ $A'=b'$ R^{3a} $(I I-b)$ R^{2} R^{4a} R^{4a}

,

5

は、単結合又は二重結合を示し、

R²は請求項1と同義であり、

R3*及びR4*は同一又は異なっていてもよく、それぞれ独立して水素原子、置換 基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有しても よいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有して 10 もよいヘテロアリールアルキル、ハロゲン、ハロアルキル、シアノ、ニトロ、ー $\left(-OR^{8b}, -COOR^{9a}, -CONHSO_2R \right)$ (1) 10a、-SO₂OR^{11a}、-SO₂R^{12a}又は-CONR^{13a}R^{14a}(式中、R^{5a}、 R^{9a}、R^{10a}、R^{11a}、R^{12a}、R^{13a}及びR^{14a}は同一又 15 は異なっていてもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアル キル、置換基を有してもよいシクロアルキル、置換基を有してもよいシクロアル キルアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリール アルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロ アリールアルキル又はハロアルキルを示し、R5°とR6°、R13°とR14°はそれ ぞれ互いに結合して、炭素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ原、 20 子を有していてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成しても よく、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合し

ていてもよい。)を示し、

a', b', c', d', e', f' およびg' は全て炭素原子であるか、あるいはいずれか1つ又は2つが窒素原子であり、かつ残りが炭素原子を示し、m' は0、1、2又は3を示し、

10. 野夏夜: 10. No. 10. 10. 10. 10.

5 A'は炭素原子または窒素原子を示し、

ただし、i) A'が炭素原子を示す場合、A'は水酸基、カルボキシル又はアルコキシカルボニルで置換されていてもよく、ii) A'が窒素原子を示す場合、

は、単結合を示す。〕から選ばれる置換基である上記[3]に記載のチアソリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

- 10 [6] 一般式 (II-a)、 (II-b)、 (II-c) および (II-d)、 のR³ 及びR⁴ が、同一又は異なっていてもよく、それぞれ独立して水素原子、 置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、 置換基を有してもよいヘテロアリール、 置換基を有してもよいヘテロアリール、 のログン、 ハロアルキル、シアノ、ニトロ、
- 15 -NR^{5a}R^{6a}、-NHSO₂R^{7a}、-OR^{8b}、-COOR^{9a}、-CONHSO₂
 R^{10a}、-SO₂OR^{11a}、-SO₂R^{12a}又は-CONR^{13a}R^{14a} (式中、R^{5a}、R^{6a}、R^{7a}、R^{8b}、R^{9a}、R^{10a}、R^{11a}、R^{12a}、R^{13a}及びR^{14a}は同一又は異なっていてもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキル、置換基を有してもよいアリール
 - アルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル又はハロアルキルを示し、R^{5a}とR^{6a}、R^{13a}とR^{14a}はそれぞれ互いに結合して1~2個の窒素原子又は酸素原子をそれぞれ含んでいてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサ
- 25 イクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合していてもよい。) である上記[5]に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。
 - [7] Yが硫黄原子であり、かつX'が水素原子である上記[3]に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

[8] Yが硫黄原子であり、X'が水素原子であり、かつY'が置換基を有していてもよいフェニルアミノ、2-ピリジルアミノ又は4-(1-イソキノリル)-1-ピペラジニルである上記[3]に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。

- 5 [9] 上記[1]~[8]のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩と薬理学上許容しうる担体とを含有する医薬組成物。
 - [10] 上記 [1] ~ [8] のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその 医薬上許容される塩を含有するDPP-IV阻害剤。
- [11] 上記 [1] ~ [8] のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその 医薬上許容される塩を有効成分とするDPP-IVが関与する疾患の治療剤。
 - [12] DPP-IVが関与する疾患が糖尿病又は肥満である上記 [11] に記載の治療剤。

本明細書中で使用されている各記号について以下に説明する。

- 15 X'、R^{1a}、R²、R^{2a}、R³、R^{3a}、R⁴、R^{4a}、R^{5a}、R⁶、R^{6a}、R^{7a}、R^{8b}、R^{9a}、R^{10a}、R^{11a}、R¹²、R^{12a}、R^{13a}、R^{14a}、R¹⁵、R¹⁶、R¹ ^{5a}及びR^{16a}で表されるアルキルとしては、好ましくは炭素数 1~8 で直鎖状又は分岐鎖状のアルキルを意味し、例えばメチル、エチル、プロピル、イソプロピル、ブチル、イソブチル、tertーブチル、ペンチル、ヘキシル、オクチル等 が挙げられる。中でも、メチルが好ましい。
- R¹*で表される基に置換していてもよいアルキル(ただし、R¹*がアルキルのときは置換基とはならない)としては、上記と同様のものが挙げられる。

シクロアルキルとは、好ましくは炭素数 3~7であり、例えばシクロプロピル、 シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘプチル等が挙げられる。中でも、シ クロヘキシルが好ましい。

シクロアルキルアルキルとは、そのシクロアルキル部が上記と同等であり、そのアルキル部が好ましくは炭素数1~3で直鎖状又は分枝鎖状であるシクロアルキルアルキルを意味し、例えばシクロプロピルメチル、2-シクロプチルエチル、

3 - シクロペンチルプロピル、シクロヘキシルメチル、2 - シクロヘキシルエチル、シクロヘプチルメチル等が挙げられる。中でも、シクロヘキシルメチルが好ましい。

アリールとは、好ましくは炭素数6~14のアリールを意味し、好ましくはフェニル、ナフチル、又はオルト融合した二環式の基で8~10個の環原子を有し、少なくとも一つの環が芳香環であるもの(例えばインデニル基)等が挙げられる。中でも、フェニルが好ましい。

アリールアルキルとは、そのアリール部は上記と同等であり、そのアルキル部は好ましくは炭素数 $1 \sim 3$ で直鎖状でも分子鎖状でもよく、例えばベンジル、ベンスヒドリル、フェネチル、3-フェニルプロピル、<math>1-tフチルメチル、2-(1-t)エチル、2-(2-t)エチル、3-(2-t)アルドル、3-(2-t)アル学が挙げられる。中でも、ベンジルが好ましい。

15

20

25

ヘテロアリールとは、好ましくは炭素及び1~4個のヘテロ原子(酸素、硫黄 又は窒素)を有する5~6員環基、又はそれから誘導される8~10個の環原子 を有するオルト融合した二環式へテロアリール、特にベンズ誘導体、若しくはプ ロペニレン、トリメチレン若しくはテトラメチレン基をそれに融合して導かれる もの、並びにその安定なN-オキシド等が挙げられる。例えば、ピロリル、フリ ル、チエニル、オキサゾリル、イソキサゾリル、イミダゾリル、チアゾリル、イ ソチアゾリル、ピラゾリル、トリアゾリル、テトラゾリル、1, 3, 5ーオキサ ジアゾリル、1, 2, 4-オキサジアゾリル、1, 3, 4-オキサジアゾリル、 1, 2, 4ーチアジアゾリル、ピリジル(2-、3-、4ーピリジル)、ピラジ ニル、ピリミジニル、ピリダジニル、1,2,4-トリアジニル、1,2,3-トリアジニル、1, 3, 5ートリアジニル、ベンズオキサゾリル、ベンズイソキ サゾリル、ベンゾチアゾリル、ベンズイソチアゾリル、ベンズイミダゾリル、オ キサゾロピリジル、イミダゾピリダジニル、チアナフテニル、イソチアナフテニ ル、ベンソフラニル、イソベンソフラニル、ベンソチエニル、クロメニル、イソ インドリル、インドリル、インドリニル、インダプリル、イソキノリル、キノリ ル、フタラジニル、キノキサリニル、キナソリニル、シンノリニル、2,1,3 ーベンズオキサジアゾリル、ベンズオキサジニル等が挙げられる。中でも、ピリ

ジル、ピリミジニルが好ましい。

ヘテロアリールアルキルとは、そのヘテロアリール部は上記と同等であり、そのアルキル部は、好ましくは炭素数 1 ~ 3 で直鎖状でも分岐鎖状でもよく、例えば 2 ーピロリルメチル、2 ーピリジルメチル、3 ーピリジルメチル、4 ーピリジルメチル、2 ーチエニルメチル、2 ー (2 ーピリジル) エチル、2 ー (3 ーピリジル) エチル、2 ー (4 ーピリジル) エチル、3 ー (2 ーピロリル) プロピル、4 ーイミダゾリルメチル等が挙げられる。中でも、2 ーピリジルメチルが好ましい。

ヘテロサイクルとは、炭素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ 原子 (酸素又は硫黄)を有していてもよく、好ましくは1~2個の窒素原子また は酸素原子を有してもよく、飽和又は不飽和である。単環だけでなく、スピロ環 も包含され、好ましくは単環の4~7員環基又はスピロ環である10~11員環 基である。ヘテロサイクルとしては、例えばアゼチジニル、ピロリジニル、ピペリジノ、ピペラジニル、モルホリノ、1,4ージアゼパニル、1,2,5,6ー テトラヒドロピリジル、チオモルホリノ、オキソチオモルホリノ、ジオキソチオモルホリノ、3ーアザスピロ [5,5]ウンデシル、1,3,8ートリアザスピロ [4,5]デシル等が挙げられる。中でも、ピペリジノ又はピペラジニルが好ましい。

さらに、上記へテロサイクルは置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合していてもよい。置換基を有していてもよい芳香環における芳香環としては、例えば、ペンゼン環又はピリジン環等が挙げられ、好ましくはベンゼン環である。芳香環は、下記置換基を1または2以上有していてもよく、該置換基としては、例えばシアノ又はトリフルオロメチルが好ましい。縮合環の具体的な例としては、例えば、インドリニル、イソインドリニル、1,2,3,4ーテトラヒドロキノリル、1,2,3,4ーテトラヒドロキノリル、フタルイミド、インドリル等が挙げられる。中でも、インドリニル又は1,2,3,4ーテトラヒドロキノリルが好ましい。

 R^{13} 、 R^{14} 、 R^{18} 、 R^{19} 、 R^{27} 及び R^{28} で表されるアルコキシとしては、好ましくは炭素数 $1\sim 8$ で直鎖状でも分岐鎖状でもよく、例えばメトキシ、エトキ

Same West

7 4 - 199, 10 4 - 10

PCT/JP02/09419

25

シ、プロポキシ、イソプロポキシ、ブトキシ、ペンチルオキシ、ヘキシルオキシ、 オクチルオキシ等が挙げられる。中でも、メトキシまたはイソプロポキシが好ま しい。

AおよびA'が炭素原子を示す場合、当該炭素原子に置換していてもよいアルコキシカルボニルとしては、アルコキシ部が上記と同様のものであるアルコキシカルボニルが挙げられる。

Riaに表される基が置換していてもよいアルコキシとしては、上記と同様のも が、高 のが挙げられる。 本書書は、「特別できなりますはの形子葉によりますく」 整備機能をしては

R^{3a}、R^{4a}、R¹³、R¹⁴、R¹⁸、R¹⁹、R²⁰、R²¹、R²²、R²³ R²⁴、 10 R²⁵及びR²⁶で表されるハロゲンとしては、塩素、臭素、フッ素、ヨウ素が挙げ られる。中でも、塩素又はフッ素が好ましい。

R¹*で表される基に置換していてもよいハロゲンとしては、上記と同様のものが挙げられる。

R^{2a}、R^{3a}、R^{4a}、R^{5a}、R^{6a}、R^{7a}、R^{8b}、R⁹、R^{9a}、R^{10a}、R^{11a}、R^{11a}、R^{12a}、R^{13a}、R^{14a}、R¹⁷、R^{17a}、R²⁰、R²¹、R²²、R²³、R²⁴、R²⁵、R²⁶、R²⁷及びR²⁸で表されるハロアルキルとは、ハロゲンが1または2以上置換したアルキルであり、当該ハロゲン及びアルキルは上記と同義であり、例えば、トリフルオロメチル、2, 2, 2ートリフルオロエチル、ペンタフルオロエチル等が挙げられる。中でも、トリフルオロメチル又は2, 2, 2ートリフルオロメチル又は2, 2, 1ートリフルオロエチルが好ましい。

なお、上記置換基のうち、X'、 R^2 、 R^{3a} 、 R^{4a} 、 R^{5a} 、 R^{6a} 、 R^{7a} 、 R^8 、 R^{9a} 、 R^{10a} 、 R^{11a} 、 R^{12a} 、 R^{13a} 及び R^{14a} で表される、アルキル、シクロアルキル、シクロアルキルアルキル、アリール、アリールアルキル、ヘテロアリール、ヘテロアリールアルキル及びヘテロサイクルは、以下に示す1個以上の置換基によってそれぞれ置換されていてもよい。

これらの置換基としては、例えば、ハロゲン(ただし、 R^{3a} 、 R^{4a} 、 R^{5a} 、 R^{6a} 、 R^{7a} 、 R^{8b} 、 R^{9a} 、 R^{10a} 、 R^{11a} 、 R^{12a} 、 R^{13a} 及び R^{14a} におけるアルキルの置換基として、ハロゲンを除く。)、水酸基、ニトロ、シアノ、トリフルオロメチル、アルキル(ただし、上記アルキルの置換基とはならない)、ア

ルコキシ、アルキルチオ、ホルミル、アシルオキシ、オキソ、フェニル、2-ピリジル、3-ピリジル、4-ピリジル(ただし、アルキルの置換基としてフェニル、2-、3-、4-ピリジルを除く)、4-ピペリジニル、2-モルホリノエチル、3-ピコリル、アリールアルキル、-COOR。、-CH2COOR。、-OCH2COOR。、-CONR。R。、-CH2CQ'NR。R。(Q'は=O又は=Sを示す。)、-OCH2CONR。R。、-COO(CH2)2NR。R。、-SO2 T1、-CONR。SO2 T1、-NR。R。、-NR。CHO、-NR。COT2、-NR。COOT2、-NR。COOT2、-NR。COOT3、-SO2 NR。R。COOT4、メチレンジオキシ、エチレンオキシ等が挙げられ、好ましくはハロゲン、ニトロ、シアノ、トリフルオロメチル又は-SO2 T1、等が挙げられる。

これらの置換基は、さらに置換基を有していてもよく、例えば、置換基を有するフェニル、2ーピリジル、4ーピペリジニルとしては、4ーシアノフェニル、4ークロロフェニル、4ーメトキシフェニル、5ーシアノー2ーピリジル、1ーエトキシカルボニルー4ーピペリジニル等が挙げられる。

ここで、上記置換基において、ハロゲン、アルキル、アリールアルキルは前述 と同様のものが挙げられる。

15

アルコキシは、好ましくは炭素数 1~8で直鎖状でも分岐鎖状でもよく、例えばメトキシ、エトキシ、プロポキシ、ブトキシ、ペンチルオキシ、ヘキシルオキシ、オクチルオキシ等が挙げられる。アルキルチオは、好ましくは炭素数 1~8で直鎖状でも分岐鎖状でもよく、例えばメチルチオ、エチルチオ、プロピルチオ、ブチルチオ、ペンチルチオ、ヘキシルチオ、オクチルチオ等が挙げられる。アシルオキシは、好ましくは炭素数 1~8で直鎖状でも分岐鎖状でもよく、例えばホルミルオキシ、アセチルオキシ、プロピオニルオキシ、ブチリルオキシ、バレリルオキシ、ピバロイルオキシ、ヘキサノイルオキシ、ベンゾイルオキシ等が挙げられる。

また、 $R_a \sim R_n$ は、水素、アルキル(前述と同様)、アリールアルキル(前述 と同様)を示す。なお、 $-NR_bR_c$ 、 $-NR_aR_f$ 、 $-NR_iR_j$ 及び $-NR_1R_a$ に おける R_b と R_c 、 R_a と R_f 、 R_i と R_j 、 R_i と R_n は、それぞれ互いに結合して炭

素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ原子(酸素又は硫黄)を有していてもよいヘテロサイクル、好ましくは1~2個の窒素原子または酸素原子を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、さらに、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい芳香環が縮合していてもよく(前述と同様であり、

- 5 これは上述のヘテロサイクルの置換基として挙げられた置換基により置換されていてもよい。)、さらに-NR。R、は=Oを有するヘテロアリール(例えば2-ピロリジノン-1-イル、スクシンイミド、オキサゾリジン-2-オン-3-イル、2-ベンズオキサゾリノン-3-イル、フタルイミド、シスーへキサヒドロフタルイミド等)を示すこともできる。 T、~T、は、水素原子、アルキル、シクス
- 10. ロアルキル、シクロアルキルアルキル、アリール、アリールアルキル、マテロアリールアルキル又はハロアルキルを示し、これは上述のアルキル、シクロアルキル、シクロアルキルアルキル、アリール、アリール、アリールアルキルの置換基として挙げられた置換基により置換されていてもよい。

 R^{18} 、 R^{3} 、 R^{4} 、 R^{5} 、 R^{7} 、 R^{8} 及び R^{11} で表されるピリジルとしては、1-ピリジル、2-ピリジル、3-ピリジル、4-ピリジルが挙げられる。

15

25

 R^{1} で表されるピリミジニルとしては、1-ピリミジニル、2-ピリミジニル、4-ピリミジニル、5-ピリミジニルが挙げられる。

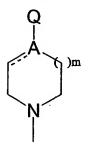
 R^{1*} で表されるイミダゾリルとしては、1-イミダゾリル、2-イミダゾリル、4-イミダゾリルが挙げられる。

- 20 R^{1} °で表されるオキサゾリルとしては、2-オキサゾリル、4-オキサゾリル、5-オキサゾリルが挙げられる。
 - 式(II)において、「cおよびdが共に窒素原子であり、aおよびbが共に 炭素原子であり、 R^{1a} がフェニルであり、かつ R^{2a} がアルキルであるときは、 R^{1a} は、上記の置換基を1または2以上有する」とは、「cおよびdが共に窒素原子であり、aおよびbが共に炭素原子であり、かつ R^{2a} がアルキルであるときは、 R^{1a} が無置換フェニルではない」ことと同義である。
 - 式 (II) において、 Γ a、b、c及びdがすべて窒素原子であり、かつ R^{1a} がフェニルであるときは、①式 (I-b) のAは炭素原子であり、かつ R^{1a} は上記置換基を有しないか、あるいは② R^{1a} はアルキルまたはハロゲンで1または2

以上置換されるかのいずれかである」とは、「a、b、c 及びd がすべて窒素原子であるときは、①式(I-b)のA は炭素原子であり、かつ R^{1a} は置換基を有するフェニルではないか、あるいは② R^{1a} はアルコキシ又はシアノで1又は2以上置換されたフェニルでなく、かつ無置換のフェニルでもないかのいずれかである」ことと同義である。

本発明の化合物(I)中、Xが式(I-a)で表される置換基であり、かつZが水素原子である化合物において、Y'としては、上記式(II-a)、(II-b)、(II-c)および(II-d)で表される置換基が好ましく、置換基を有していてもよいフェニルアミノ、2-ピリジルアミノ又は4-(1-イソキノリル)-1-ピペラジニルがより好ましい。また、Yとしては硫黄原子が好ましく、X'としては水素原子が好ましい。

Xが式(I-b)で表される化合物(I)において、式



[式中の各記号は前記と同義である。]

が結合している不斉炭素により、化合物 (I) は光学活性体又はジアステレオマー混合物として存在することができるが、当該ジアステレオマー混合物は公知の 手法により各光学活性体に分離することができる。

化合物 (I) は多形 (polymorphism) を示すことができ、また、 1より多くの互変異性体として存在することができる。

したがって、本発明は、上記のようないかなる立体異性体、光学異性体、多形 20 体、互変異性体、及びそれらの任意の混合物等を含有するものである。

化合物(I)の医薬上許容される塩としては、無機酸付加塩(例えば、塩酸、 臭化水素酸、ヨウ化水素酸、硫酸、硝酸、リン酸等との塩)、有機酸付加塩(例 えば、メタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、pートルエンスルホン酸、ギ酸、 酢酸、トリフルオロ酢酸、シュウ酸、クエン酸、マロン酸、フマル酸、グルタル

酸、アジピン酸、マレイン酸、酒石酸、コハク酸、マンデル酸、リンゴ酸、パントテン酸、メチル硫酸等との塩)、アミノ酸との塩(例えば、グルタミン酸、アスパラギン酸等との塩)等が挙げられる。

本発明のチアソリジン誘導体は、以下の方法により製造することができる。

5 スキーム1に、Xが一般式 (I-a)、Zが水素原子で表される化合物 (I) に おいてR^Tがアリール又はヘテロアリールである化合物の製造方法を示す。 スキーム1

(式中、P¹及びP²はアミノ酸の保護基(例えば、tertーブトキシカルボニル(Boc)、ベンジルオキシカルボニル(Cbz)、(9Hーフルオレンー 9ーイル)メチルオキシカルボニル(Fmoc)等)あるいは固相担体(例えばカルボニル基を介したワングレジン)を示し、Halはハロゲン(好ましくはフッ素)を示し、他の各記号は前記と同義である。〕

工程 a: 化合物 (III-a) と化合物 (IV-a) を反応させてアミド化合物 (V-a) を得る工程である。

15 化合物 (I I I - a) のカルボン酸を活性化する縮合剤として、例えばジシクロヘキシルカルボジイミド (DCC) 、N-(3-ジメチルアミノプロピル) - N'-エチルカルボジイミド (EDC) 又はその塩酸塩、2-エトキシ-1-エ

トキシカルボニルー1, 2ージヒドロキシキノリン(EEDQ)、カルボジイミダゾール(CDI)、ジエチルホスホリルシアニド、ベンゾトリアゾールー1ーイルオキシトリスピロリジノホスホニウムへキサフルオロホスフェート(PyBOP)、ジフェニルホスホリルアジド(DPPA)、クロロギ酸イソプチル、塩化ジエチルアセチル、塩化トリメチルアセチル等が挙げられ、好ましくはEDCが挙げられる。これらの縮合剤を単独で、あるいはNーヒドロキシスクシンイミド(HONSu)、ヒドロキシベンゾトリアゾール(HOBT)、3ーヒドロキシー4ーオキソー3,4ージヒドロー1,2,3ーベンゾトリアジン(HOOBT)、4ージメチルアミノピリジン(DMAP)等の添加剤、好ましくはHOBT

化合物 (IV-a) の使用量は、化合物 (III-a) に対し通常、90~3 00モル%、好ましくは100~150モル%である。

縮合剤の使用量は、化合物 (III-a) に対し通常、100~300モル%、 好ましくは100~200モル%である。

15 添加剤の使用量は、化合物 (III-a) に対し通常、100~200モル%、 好ましくは100~150モル%である。

当該反応は通常当該反応に不活性な溶媒中で行われ、用いられる不活性な溶媒は非プロトン性のものならばいかなるものでもよく、好適なものとして、アセトニトリル、テトラヒドロフラン、ジクロロメタン、クロロホルム、N、Nージメチルホルムアミド(DMF)等が挙げられる。また、当該縮合は、通常-30~80 $^{\circ}$ 0 $^{\circ}$ 0温度で行われ、好ましくは-10~ $^{\circ}$ 2 $^{\circ}$ 0 $^{\circ}$ 0で行われる。

<u>.</u>20

工程 b:化合物 (V-a) を脱保護させて化合物 (VI-a) を得る工程である。 この反応において、保護基 P²が Boc 基の場合は、例えば、アセトニトリル、テトラヒドロフラン、1, 4-ジオキサン、酢酸エチル、メタノール、エタノール、ジクロロメタン、クロロホルム等の当該脱保護反応に不活性な溶媒中、塩化水素又はトリフルオロ酢酸等の酸を用いて、通常-30~60℃で10分~24時間反応させて脱保護できる。

酸の使用量は、化合物 (V-a) に対し通常、100~3000モル%、好ま しくは100~1000モル%である。

また、保護基P²がCb z 基の場合は、例えば、メタノール、エタノール、テトラヒドロフラン、1,4ージオキサン、酢酸エチル等の当該脱保護反応に不活性な溶媒中、パラジウム等の触媒の存在下に接触水素還元反応に付するか、臭化水素酸-酢酸と反応させるか、あるいは、例えば必要に応じてジクロロメタン、

クロロホルム等の当該脱保護反応に不活性な溶媒中、チオアニソール又はアニソ ールの存在下にトリフルオロ酢酸又はトリフルオロメタンスルホン酸、好ましく はトリフルオロメタンスルホン酸と反応させることにより脱保護できる。

チオアニソール又はアニソールの使用量は、化合物 (V-a) に対し通常、100~2000モル%、好ましくは100~1000モル%である。

10 トリフルオロ酢酸又はトリフルオロメタンスルホン酸の使用量は、化合物 (V-a) に対し通常、100~2000モル%、好ましくは100~10000モル%である。

また、保護基P²がFmoc基の場合は、例えば、必要に応じてN, N-ジメチルホルムアミド、テトラヒドロフラン等の当該脱保護反応に不活性な溶媒中、

15 アンモニア、ピペリジン、モルホリン等の塩基、好ましくはピペリジンを用いて、 通常-30~60℃で5分~1時間反応させて脱保護できる。

塩基の使用量は、化合物 (V-a) に対し通常、100~2000モル%、好ましくは100~500モル%である。

工程 c : 化合物 (V I - a) と化合物 (V I I - a) を反応させて化合物 (V I 20 I I - a) を得る工程である。

反応はトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン等の塩基、好ましくは ジイソプロピルエチルアミン存在下、Nーメチルー2ーピロリドン、N, Nージ メチルホルムアミド、テトラヒドロフラン等の当該反応に不活性な溶媒中、0℃ ~溶媒の沸点付近の温度で、好ましくは0~80℃で行われる。

25 化合物 (VII-a) の使用量は、化合物 (VI-a) に対し通常、100~500モル%、好ましくは100~200モル%である。

塩基の使用量は、化合物 (VI-a) に対し通常、100~500モル%、好ましくは120~300モル%である。

工程 d:化合物 (VIII-a) を脱保護させて化合物 (I-a1) を得る工程

である。この場合、工程bと同じ反応条件にて行われる。

また、固相担体P¹がカルボニル基を介したワングレジンの場合は、例えば、 必要に応じてジクロロメタン等の当該反応に不活性な溶媒中、また、必要に応じ てチオアニソール、アニソール、フェノール又はエチレンジチオール等の添加剤 を加え、トリフルオロ酢酸を溶媒として用い、通常室温付近で1~24時間反応 させて固相担体を切り離すことができる。

また、Xが一般式 (I-a)、Zが水素原子で表される化合物 (I) において、置換基Y、が一般式 (II-b) 又は (II-d) で表される化合物はスキーム 2に示す方法により製造することができる。 スキーム 2

10 〔式中、Lは脱離基(例えば、ハロゲン、トシレート(OTs)、メシレート(OMs)、トリフレート(OTf)など)を示し、他の各記号は前記と同義である。〕

工程 e: 化合物 (X-a) 又は化合物 (X-b) と化合物 (IX-a) とを反応させて化合物 (XI-a) 又は化合物 (XI-b) を得る工程である。

反応は、炭酸カリウム、炭酸セシウム、炭酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム、トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン等の塩基、好ましくは炭酸カリウム存在下、Nーメチルー2ーピロリドン、N, Nージメチルホルムアミド、テトラヒドロフラン等の当該反応に不活性な溶媒中、0℃~溶媒の沸点付近の温度、好ましくは0~80℃で行われる。

化合物 (X-a) 又は化合物 (X-b) の使用量は、化合物 (IX-a) に対し通常、100~500モル%、好ましくは100~200モル%である。

塩基の使用量は、化合物 (IX-a) に対し通常、100~500モル%、好ましくは100~300モル%である。

10 工程f:化合物(XI-a)又は(XI-b)を脱保護させて化合物(I-a
 2)又は(I-a3)を得る工程である。工程bと同様の方法にて行われる。
 さらに、Xが一般式(I-a)、Zが水素原子で表される化合物(I)はスキーム3およびスキーム4に示す方法にて製造することもできる。
 スキーム3

〔式中、各記号は前記と同義である。〕

15 工程 g:化合物 (X I I - a) と化合物 (X I I I) を反応させて化合物 (X I V) を得る工程である。

反応は、炭酸カリウム、炭酸セシウム、炭酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム、 トリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン等の塩基、好ましくはジイソプロピルエチルアミン存在下、N-メチル-2-ピロリドン、N, N-ジメチルホ 20 ルムアミド、テトラヒドロフラン等の当該反応に不活性な溶媒中、0℃~溶媒の 沸点付近の温度、好ましくは0~80℃で行われる。

化合物 (XIII) の使用量は、化合物 (XII-a) に対し通常、100~500モル%、好ましくは100~200モル%である。

塩基の使用量は、化合物 (X I I - a) に対し通常、100~500モル%、 好ましくは100~300モル%である。

工程h:化合物 (XIV) を脱保護させて化合物 (I-a1) を得る工程である。 工程bと同様の方法にて行われる。

スキーム4

5 〔式中、各記号は前記と同義である。〕

工程 i:化合物 (XV) を酸化して化合物 (XVI) を得る工程である。

この反応は、例えば、室温にてピリジン三酸化硫黄錯体およびジメチルスルホキシドを使用する方法が好ましいが、有用な他の方法としては、例えば、アルカリ性過ペンガシ酸カリウム溶液を使用する方法; オギザリルクロリド、ジメチルコ・コンドを使用する方法; ジクロロ野酸を触媒として、DCCまたはEDCと、ジメチルスルホキシドとを使用する方法; ジクロロメタン中、酸化クロミウム(VI)ピリジン錯体を使用する方法; TEMPOフリーラジカルを触媒として、臭化ナトリウムの存在下、次亜塩素酸ナトリウム水溶液を酢酸エチルやトルエン中で使用する方法等がある。

工程j:化合物(XVI) と化合物(XIII) を反応させた後に還元して化合物(XIV) を得る工程である。

この反応は、水素化ホウ素ナトリウム、シアノ水素化ホウ素ナトリウム、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム等の還元剤、好ましくはトリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウムの存在下、メタノール、エタノール、ジクロロメタン、1,2-ジクロロエタン、クロロホルム、テトラヒドロフラン、アセトニトリル、1,

4-ジオキサン等の当該反応に不活性な溶媒中、必要に応じて、例えば酢酸、p-トルエンスルホン酸、三フッ化ホウ素・ジエチルエーテル錯体等の酸性触媒、好ましくは酢酸を用いて行ってもよく、通常0~100℃で10分~10時間行われる。

工程k:化合物 (XIV) を脱保護させて化合物 (I-a1) を得る工程である。 工程bと同様の方法にて行われる。

15 スキーム3における原料化合物(XII-a)は、スキーム5に示すように一般式(XVII)で表されるカルボン酸化合物と化合物(IV-a)を工程aと同じ方法にて縮合させるか、一般式(XV)で表されるヒドロキシ体をハロゲン化又は、メタンスルホニルクロリド、pートルエンスルホニルクロライド、トリフルオロメタンスルホン酸無水物などを用いてスルホニル化することにより合成することができる。さらにまた、原料化合物(XII-a)のLがハロゲンで表される化合物は、一般式(IX-a)で表される化合物に、対応するハロゲン化アルカリ金属塩の存在下に亜硝酸ナトリウム又は亜硝酸エステルを作用させることによっても製造できる。

一般式 (XV) で表されるヒドロキシ体は、対応するN-保護ヒドロキシアミ 25 ノ酸 (XVIII) と化合物 (IV-a) を工程 a と同じ方法にて縮合させるか、N-保護アスパラギン酸、N-保護グルタミン酸、2-保護アミノアジピン酸、2-保護アミノピメリン酸と化合物 (IV-a) からなるジペプチド化合物 (XIX) を、リチウム水素化ホウ素ナトリウムなどを用いた還元反応に付することにより製造することができる。

スキーム5

〔式中、 R^{15} はアルキル (前記と同義) 又はアリールアルキル (前記と同義) を示し、他は前記と同義である〕

スキーム 6 に、X が一般式 (I-b) で表される化合物 (I) の製造方法を示す。

5

10

〔式中、R 35 はアミノ酸の保護基(例えば、tert-プトキシカルボニル(B oc)、ベンジルオキシカルボニル(C b z))を示し、 $-OSO_2R^{37}$ は脱離基(例えば、トシレート(OTs)、メシレート(OMs)、トリフレート(OTf))を示し、Hal はハロゲンを示す。他の各記号は前記と同義である。〕 工程 <math>f : 化合物(XIII-a)の水酸基をスルホニル化反応させて化合物(XIV-a)を得る工程である。

この反応は、ピリジン、トリエチルアミン等の塩基の存在下、pートルエンスルホニルクロリド、メタンスルホニルクロリド、トリフルオロメタンスルホニルクロリド等のスルホニルクロリド、好ましくはメタンスルホニルクロリドを用いて、ジクロロメタン、1,2-ジクロロエタン等の当該反応に不活性な溶媒中、通

常-30~60℃の温度下で、10分~24時間で行われる。

スルホニルクロリドの使用量は、化合物 (XIII-a) に対し通常、100~300モル%、好ましくは100~200モル%である。

工程g':化合物(XIV-a)をアジド化反応させて化合物(XV-a)を得る工程である。

反応は金属アジ化物、例えばアジ化ナトリウムを用いて、N, Nージメチルホルムアミド等の溶媒中、通常 0 ~ 1 2 0 ℃の温度で 3 0 分から 2 4 時間で行われる。

金属アジ化物の使用量は、化合物 (XIV-a) に対し通常、100~300 10 モル%、好ましくは100~150モル%である。

工程h':化合物(XIII-a)から直接、化合物(XV-a)を得る工程である。

反応は、トリフェニルホスフィン又はトリプチルホスフィン等のホスフィン類 及びジアプジカルボン酸ジエステルの存在下、アジ化水素、DPPA、アジ化亜 鉛ビスピリジン錯塩等のアジド化試薬、好ましくはDPPAを用いてトルエン、 テトラヒドロフラン等の当該反応に不活性な溶媒中、通常−30~100℃の反 応温度で行われる。

ホスフィン類の使用量は、化合物 (XIII-a) に対し通常、100~30 0モル%、好ましくは100~200モル%である。

20 ジアゾジカルボン酸ジエステルの使用量は、化合物 (XIII-a) に対し通 10 常、100~300モル%、好ましくは100~200モル%である。

アジド化試薬の使用量は、化合物 (XIII-a) に対し通常、100~30 0モル%、好ましくは100~200モル%である。

工程 i': 化合物 (XV-a) を還元して化合物 (XVI-a) を得る工程であ 25 る。

この反応としてパラジウム、白金、ニッケル等の存在下での接触的水素添加、 金属水素化物による還元、トリフェニルホスフィン、チオール、スルフィド、ジ ボラン、あるいは遷移金属を用いる還元等が挙げられ、好ましくはパラジウムを 用いた接触的水素添加が挙げられる。

工程 j ': 化合物 (X V I - a) と化合物 (X V I I - a) を反応させて化合物 (X I X - a) を得る工程である。

反応はトリエチルアミン、ジイソプロピルエチルアミン等の塩基、好ましくは ジイソプロピルエチルアミン存在下、Nーメチルー2ーピロリドン、N, Nージ メチルホルムアミド、テトラヒドロフラン等の当該反応に不活性な溶媒中、0℃ ~溶媒の沸点付近の温度、好ましくは0~80℃で行われる。

化合物 (XVII-a) の使用量は、化合物 (XVI-a) に対し通常、100~500モル%、好ましくは100~200モル%である。

塩基の使用量は、化合物 (XVI-a) に対し通常、200~1000モル%、 好ましくは200~500モル%である。

10

15

工程 k': 化合物 (X V I - a) と化合物 (X V I I I - a) を反応させた後に 還元して化合物 (X I X - a) を得る工程である。

この反応は、水素化ホウ素ナトリウム、シアノ水素化ホウ素ナトリウム、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム等の還元剤、好ましくはトリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウムの存在下、メタノール、エタノール、ジクロロメタン、クロロホルム、1,2ージクロロエタン、テトラヒドロフラン、アセトニトリル、1,4ージオキサン等の当該反応に不活性な溶媒中、必要に応じて酸性触媒、例えば酢酸、pートルエンスルホン酸、三フッ化ホウ素・ジエチルエーテル錯体等を用いて行ってもよく、通常0~100℃の温度下で、10分~20時間で行われる。

20 化合物 (XVIII-a) の使用量は、化合物 (XVI-a) に対し通常、100~300モル%、好ましくは100~200モル%である。

還元剤の使用量は、化合物(XVI-a)に対し通常、200~1000モル%、好ましくは200~500モル%である。

工程m:化合物 (XIII-a) を酸化して化合物 (XX) を得る工程である。

25 この反応は、例えば、室温にてピリジン三酸化硫黄錯体及びジメチルスルホキシドを使用する方法が好ましいが、有用な他の方法としては、例えば、アルカリ性過マンガン酸カリウム溶液を使用する方法;オギザリルクロリド、ジメチルスルホキシド及び3級アミンを使用する方法;無水酢酸及びジメチルスルホキシドを使用する方法;ジクロロ酢酸を触媒として、DCCまたはEDCと、ジメチル

スルホキシドとを使用する方法;ジクロロメタン中、酸化クロミウム(VI)ピリジン錯体を使用する方法;TEMPOフリーラジカルを触媒として、臭化ナトリウムの存在下、次亜塩素酸ナトリウム水溶液を酢酸エチルやトルエン中で使用する方法等がある。

5 工程n:化合物(XX)と化合物(XXI)を反応させた後に還元して化合物 (XIX-a)を得る工程である。

この反応は、水素化ホウ素ナトリウム、シアノ水素化ホウ素ナトリウム、トリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム等の還元剤、好ましくはトリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム存在下、メタノール、エタノール、ジクロロメタン、クロロホルム、1,2ージクロロエタン、テトラヒドロフラン、アセトニトリル、1,4ージオキサン等の当該反応に不活性な溶媒中、必要に応じて、例えば酢酸、pートルエンスルホン酸、三フッ化ホウ素・ジエチルエーテル錯体等の酸性触媒、好ましくは酢酸を用いて行ってもよく、通常0~100℃温度下で、10分~20時間で行われる。

15 化合物 (XXI) の使用量は、化合物 (XX) に対し通常、100~300モル%、好ましくは100~200モル%である。

還元剤の使用量は、化合物 (XX) に対し通常、100~500モル%、好ましくは100~300モル%である。

化合物(XXI)は、公知の方法で合成することができる。

25

20 工程 o: 化合物 (XIX-a) を脱保護させて化合物 (I-b1) を得る工程である。。, (Xixia) (

この反応において、保護基R³⁵がBoc基の場合は、例えば、アセトニトリル、テトラヒドロフラン、1,4-ジオキサン、酢酸エチル、メタノール、エタノール、 ジクロロメタン、クロロホルム等の溶媒中、塩化水素又は、トリフルオロ酢酸等の酸を用いて、通常-30~60℃で10分~24時間反応させて脱保護できる。

酸の使用量は、化合物 (XIX-a) に対し通常、100~3000モル%、 好ましくは100~1000モル%である。

また、保護基R³⁵がCb²基の場合は、例えば、メタノール、エタノール、テトラヒドロフラン、1,4-ジオキサン、酢酸エチル等の当該脱保護反応に不活

性な溶媒中、パラジウム等の触媒の存在下に接触水素還元反応に付するか、臭化水素酸一酢酸と反応させるか、あるいは、例えば必要に応じてジクロロメタン、クロロホルム等の当該脱保護反応に不活性な溶媒中、チオアニソール又はアニソールの存在下にトリフルオロ酢酸又はトリフルオロメタンスルホン酸、好ましくはトリフルオロメタンスルホン酸と反応させることにより脱保護できる。

チオアニソール又はアニソールの使用量は、化合物 (XIX-a) に対し通常、 100~2000モル%、好ましくは100~1000モル%である。

トリフルオロ酢酸又はトリフルオロメタンスルホン酸の使用量は、化合物 (XIX-a) に対し通常、100~20000モル%、好ましくは100~1000モル%である。

スキーム 7 に、本発明のX が一般式(I-b)で表される化合物(I)の別の 製造方法を示す。

スキーム7

5

〔式中、R ⁴⁰ はメチル、エチル等のアルキル、ベンジル等を示し、他の各記号は前記と同義である。〕

工程 v はスキーム 6 で示した化合物 (X I I I - a) から化合物 (X I X - a) の変換方法と同様である。

5 工程w:化合物(XXXIII)のエステル保護されたカルボキシル基を脱保護 させて化合物(XXXIV)を得る工程である。

反応は通常の脱保護反応が使用できるが、例えば水酸化ナトリウム、水酸化カリウム、炭酸ナトリウム、炭酸カリウム等、好ましくは水酸化ナトリウムのアルカリ条件下で加水分解するか、あるいはR 40 がベンジルの場合は、白金、パラジウム等の存在下、メタノール、エタノール等の当該反応に不活性な溶媒中、接触的水素添加等を行うことにより脱保護することができる。

10

工程x:化合物(XXXV)と化合物(XXXIV)を反応させて化合物(XIXIV)を得る工程である。

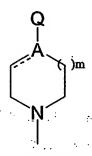
反応は工程 a で示した縮合剤、好ましくはEDCを用いることができる。縮合 15 剤を単独で、あるいは工程 a で示した添加剤、好ましくはHOBTと組み合わせて、アセトニトリル、テトラヒドロフラン、ジクロロメタン、クロロホルム、N、Nージメチルホルムアミド等の当該反応に不活性な溶媒中、通常-30~80 の温度で行われ、好ましくは-10~25 で行われる。

化合物 (XXXV) の使用量は、化合物 (XXXIV) に対し通常、90~3 20 00モル%、好ましくは100~150モル%である。

縮合剤の使用量は、化合物 (XXXIV) に対し通常、100~300モル%、 好ましくは100~200モル%である。

添加剤の使用量は、化合物 (XXXIV) に対し通常、100~200モル%、 好ましくは100~150モル%である。

25 なお、スキーム6では一般式(XIII-a)で示される化合物、又はスキーム7では一般式(XXXII)で示される化合物を原料として、式



〔式中の各記号は前記と同義である。〕

が結合している不斉炭素がS配置で表されるXが一般式 (I-b) である化合物 (I) の製造方法を示した。

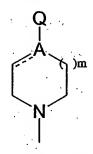
・ 上記の他、化合物(XIII'ーa)

〔式中の各記号は前記と同義である。〕又は化合物 (XXXII')

$$R^{35}$$
 (XXXIII')

[式中の各記号は前記と同義である。]

を原料として上記と同様の方法により、式



10 〔式中の各記号は前記と同義である。〕

が結合している不斉炭素がR配置で表される化合物(I'-b1)も製造できる。

また、各一般式でZがシアノを示す場合、各中間体までの一般式のZをカルバ モイル基として製造し、公知の方法により脱水させてシアノ基に変換ができる。

この反応は、脱水剤として五酸化ニリン、オキシ塩化リンーイミダゾール、トリフルオロ酢酸無水物、pートルエンスルホニルクロリドーピリジン等を用いてジクロロメタン、ピリジン等の不活性溶媒中で行われる。

このようにして製造される本発明の一般式 (I) のチアゾリジン誘導体は、公 知の分離精製手段、例えば、濃縮、抽出、クロマトグラフィー、再沈殿、再結晶 等の手段を適宜施すことによって、任意の純度のものとして採取できる。

また、当該一般式(I)のチアゾリジン誘導体は、必要により塩酸、臭化水素
10 酸、ヨウ化水素酸、硫酸、硝酸、リン酸等の無機酸及びメタンスルホン酸、ベンゼンスルホン酸、pートルエンスルホン酸、ギ酸、酢酸、トリフルオロ酢酸、シュウ酸、クエン酸、マロン酸、フマル酸、グルタル酸、アジピン酸、マレイン酸、酒石酸、コハク酸、マンデル酸、リンゴ酸、パントテン酸、メチル硫酸等の有機酸との酸付加塩とすることができる。また、水和物等の溶媒和物としても存在す
115 3る。また、水和物等の溶媒和物としても存在す

本発明の一般式(L)で示される化合物又はその薬理学的に許容される塩(医薬上許容される塩)は、哺乳動物(例えば、ヒト、イヌ、ネコ、ラット等)に対して、優れたD、PP-IVの阻害作用を有する。

本発明化合物(I) 又はその薬理学的に許容される塩(医薬上許容される塩)
20 は、後記実験で示すように強力なDPP-IV阻害活性を示すため、DPP-I
Vの阻害薬として有用であり、GLP-1が関与していると考えられる疾患(例えば、糖尿病、肥満等)等の予防・治療をはじめとするDPP-IVが関与する
各種疾患等の予防・治療に有用である。DPP-IVが関与する疾患としては、

例えば糖尿病又は肥満等が挙げられる。

15

25

また、本発明化合物(I)は、他の糖尿病治療薬、糖尿病性合併症治療薬、抗 高脂血症剤又は降圧剤等と同時に同一対象に投与することができ、また、時間差 をおいて同一対象に投与することができる。本発明化合物を他剤と組み合わせて 用いる場合、その配合比は、投与対象、投与対象の年齢及び体重、症状、投与時 間、剤形、投与方法、組合せ等により適宜選択することができる。

本発明の化合物 (I) 及びその薬理学的に許容される塩(医薬上許容される塩)を前述の医薬として用いる場合、それ自体あるいは適宜の薬理学的に許容される担体、賦形剤、希釈剤などと混合し、散剤、顆粒剤、錠剤、カプセル剤、注10 射剤等の形態で、経口的又は非経口的に投与することができる。上記製剤中には化合物 (I) 又はその薬理学的に許容される塩(医薬上許容される塩)を有効量配合する。

当該化合物(I)又はその薬理学的に許容される塩(医薬上許容される塩)の 投与量は、投与ルート、対象疾患、患者の症状、体重あるいは年齢、用いる化合物によっても異なり、投与目的に応じて適宜設定することができる。通常、成人に経口投与する場合、0.01~1000mg/kg体重/日、好ましくは0.05~500mg/kg体重/日を、一日1~数回に分けて投与するのが好ましい。

以下に参考例及び実施例を挙げて本発明をより具体的に説明するが、本発明は 20 これらに限定されるものではない。

実施例:

なお、 1 H-NMRは特に明記しない限り 300 MH z で測定した。 1 H-NM Rのケミカルシフトは、内部標準としてテトラメチルシラン(TMS)を用い、相対的なデルタ(δ)値をパーツパーミリオン(ppm)で表した。カップリング定数は自明な多重度をヘルツ(Hz)で示し、s(シングレット)、d(ダブレット)、t(トリプレット)、q(カルテット)、quint(クインテット)、m(マルチプレット)、dd(ダブレット オブ ダブレッツ)、td (トリプレット オブ ダブレッツ)、td (トリプレット オブ ダブレッツ)、td シリシア化学社製のシリカゲルを用いて行った。HPLC精製はDevelos

il CombiーRPを用いて行った。また、抽出における有機溶液の乾燥は、特に明記しない限り無水硫酸ナトリウム又は無水硫酸マグネシウムを使用した。 参考例1

3-[(S)-6-アミノー2-(ベンジルオキシカルボニル)アミノヘキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

- (1) $N-\alpha-$ ベンジルオキシカルボニル $-N-\epsilon-$ tert-プトキシカルボニル-L-リジン19gをジクロロメタン200mLに溶解し、チアゾリジン3.91mL、HOBT-水和物11.5g及びEDCの塩酸塩14.4gを順次加え、終夜撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、10%クエン酸水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を10%クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥した。溶媒を減圧下で留去することにより3-[(S)-6-(tert-ブトキシカルボニル)アミノ-2-(ベンジルオキシカルボニル)アミノ-2-4た。
- 15 (2) 上記化合物にトリフルオロ酢酸100mLを加え、3時間撹拌した。反 応溶液を減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで 抽出した。抽出液を乾燥し、減圧下で濃縮することにより表題化合物17gを得た。

MS (ESI) m/z:352 [MH] +

20 参考例 2

 $3-\{(S)-2-アミノー6-[(9H-フルオレン-9-イル) メチルオキシカルボニル] アミノヘキサノイル<math>\}-1$, 3-チアゾリジンの合成

 $N-\alpha-t$ ert-プトキシカルボニル $-N-\epsilon-$ (9H-フルオレン

-9-イル) メチルオキシカルボニルーLーリジン3.7gをジクロロメタン2
0.0mLに溶解し、これにチアプリジン740μL、HOBT一水和物1.8g
及びEDCの塩酸塩2.3gを加え、1時間撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を10%クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより3-{(S)-2-(tert-ブトキシカルボニル)アミ

ノー6ー [(9H-フルオレン-9-イル) メチルオキシカルボニル] アミノへキサノイル} -1, 3ーチアソリジンを得た。

(2) 上記化合物にトリフルオロ酢酸10mLを加え、1時間撹拌した。減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより表題化合物1.68gを得た。

MS (ESI) m/z:440 [MH] + 参考例3

. 10

3-((S)-1-tert-プトキシカルボニルー<math>4-オキソ-2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアプリジンの合成

- (1) N-tert-ブトキシカルボニルーL-trans-4-ビドロキシプロリン69.4g及びチアゾリジン29.4gをDMF300mLに溶解し、HOBT50.5g、及びEDCの塩酸塩63.3gを順次加え、室温下18時間攪拌した。反応液を濃縮後、濃縮物に飽和食塩水と飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、溶媒を減圧下で留去して、3-((2S, 4R)-1-tert-ブトキシカルボニルー4ービドロキシー2ーピロリジニルカルボニル)-1,3-チアゾリジン56.3gを無色透明油状物として得た。
- (2)上記化合物 5 5. 4 g及びトリエチルアミン4 6 mLをジクロロメタン3 20 50 mLに溶解し、これに氷冷下でピリジン三酸化硫黄錯体 5 2. 4 gのジメチルスルホキシド 1 5 0 mL溶液を加えて 2 時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄、乾燥後、溶媒を減圧下で留去した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーで精製することにより表題化合物 3 0. 3 gを白色固体として得た。
- 25 ¹H-NMR (CDC1₃) δ1. 47 (9H, s), 2. 45-2. 57 (1H, m), 2. 70-2. 93 (1H, m), 2. 97-3. 22 (2H, m), 3. 66-3. 78 (0. 6H, m), 3. 80-4. 10 (3H, m), 4. 28 -4. 38 (0. 4H, m), 4. 45-5. 08 (3H, m). 実施例1

3- [(S) -2-アミノ-6-(2-ニトロフェニルアミノ) ヘキサノイル] -1、3-チアゾリジン・トリフルオロ酢酸塩の合成

- (1) 参考例1の表題化合物351mgをDMF5mLに溶解し、これにジイソプロピルエチルアミン0.258mL及び1-フルオロ-2-ニトロベンゼン5 141mgを加え、80℃で終夜撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、得られた残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加えて10分間撹拌した後、Chem Elut (Valian)にアプライし、10分後酢酸エチルで溶出した。溶出液を減圧下で濃縮し、残渣をHPLCにより精製することにより3-[(S)-2-ベンジルオキシカルボニルアミノー6-(2-ニトロフェニルアミノ)へキリノイル -1,3-チアゾリジン140mgを得た。
 - (2) 上記化合物 1 4 0 m g をトリフルオロ酢酸 7 m L に溶解し、チオアニソール 0. 3 5 m L を加えて終夜放置した。トリフルオロ酢酸を留去後、水を加えてジエチルエーテルで洗浄した後、5%アンモニア水で p H を 8 にし、減圧下で濃縮した。残渣をH P L C により精製することにより表題化合物 5 5. 2 m g を 黄色固体として得た。

MS(ESI) m/z 339 [MH] + 実施例2

15

3- [(S) -2-アミノー6-(3-ニトロピリジン-2-イルアミノ) へキサノイル] -1, 3-チアゾリジン・トリフルオロ酢酸塩の合成

- 20 (1) 参考例1の表題化合物351mg及び2-クロロ-3-ニトロピリジン 158mgを用い、実施例1 (1) と同様の手法により3-[(S)-2-ベン ジルオキシカルボニルアミノー6-(3-ニトロピリジン-2-イルアミノ)へ キサノイル]-1,3-チアプリジン284mgを得た。
- (2) 上記化合物 2 8 4 m g を用い、実施例 1 (2) と同様の手法により表題 25 化合物 1 0 8 m g を黄色固体として得た。

MS(ESI) m/z 340 [MH] 実施例3

.

3- [(S)-2-アミノ-6-(2-シアノ-3-フルオロフェニルアミノ) ヘキサノイル]-1,3-チアゾリジン・トリフルオロ酢酸塩の合成

- (1) 参考例 1 の表題化合物 351 m g 及び 2 , 6 ジフルオロベンソニトリル 139 m g を用い、実施例 1 (1) と同様の手法により 3 [(S) -2 ベンジルオキシカルボニルアミノ-6 (2 シアノ-3 フルオロフェニルアミノ) ヘキサノイル] -1 , 3 チアゾリジン 250 m g を得た。
- 5 (2) 上記化合物 2 5 0 m g を用い、実施例 1 (2) と同様の手法により表題 化合物 1 1 0 m g を白色固体として得た。

MS(ESI) m/z 337 [MH] + 実施例4

3-[(S)-2-アミノ-6-(4-ニトロフェニルアミノ) ヘキサノイル] 10-1,3-チアゾリジンの合成

- (1) 参考例1の表題化合物351mg及び4ーフルオロニトロベンゼン141mgを用い、実施例1(1)と同様の手法により3ー[(S)ー2ーベンジルオキシカルボニルアミノー6ー(4ーニトロフェニルアミノ)へキサノイル]ー1、3ーチアゾリジン298mgを得た。
- 15 (2)上記化合物298mgを用い、実施例1(2)と同様の手法により表題 化合物のトリフルオロ酢酸塩の水溶液を得た。これに炭酸カリウムを加えて酢酸 エチルで抽出し、抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより表題化合物66 mgを得た。

MS (ESI) m/z 337 [MH] +

20 実施例 5

3-[(S)-2-アミノ-6-(4-シアノ-2-ニトロフェニルアミノ) へ キサノイル]-1, <math>3-チアソリジンの合成

- (1)参考例1の表題化合物351mg及び4-クロロー3-ニトロベンゾニトリル183mgを用い、実施例1(1)と同様の手法により3-[(S)-2
 25 ーベンジルオキシカルボニルアミノー6-(4-シアノー2-ニトロフェニルアミノ)へキサノイル]-1、3ーチアゾリジン404mgを得た。
 - (2)上記化合物404mgを用い、実施例1(2)と同様の手法により表題 化合物のトリフルオロ酢酸塩の水溶液を得た。これに炭酸カリウムを加えて酢酸 エチルで抽出し、抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより表題化合物12

4mgを得た。

MS (ESI) m/z 364 [MH] +

実施例6

3-[(S)-2-アミノー6-(5-シアノピリジン-2-イルアミノ)へキ5 サノイル]-1,3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

- (1) 参考例1の表題化合物2.00g及び2-200g及び2-200gとアノピリジン1.38gを用いて、実施例1(1)と同様の手法により3-[(S)-2-ベンジルオキシカルボニルアミノ-6-(5-2) アノピリジン-2-4ルアミノ) ヘキサノイル<math>[-1,3-4アゾリジン1.65gを得た。
- 10 (2) 上記化合物1.64gをトリフルオロ酢酸15mLに溶解し、チオアニソール2.1mLを加えて終夜攪拌した。トリフルオロ酢酸を留去後、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより精製し、得られた油状物を酢酸エチルに溶解し、塩酸/酢酸エチルを加えた。析出した固体を濾取することにより、表題化合物0.443gを白色固体として得た。

MS(ESI) m/z 319 [MH] + 実施例7

3-[(S)-2-アミノ-6-(4-メタンスルホニルフェニルアミノ) へキ 20 サノイル] -1, 3-チアソリジンの合成

- (1) 参考例2の表題化合物1.68gをジクロロメタン25mLに溶解し、p-ニトロフェニルカーボネートワングレジン2.15gを加え、3日間撹拌した。溶媒を除去したのち、DMFで1回、メタノールとジクロロメタンで交互に3回、メタノールで3回、レジンを順次洗浄し、減圧下で乾燥した。得られたレジンに20%ピペリジン/DMFを加えて5分間撹拌後濾取する操作を3回繰り返し、レジンをDMFで3回、ジクロロメタンで3回、メタノールで3回、順次洗浄し、減圧下で乾燥した。
 - (2) 上記操作で得られたレジン700mgにN-メチルピロリドン7mLを加え、4-フルオロフェニルメチルスルホン543mgとジイソプロピルエチル

アミン0.544mLを加え100℃で終夜撹拌した。レジンを濾取し、DMFで3回、メタノールとジクロロメタンで交互に3回、メタノールで3回、順次洗浄した。得られたレジンに50%トリフルオロ酢酸/ジクロロメタン7mLを加え、2時間撹拌し、レジンを濾去し、減圧下で濃縮した。得られた残渣をHPLCにより精製し、溶出液に炭酸カリウムを加えて酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより表題化合物26.9mgを得た。

MS (ESI) m/z 372 [MH] +

実施例8

3- [(S) -2-アミノ-6-(2-シアノフェニルアミノ) 今きサムイル]

化多数减热 医人名特勒顿额氏

10 -1, 3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 2 ーフルオロベンゾニトリル 0. 2 7 7 m L を 用い、実施 例 7 (2) と 同様 の 手法 に より 表題 化 合物 3 m g を 得 た。
MS(ESI) m/z 3 1 9 [MH] + 実施 例 9

15 3-[(S)-2-アミノ-6-(4-シアノフェニルアミノ) ヘキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン700 m g 及び4 ーフルオロベンゾニトリル0.27 7 m L を 用いて実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 6.8 m g を 得た。 MS (ESI) m / z 319 [MH] $^+$

20 実施例10

3-[(S)-2-アミノ-6-(4-プロモー2-シアノフェニルアミノ)へキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 2 ーフルオロー 5 ーブロモベンゾニトリル 4 8 0 m g を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物を 2 4.

25 8 m g 得た。

実施例11

MS (ESI) m/z 397, 399 [MH] +

 $3-\{(S)-2-アミノ-6-[4-シアノ-2-(トリフルオロメチル)フェニルアミノ] ヘキサノイル<math>\}-1$, 3-チアゾリジンの合成

実施例7 (1) のレジン700mg及び4-フルオロ-3- (トリフルオロメ チル) ベンゾニトリル453mgを用い、実施例7 (2) と同様の手法により表 題化合物18.8mgを得た。

MS(ESI) m/z 387 [MH] +

5 実施例12

 $3-\{(S)-2-アミノー6-[3-クロロー5-(トリフルオロメチル) ピリジン-2-イルアミノ] ヘキサノイル<math>\}-1$, 3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 2, 3 ージクロロー 5 ー (トリフルオロメチル) ピリジン 5 1 6 m g を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題

10 化合物を16.1mg得た。

MS (ESI) m/z 397, 399 [MH] +

実施例13

 $3-\{(S)-2-アミノ-6-[4-シアノ-3-(トリフルオロメチル) フェニルアミノ] ヘキサノイル<math>\}-1$, 3-チアゾリジンの合成

15 実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 4 ーフルオロー 2 ー (トリフルオロメ チル) ベンゾニトリル 4 5 3 m g を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 8 0. 7 m g を得た。

MS (ESI) m/z 387 [MH] +

実施例14

20 3- [(S)-2-アミノー6-(5-ニトロピリジン-2-イルアミノ)へキ サノイル]-1,3-チアプリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 5 ーニトロー 2 ークロロピリジン 3 7 9 m g を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 2 0 m g を得た。 MS(ESI) m/z 3 4 0 [MH] +

25 実施例15

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 2, 5 ー ジフルオロベンゾニトリル 3 4 m g を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 7. 9 m g を得

た。

MS (ESI) m/z 337 [MH] +

実施例16

3-[(S)-2-アミノ-6-(4-シアノ-2-フルオロフェニルアミノ)

5 ヘキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例7 (1) のレジン700mg及び3, 4ージフルオロベンゾニトリル3 34mgを用い、実施例7 (2) と同様の手法により表題化合物24mgを得た。 MS (ESI) m/z 337 [MH] ⁺

実施例17

10 3-[(S)-2-アミノ-6-(3-クロロ-2-シアノフェニルアミノ) へ キサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7(1) のレジン700 m g 及び2- クロロー6- フルオロベンゾニトリル372 m g を用い、実施例 7(2) と同様の手法により表題化合物 18.7 m g を得た。

15 MS (ESI) m/z 353, 355 [MH] +

実施例18

3-[(S)-2-アミノー6-(3-クロロー4-シアノフェニルアミノ)へキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 2 - クロロー 4 - フルオロベンゾニト 20 リル 3 7 2 m g を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 5 2. 7 m g を得た。

MS (ESI) m/z 353, 355 [MH] +

実施例19

25 キサノイル] -1, 3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 5 ー クロロー 2 ー フルオロベンゾニトリル 3 7 2 m g を 用い、実施 例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 7 7. 3 m g を 得た。

 $MS^{-}(ESI) m/z 353 (355 [MH] +$

実施例20

3-[(S)-2-アミノー6-(2-プロモー4-シアノフェニルアミノ)へキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 3 - プロモー 4 - フルオロベンゾニト リル 4 7 7 m g を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 8 0.3 m g を得た。

MS (ESI) m/z 397, 399 [MH] +

実施例21

3- [(S) -2-アミノ-6-(2-シアノ-5-プロモフェニルアミノ) へ

10 キサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン700 m g 及び2 ーフルオロー4 ープロモベンゾニトリル477 m g を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 54.9 m g を得た。

MS (ESI) m/z 397 (399 [MH] +

15 実施例22

3-[(S)-2-アミノ-6-(2-シアノ-4-トリフルオロメチルフェニルアミノ) ヘキサノイル]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 2 - フルオロー 5 - (トリフルオロメ チル) ベンソニトリル 4 5 4 m g を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表

20 題化合物 7.3 9 m g を得た。

MS (ESI) m/z 397 [MH] +

実施例23

3-[(S)-2-アミノ-6-(5-トリフルオロメチルピリジン-2-イルアミノ) ヘキサノイル] <math>-1, 3-チアゾリジンの合成

25 実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 2 ー クロロー 5 ー トリフルオロメチル ピリジン 4 3 4 m g を用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 1 0 m g を得た。

MS (ESI) m/z 363 [MH] +

実施例24

3-[(S)-2-アミノ-6-(ピリミジン-2-イルアミノ) ヘキサノイル]-1, <math>3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 2 ー クロロピリミジン 2 7 4 m g を 用い、実施例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 1 3. 2 m g を 得た。

5 MS (ESI) m/z 296 [MH] + 実施例25

3-[(S)-2-アミノー6-(4-トリフルオロメチルピリミジン-2-イルアミノ) ヘキサノイル<math>]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例7 (1) のレジン700mg及び2-クロロー4-トリフルオロメチル
10 ピリミジン437mgを用い、実施例7 (2) と同様の手法により表題化合物5
4.6mgを得た。

MS (ESI) m/z 364 [MH] +

実施例26

3-[(S)-2-アミノー6-(3-シアノピリジン-2-イルアミノ)へキサノイル]-1,3-チアゾリジンの合成

実施例 7 (1) のレジン 7 0 0 m g 及び 2 ー クロロー 3 ー シアノピリジン 3 3 1 m g を 用い、実施 例 7 (2) と同様の手法により表題化合物 3 0. 8 m g を 得た。

MS (ESI) m/z 320 [MH] +

20 実施例27

15

25

3-[(S)-2-アミノ-6-(2-シアノ-4-ニトロフェニルアミノ)へキサノイル<math>]-1, 3-チアゾリジンの合成

実施例7 (1) のレジン700mg及び2-フルオロー5-ニトロベンゾニトリル398mgを用い、実施例7 (2) と同様の手法により表題化合物59.4mgを得た。

MS (ESI) m/z 364 [MH] +

実施例28

 $3-\{(S)-2-アミノ-6-[4-(2-トリフルオロメチル-4-キノリル) ピペラジン-1-イル] ヘキサノイル<math>\}-1$, 3-チアプリジン・2塩酸塩

の合成

(1) $N-\alpha-$ ベンジルオキシカルボニル $-N-\epsilon-$ tert-プトキシカルボニル-L-リジン8.60gをギ酸50mLに溶解し、室温にて終夜撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、残渣を酢酸100mLに溶解させ、酢酸ナトリウム1.85g及び亜硝酸ナトリウム4.68gを加え、40Cで終夜撹拌した。反応溶液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより(S)-6-アセトキシ-2-(ベンジルオキシカルボニル)アミノヘキサン酸3.52gを得た。

- (2) 上記化合物 3. 2 3 gをDMF 6 0 m L に溶解し、チアソリジン 0. 7 9 m L、HOBT 一水和物 1. 6 8 g 及びED C の塩酸塩 2. 1 gを順次加え、室温下で終夜撹拌した。反応溶液を減圧濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより 3 ー [(S) ー 6 ー アセトキシー 2 ー (ベンジルオキシカルボニル) アミノヘキサノイル] ー 1, 3 ー チアゾリジン 1. 5 g を得た。
- - 乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより精製することにより3-{(S)-2-ベンジルオキシカルボニルアミノー6-[4-(2-トリフルオロメチルー4-キノリル)ピペラジン-1-イル]へキサノイル}-1,3-チアゾリジン270mgを得た。

PCT/JP02/09419 WO 03/024942

(5) 上記化合物260mgをトリフルオロ酢酸5mLに溶解し、チオアニソ ール0.5mLを加えて室温にて終夜攪拌した。トリフルオロ酢酸を留去後、飽 和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、 滅圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにより精製し、得 られた油状物を酢酸エチルに溶解し、塩酸/酢酸エチルを加えた。析出した固体 を濾取することにより、表題化合物22.9mgを白色固体として得た。

MS (ESI) m/z 481 [MH]

実施例29

以下京都不 "安静中,截横倒,第五十八条藏口中,传》是 2-ピロリジニルカルボニル -1,3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成 10 (1) 参考例3の表題化合物1.50g及び2-(1-ピペラジニル)ピリミジン 0.903gを1,2-ジクロロエタン25mLに溶解し、酢酸0.29mL及 びトリアセトキシ水素化ホウ素ナトリウム2.12gを加え、室温で16時間攪 拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出し た。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残査をシリカゲ 15 ルカラムクロマトグラフィーで精製することにより3ー((2S,4S)-1tert-ブトキシカルボニルー4-[4-(2-ピリミジニル)-1-ピペラ ジニル] -2-ピロリジニルカルボニル $\} -1$, 3-チアゾリジン2. 12gを 白色固体として得た。

(2)上記化合物 2. 1 2 g を 5. 6 m o 1 / L 塩酸ーエタノール溶液 1 0 m L 20 に溶解し、室温にて22時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮することにより表 題化合物2.05gを白色固体として得た。

 1 H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 33 (1H, m), 2. 92-4. 33 (15H, m), 4. 47-4. 77 (5H, m), 6. 79 (1H, t, J=4. 8 Hz), 8. 46 (2H, d, J=4. 8 Hz), 9. 14 (1H, br 25 s), 11. 01 (1H, brs).

実施例30

3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-トリフルオロメチルー6-フェニルー 2-ピリミジニル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1;

3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

(1) 4, 4, 4ートリフルオロー1ーフェニルー1, 3ーブタンジオン10. 8g及び尿素 6. 01gをエタノール25mLに溶解し、濃塩酸5mLを加え、

- 2.5時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、水を加え、クロロホルムで 洗浄した。水層に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、析出物を濾取すること により2ーヒドロキシー4ーフェニルー6ートリフルオロメチルピリミジン5. 03gを淡桃色結晶性粉末として得た。
- (2)上記化合物5.03gにオキシ塩化リン7.8mLを加え、100℃にて9時間攪拌した。反応液に氷を加え、5mo1/L水酸化ナトリウム水溶液を加えて塩基性とした後、析出物を濾取することにより2ークロロー4ーフェニルー6ートリフルオロメチルピリミジン5.71gを白色固体として得た。
- (3) ピペラジン25.8gを130℃にて融解し、上記化合物13.1gを加え、2時間攪拌した。反応液に水を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣にヘキサンを加え、析出物を適取することにより1-(4-トリフルオロメチル-6-フェニル-2-ピリミジニル) ピペラジン2.92gを白色固体として得た。
 - (4) 参考例3の表題化合物0.601g及び上記化合物0.678gを用い、 実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブ トキシカルボニル-4-[4-(4-トリフルオロメチル-6-フェニル-2-
- 20 ピリミジニル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3. 一チアゾリジン1. 18gを白色固体して得た。
 - (5) 上記化合物 1. 18 g を用い、実施例 29 (2) と同様の手法により表題 化合物 1. 0 2 g を白色粉末として得た。

¹ H-NMR (DMSO-d ₆) δ2. 29 (1H, m), 2. 90-4. 05 25 (15H, m), 4. 37-4. 86 (5H, m), 7. 54-7. 65 (3H, m), 7. 76 (1H, s), 8. 27-8. 30 (2H, m), 9. 15 (1H, brs), 10. 76 (1H, brs).

実施例31.

3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチル-4-ピリミジニ

ル) -1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアソリジン・2塩酸塩の合成

- (1) 2ートリフルオロメチルー4ーヒドロキシピリミジン2. 50gにオキシ塩化リン15mLを加え、60℃にて1時間攪拌した。減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルにて抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより2ートリフルオロメチルー4ーヒドロキシピリミジン0. 600gを茶褐色油状物として得た。
- (2) ピペラジン845mgをDMF6mLに加熱下溶解させ、40℃で上記化合物597mgのDMF溶液1mLを加え、室温にて2時間攪拌した。反応液を
 10 減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより1-(2-トリフルオロメチル-4-ピリミジニル) ピペラジン680mgを茶褐色固体として得た。
- (3) 参考例3の表題化合物0.832g及び上記化合物0.676gを用い、 実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブ 15 トキシカルボニルー4-[4-(2-トリフルオロメチルー4-ピリミジニル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン1. 28gを淡褐色固体して得た。
- (4) 上記化合物1.27gをエタノール3mLに溶解し、4.1mol/L塩酸-エタノール溶液3mLを加え、室温にて13時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に酢酸エチルを加え、析出物を濾取することにより表題化合物1.02gを白色固体として得た。

 1 H-NMR (DMSO-d $_{6}$) δ 2. 15-2. 33 (1H, m), 2. 90-4. 05 (16H, m), 4. 45-4. 78 (3H, m), 7. 24 (1H, d, J=6. 3Hz), 8. 45 (1H, d, J=6. 3Hz), 9. 12 (1H, brs), 10. 83 (1H, brs), 12. 7 (1H, brs).

実施例32

25

 $3-((2S, 4S)-4-\{4-[1-(4-メトキシフェニル)-2-イミダゾリル]-1-ピペラジニル\}-2-ピロリジニルカルボニル)-1,3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成$

(1) 1ーベンジルオキシカルボニルピペラジン6.35gをアセトン40mLに溶解し、氷冷下イソチオシアン酸4ーメトキシフェニル5.19gを加え、室温下で2日間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣をジクロロメタン80mLに溶解し、氷冷下ヨウ化メチル2.7mLを加え、室温にて17時間攪拌した。反応液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液に加え、ジクロロメタンで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより1ーベンジルオキシカルボニルー4ー[(メチルチオ)(4ーメトキシフェニル)イミノメチル]ピペラジン12.8gを褐色油状物として得た。

- (2) 上記化合物12.8g及びアミノアセトアルデヒドジメチルアセタール6.10 1mLをピリジン60mLに溶解し、110℃で25時間加熱攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣を2mo1/L塩酸120mLに溶解し、100℃で1時間加熱した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食地水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーで精製することにより1ーベンジルオキシカルボニルー4ー [1-(4-メトキシフェニル)-2-イミダゾリル]ピペラジン7.91gを茶褐色油状物として得た。
- 25 (4)上記化合物 6 2 4 m g 及び参考例 3 の表題化合物 6 0 1 m g を用い、実施例 2 9 (1)と同様の手法により 3 ((2 S, 4 S) 1 tert-ブトキシカルボニルー4 {4 [1 (4 メトキシフェニル) 2 イミダゾリル] 1 ピペラジニル} 2 ピロリジニルカルボニル) 1, 3 チアゾリジン4 1 6 m g を白色固体として得た。

(5) 上記化合物411mgを酢酸エチル1mLに溶解し、4mol/L塩酸-酢酸エチル1mLを加え、室温下18時間攪拌した。析出物を濾取することによ り表題化合物413mgを白色粉末として得た。

 1 H-NMR (DMSO-d 6) 82. 04-2. 20 (1H, m), 2. 82-4. 00 (16H, m), 4. 42-4. 75 (3H, m), 7. 15 (1H, d, J=8.9Hz), 7. 42-7.47(2H, m), 7. 59(1H, d)J=8.9Hz), 9.04 (1H, brs), 10.88 (1H, brs), 14. 1 (1H, brs). 化自用 医胸侧皮膜 医甲烷二烷 一种,只是最好几个。位于这个主

実施例33

- 3-{(25, 45) -4-[4-(1-フェニル-5 2.1 种广泛多级和金速 10 合成
- (1) 3, 3-ジエトキシプロピオン酸エチル5. 34gをテトラヒドロフラン 60mLに溶解し、室温にて1mol/L水酸化ナトリウム水溶液29mLを加 え、12時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣をDMF60mLに懸濁 15 させ、室温にてHOBT5.16g、EDCの塩酸塩6.46g及び1-ベンジ ルオキシカルボニルピペラジン6.20gを加え、室温にて6時間攪拌した。溶 媒を減圧下で留去し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和炭 酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒を減圧下で 留去した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-ベ 20 ンジルオキシカルボニルー4ー(3,3-ジエトキシプロピオニル)ピペラジン 10.0gを油状物として得た。
- (2) 上記化合物 3. 28gをクロロホルム30mLに溶解し、氷冷下50%ト ·リフルオロ酢酸水溶液20mLを加え、室温にて24時間攪拌した。反応液をク ロロホルムにて抽出した。抽出液を水および飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、 25 溶媒を減圧下で留去した。残渣をエタノール60mLに溶解させ、室温にてフェ ニルヒドラジン0. 886mLとメタンスルホン酸0. 060mLを加え、3時 間攪拌した。反応液にピリジン1mLを加え、溶媒を減圧下で留去した。残渣を ピリジン50mLに溶解し、オキシ塩化リン1.68mLを加え、室温にて18

時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄、乾燥後、溶媒を減圧下で留去した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1ーベンジルオキシカルボニルー4ー(1ーフェニルー5ーピラゾリル)ピペラジン0.218gを油状物として得た。

- (3) 上記化合物 2 1 8 m g をメタノール 1 0 m L に溶解し、1 0 % パラジウム / 炭素 2 0 0 m g を加え、水素雰囲気下室温にて 6 時間攪拌した。反応液を濾過し、濾液を減圧下で濃縮することにより 1 ー (1 ーフェニルー 5 ーピラゾリル) ピペラジン 1 3 7 m g を白色粉末として得た。
- 10 (4)上記化合物137mg及び参考例3の表題化合物180mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-プトキシカルボニル-4-[4-(1-フェニル-5-ピラゾリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン204mgを白色粉末として得た。
- 15 (5)上記化合物204mgをメタノール10mLに溶解させ、室温にて4mo 1/Lの塩酸/酢酸エチル3mLを加えて64時間攪拌した。反応液を減圧下で 濃縮し、残渣をメタノールに溶解させ、酢酸エチルを加え、析出物を濾取するこ とにより表題化合物170mgを白色固体として得た。

 1 H-NMR (500MHz, DMSO-d ₆) δ 2. 10-2. 30 (1H,

- 20 m), 2.80-4.10(16H, m), 4.46-4.74(3H, m),
 6.10(1H, d, J=1.7Hz), 7.34-7.37(1H, m), 7.
 49-7.52(2H, m), 7.56(1H, d, J=1.7Hz), 7.7
 9-7.81(2H, m), 9.07(1H, brs), 10.65(1H, brs).
- 25 実施例34

 $3-((2S, 4S)-4-\{4-[1-(4-フルオロフェニル)-5-ピラプリル]-1-ピペラジニル\}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアプリジン・3 塩酸塩の合成$

(1) 実施例33 (1) の生成物5. 70 g及び4-フルオロフェニルヒドラジ

ン1. 0.5 gを用い、実施例33(2)と同様の手法により1-ベンジルオキシカルボニル-4-[1-(4-フルオロフェニル)-5-ピラゾリル]ピペラジン0. 075 gを油状物として得た。

- (2) 上記化合物 6 2 m g と 1 0 % パラジウム/炭素 1 0 m g を用い、実施例 3 (3) と同様の手法により 1 ー [1 ー (4 ーフルオロフェニル) ー 5 ーピラゾリル] ピペラジン 4 0 m g を 白色粉末として得た。
 - (3) 上記化合物 4 0 m g 及び参考例 3 の表題化合物 4 8 m g を用い、実施例 2 9 (1) と同様の手法により 3 ((2 S, 4 S) 1 t e r t プトキシカルボニルー4 {4 [1 (4 フルオロフェニル) 5 ピラゾリル] 1 ピペラジニル} 2 ピロリジニルカルボニル) 1, 3 チアゾリジン 7 6 m g を白色粉末として得た。
 - (4) 上記化合物 7 6 m g を用い、実施例 3 3 (5) と同様の手法により表題化合物 5 6 m g を白色固体として得た。

実施例35

- 3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(4-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1,3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成
 - (1) 1-tertーブトキシカルボニルピペラジン103gをDMF600m Lに溶解し、室温にてジケテン56mLを20分間かけて加えて2時間攪拌した。
- 25 溶媒を減圧下で留去後、残渣を酢酸エチルで希釈し、水および飽和食塩水で洗浄 した。乾燥後、溶媒を減圧下で留去することにより1-アセトアセチルー4-t ert-ブトキシカルボニルピペラジン129gを淡褐色粉末として得た。
 - (2) 上記化合物 3. 9 2 g をエタノール 2 0 0 m L に溶解し、室温にて 4 ーフルオロフェニルヒドラジン塩酸塩 2. 3 6 g 及びモレキュラーシーブス 3 A 1 0

gを加え、4時間攪拌した。モレキュラーシーブスを濾去し、濾液にピリジン4mLを加え、溶媒を減圧留去した。残渣をピリジン200mLに溶解させ、室温にてオキシ塩化リン3.0mLを加え、18時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-tertープトキシカルボニルー4-[1-(4-フルオロフェニル)-3-メチルー5-ピラゾリル]ピペラジン2.03gを褐色油状物として得た。

- (3)上記化合物 2.03gをジクロロメタン20mLに溶解させ、室温にてト 10 リフルオロ酢酸 4mLを加えて18時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残 渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾 燥後、減圧下で濃縮することにより1-[1-(4-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]ピペラジン1.42gを褐色油状物として得た。
- (4)上記化合物1.42g及び参考例3の表題化合物1.36gを用い、実施
 15 例29(1)と同様の手法により3-((2S, 4S)-1-tert-プトキシカルボニルー4-{4-[1-(4-フルオロフェニル)-3-メチルー5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1,3ーチアゾリジン1.85gを白色粉末として得た。
- (5) 上記化合物1. 85gをメタノール10mL及びクロロホルム5mLに溶20 解し、4mol/L塩酸-酢酸エチル溶液5mLを加え、18時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮することにより表題化合物1. 37gを白色固体として得た。1H-NMR (DMSO-d 6) δ2. 17 (3H, s); 2. 20-2. 40 (1H, m), 2. 90-4. 35 (16H, m), 4. 43-4. 82 (3H, m), 5. 95 (1H, s), 7. 21-7. 37 (2H, m), 7. 74-7.
 25 8.9 (2H, m), 9. 13 (1H, brs), 11. 10 (1H, brs).
- 実施例36 3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(2-フルオロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-

1,3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

(1) 実施例35 (1) の生成物1.92gをエタノール50mLに溶解し、室温にて2ーフルオロフェニルヒドラジン塩酸塩1.16gを加え、4時間攪拌した。反応液にピリジン1mLを加え、溶媒を減圧下で留去した。残渣をピリジン30mLに溶解し、室温にてオキシ塩化リン1.33mLを加え、19時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄、乾燥後、溶媒を減圧下で留去した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-tertーブトキシカルボニルー4-[1-(2-フルオロフェニル)ー3ーメチルー5ーピラゾリル]ピペラジン0.640gを油状物として得た。

- 10 (2) 上記化合物 6.4.0 m g をジクロロメタン 1.0 m L に溶解し、室温にてよりフルオロ酢酸 3 m L を加えて 3 時間攪拌した。溶媒を減圧下で留去し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で留去することにより 1 ー [1 ー (2 ー フルオロフェニル) ー 3 ーメチルー5 ーピラゾリル] ピペラジン 4.30 m g を油状物として得た。
- 15 (3) 上記化合物 4 3 0 m g 及び参考例 3 の表題化合物 4 7 2 m g を用い、実施例 2 9 (1) と同様の手法により 3 ((2 S, 4 S) 1 t e r t プトキシカルボニル 4 {4 [1 (2 フルオロフェニル) 3 メチル 5 ピラゾリル] 1 ピペラジニル} 2 ピロリジニルカルボニル) 1, 3 チアゾリジン 7 7 8 m g を淡黄色粉末として得た。
- 20 (4) 上記化合物 7 7 8 m g をジクロロメタン 5 m L に溶解し、室温にてトリフルオロ酢酸 5 m L を加えて 1 時間攪拌した。溶媒を減圧下で留去し、残渣を酢酸エチル 2 0 m L に溶解させた。この溶液に 4 m o 1 / L の塩酸/酢酸エチル 1.5 m L を加え、析出物を濾取することにより表題化合物 6 0 8 m g を白色固体として得た。
- 25 ¹ H-NMR (500MHz, DMSO-d₆) δ2.03-2.25 (1H, m), 2.16 (3H, s), 2.72-4.00 (16H, m), 4.45-4.71 (3H, m), 5.91 (1H, s), 7.32-7.35 (1H, m), 7.40-7.44 (1H, m), 7.51-7.57 (2H, m), 9.02 (1H, brs), 10.41 (1H, brs).

実施例37

 $3-((2S, 4S) - 4 - \{4 - [1 - (3 - 7) ル オロフェニル) - 3 - メチル - 5 - ピラゾリル] - 1 - ピペラジニル - 2 - ピロリジニルカルボニル) - 1、<math>3-$ チアゾリジン・3 塩酸塩の合成

- 5 (1) 実施例35(1) の生成物5.10g及び3-フルオロフェニルヒドラジン塩酸塩3.22gを用い、実施例36(1) と同様の手法により1-tert ーブトキシカルボニルー4-[1-(3-フルオロフェニル)-3-メチル-5 ーピラゾリル] ピペラジン1.55gを黄色固体として得た。
- (2) 上記化合物1.55gを用い、実施例36(2)と同様の手法により、1
 10 [1-(3-フルオロフェニル)-3-メチルー5-ピラゾリル]ピペラジン1.12gを油状物として得た。

 - (4) 上記化合物1.97gを用い、実施例36(4)と同様の手法により、表題化合物1.60gを白色固体として得た。
- ¹ H-NMR (DMSO-d₆) δ2. 10-2. 35 (1H, m), 2. 17
 20 (3H₇ s), 2. 9,0-4. 15 (16H, m), 4. 46-4. 76 (3H, m), 5. 98 (1H, s), 7. 11-7. 19 (1H, m), 7. 47-7. 55 (1H, m), 7. 59-7. 64 (1H, m), 7. 70-7. 73 (1H, m), 9. 09 (1H, brs), 10. 79 (1H, brs). 実施例38
- 3-((2S, 4S) -4-{4-[1-(4-クロロフェニル) -3-メチル -5-ピラゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成
 - (1) 実施例35 (1) 化合物5.0g及び4ークロロブェニルヒドラジン塩酸塩3.5gを用い、実施例35 (2) と同様の手法により1ーtertーブトキ

シカルボニルー4ー [1-(4-クロロフェニル)-3-メチルー5-ピラゾリル]ピペラジン2. 2gを褐色固体として得た。

- (2) 上記化合物 2. 2 g を用い、実施例 3 6 (2) と同様の手法により 1 [1-(4-クロロフェニル) 3-メチル-5-ピラゾリル] ピペラジン 1.
- 5 7gを褐色油状物として得た。

実施例39

25

- (3) 上記化合物 1. 7g及び参考例 3の表題化合物 1. 5gを用い、実施例 2 9 (1) と同様の手法により $3-((2S, 4S)-1-tert-プトキシカルボニル-4-{4-[1-(4-クロロフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)、<math>-1$ 、3-チアゾ
- 10 リジン2.8gを白色固体として得た。 (4) 上記化合物2.8gを酢酸エチル20mLに溶解し、室温にて4mol/Lの塩酸-酢酸エチル40mLを加えて3時間攪拌した。析出物を濾取することにより表題化合物2.2gを白色粉末として得た。
- ¹ H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 17 (3H, s), 2. 25-2. 40

 15 (1H, m), 2. 95-4. 15 (17H, m), 4. 46-4. 77 (3H, m), 5. 97 (1H, s), 7. 48-7. 53 (2H, m), 9. 13 (1H, brs), 11. 01 (1H, brs).
- $3-((2S, 4S)-4-\{4-[1-(4-シアノフェニル)-3-メチル 20 -5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル<math>\}-2-$ ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン・2 塩酸塩の合成
 - (1) 実施例 35 (1) の生成物 5. 0 g および 4 シアノフェニルヒドラジン 塩酸塩 3. 3 g を用い、実施例 3 5 (2) と同様の手法により 1 t e r t ブトキシカルボニル 4 [1 (4 シアノフェニル) 3 メチル 5 ピラ ソリル] ピペラジン 2. 7 g を淡黄色固体として得た。
 - (2) 上記化合物 2. 7 gを用い、実施例 3 6 (2) と同様の手法により 1 ー [1-(4-シアノフェニル) -3-メチル-5-ピラゾリル] ピペラジン 2. 1 gを淡黄色固体として得た。
 - (3) 上記化合物 2. 1 g及び参考例 3 の表題化合物 1. 8 gを用い、実施例 2

9(1)と同様の手法により3-((2S, 4S)-1-tert-プトキシカルボニル-4-{4-[1-(4-シアノフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン3. 2gを白色固体として得た。

5 (4)上記化合物3.2gを用い、実施例38(4)と同様の手法により表題化合物2.3gを白色粉末として得た。

¹ H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 19 (3H, s), 2. 20-2. 40 (1H, m), 2. 95-4. 15 (17H, m), 4. 46-4. 77 (3H, m), 6. 05 (1H, s), 7. 91 (2H, d, J=9. 0Hz), 8. 0

10 8 (2H, d, J=9.0Hz), 9.13 (1H, brs), 10.09 (1 H, brs).

実施例40

 $3-((2S, 4S)-4-\{4-[3-メチル-1-(2-ピリジル)-5-ピラブリル]-1-ピペラジニル\}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアブリジン・2塩酸塩の合成$

- (1) 実施例35(1) の生成物3.92gをエタノール200mLに溶解し、室温にて2ーヒドラジノピリジン1.58g、メタンスルホン酸0.094mL及びモレキュラーシーブス3A10gを加え、18時間攪拌した。モレキュラーシーブスを濾去し、濾液にピリジン4mLを加え、溶媒を減圧下で留去した。残渣をピリジン200mLに溶解し、室温にてオキシ塩化リン3.0mLを加えて
- - (2) 上記化合物230mgをジクロロエタン10mLに溶解し、室温にてトリフルオロ酢酸2mLを加えて1時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより1-[3-メチル-1-(2-ピリジル)-5

-ピラゾリル] ピペラジン180mgを得た。

- (3) 上記化合物 180 m g 及び参考例 3の表題化合物 222 m g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3- ((2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニルー4- {4- [3-メチルー1-(2-ピリジル) -5-ピラゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン 284 m g を淡黄色油状物として得た。
- (4) 上記化合物284mgをメタノール4mL及びクロロホルム2mLに溶解し、4mol/L塩酸一酢酸エチル溶液6mLを加え、2時間攪拌した。反応液を減圧下にて濃縮することにより表題化合物176mgを白色固体として得た。
 10 ¹ H-NMR (DMSO-d 6) δ 2. 19 (3H, s), 2. 24-2 4 (1H, m), 2. 88-4. 20 (16H, m), 4. 42-4. 80 (3H, m)
 - m), 5. 99 (1H, s), 7. 30-7. 40 (1H, m), 7. 77 (1 H, d, J=8. 3Hz), 7. 92-8. 01 (1H, m), 8. 46-8.
 - 54 (1H, m), 9. 14 (1H, brs), 11. 05 (1H, brs).
- 15 実施例41
 - $3-((2S, 4S)-4-\{4-[3-メチル-1-(3-ピリジル)-5- ピラゾリル]-1-ピペラジニル\}-2-ピロリジニルカルボニル)-1,3-チアゾリジン・<math>3$ マレイン酸塩の合成
- (1) 3-アミノピリジン20gを濃塩酸125mLに溶解し、-10℃にて亜 30 硝酸ナトリウム15gの水溶液40mLを20分間かけて加え、0℃にて2時間 攪拌した。この溶液を-2℃にて塩化スズ (II) 80gの濃塩酸溶液200m Lに20分間かけて加え、14時間攪拌した。析出物を濾去して氷を加え、50%水酸化カリウム水溶液で強塩基性にした後ジクロロメタンで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣を酢酸エチル400mLに溶解し、氷冷下にて4mo1/Lの塩酸-酢酸エチル55mLを加え、析出物を濾取することにより3-ヒドラジノピリジン2塩酸塩18gを淡黄色固体として得た。
 - (2) 上記化合物3.5 gをエタノール100mLに懸濁し、室温にて実施例3 5 (1) の生成物5.0 g、モレキュラーシーブス3A10 g及びピリジン20 mLを加え、2時間攪拌した。反応液にピリジン100mLを加え、濾過し、濾

液を減圧下で濃縮した。残渣をピリジン100mLに懸濁し、室温にてオキシ塩化リン3.8mLを加え、13時間撹拌した。反応液を減圧下にて濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、溶媒を減圧下で留去し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-tertーブトキシカルボニル-4-[3-メチル-1-(3-ピリジル)-5-ピラゾリル]ピペラジン1.3gを褐色固体として得た。

- (3) 上記化合物 1. 3 g を 用い、実施 例 3 6 (2) と 同様 の 手法 に より、 1 ー [3 メチルー 1 (3 ピリジル) 5 ピラゾリル] ピペラジン 8 7 6 m g を 褐色油 状物 と して 得 た。
- 10 (4) 上記化合物 0. 8 7 6 g 及び参考例 3 の表題化合物 0. 9 0 0 g を用い、 実施例 2 9 (1) と同様の手法により 3 - ((2 S, 4 S) - 1 - t e r t - ブ トキシカルボニルー4 - {4 - [3 - メチルー1 - (3 - ピリジル) - 5 - ピラ ゾリル] - 1 - ピペラジニル} - 2 - ピロリジニルカルボニル) - 1, 3 - チア ゾリジン 1. 5 g を褐色油状物として得た。
- 15 (5) 上記化合物 1. 5 g を酢酸エチル 2 0 m L に溶解し、室温にて 4 m o 1 / L の塩酸 酢酸エチル 4 0 m L を加えて 1 4 時間攪拌した。反応後、水及び 1 m o 1 / L 塩酸を加え、水層を分け、1 0 m o 1 / L 水酸化ナトリウム水溶液で強塩基性にした後、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をエタノール 1 0 0 m L に溶解し、氷冷下でマレイン酸 9 5 0 m g のエタノ

¹ H-NMR (DMSO-d₆) δ1. 60-1. 78 (1H, s), 2. 17 (3H, s), 2. 50-3. 90 (20H, m), 4. 42-4. 71 (4H, m), 5. 91 (1H, s), 6. 19 (6H, s), 7. 49-7. 53 (1 25 H, m), 8. 12-8. 16 (1H, m), 8. 18-8. 50 (1H, m), 8. 98-8. 99 (1H, m).

実施例42

 $3-((2S, 4S) - 4 - \{4 - [3 - \cancel{\forall} + \cancel{\forall} +$

チアゾリジン・3マレイン酸塩の合成

- (1) 4-クロロピリジン塩酸塩14gをヒドラジン一水和物50mLに加え、120℃にて1時間攪拌した。反応液に1mol/Lの水酸化ナトリウム水溶液100mL及び食塩を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣を酢酸エチル100mLに溶解し、氷冷下にて4mol/Lの塩酸一酢酸エチル50mLを加え、析出物を濾取することにより4-ヒドラジノピリジン・2塩酸塩16gを淡黄色固体として得た。
- (2) 上記化合物 3. 5 g 及び実施例 3 5 (1) の生成物 5. 0 g を用い、実施例 4 1 (2) と同様の手法により 1 t e r t ブトキシカルボニル 4 [3 0 -メチル 1 (4 ピリジル) 5 ピラゾリル] ピペラジン 3. 4 g を淡黄色固体として得た。
 - (3) 上記化合物 3. 4 g を用い、実施例 3 6 (2) と同様の手法により 1 ー [3-メチルー1-(4-ピリジル) 5-ピラゾリル] ピペラジン 2. 4 g を 淡黄色固体として得た。
- 15 (4)上記化合物 2. 4 g及び参考例 3 の表題化合物 2. 5 gを用い、実施例 2
 9 (1)と同様の手法により 3 ((2S, 4S) 1 tert-プトキシカルボニル-4 {4 [3 メチル-1 (4 ピリジル) 5 ピラゾリル] 1 ピペラジニル} 2 ピロリジニルカルボニル) 1, 3 チアゾリジン4. 1 gを白色固体として得た。
- 20 (5) 上記化合物 4. 1 g を 用い、実施例 4 1 (5) と同様の手法によりにより 表題化合物 4. 3 g を 白色粉末として得た。

 1 H-NMR (DMSO-d $_{6}$) δ 1. 60-1. 80 (1H, m), 2. 18 (3H, s), 2. 55-3. 90 (20H, m), 4. 43-4. 72 (4H, m), 5. 98 (1H, s), 6. 18 (6H, s), 7. 92-7. 94 (2

25 H, m), 8. 61-8. 63 (2H, m). 実施例43

 $3-((2S, 4S) - 4- \{4-[1-(5-シアノ-2-ピリジル) - 3- メチル-5-ピラゾリル] - 1-ピペラジニル <math>\}$ - 2-ピロリジニルカルボニル) - 1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成

(1) 2ークロロー5ーシアノピリジン5.0gをTHF100mLに溶解し、ヒドラジン一水和物9.0mLに加え3時間還流した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液および食塩を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより2ーシアノー5ーヒドラジノピリジン4.3gを薄茶色固体として得た。

- (2) 上記化合物 2. 6 gをエタノール 2 0 0 m L の懸濁し、室温にて実施例 3 5 (1) の生成物 5. 0 g、モレキュラーシーブス 3 A 1 0 g およびメタンスルホン酸 2. 6 gを加え 1 8 時間攪拌した。反応液にピリジン 1 0 m L を加え、モレキュラーシープス 3 A を濾去にて除き、濾液を減圧下で濃縮した。残渣をピリジン 2 0 0 m L に溶解し、室温にてオキシ塩化リン 3. 8 m L を加えて 1 5 時間
- 10 ジン200mLに溶解し、室温にてオキシ塩化リン3.8mLを加えて15時間 攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加 え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を水及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、 減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1-tertープトキシカルボニルー4-[1-(5-シアノー2-ピリジル)
 - 15 -3ーメチルー5ーピラゾリル]ピペラジン1.3gを淡黄色固体として得た。 (3)上記化合物1.3gを用い、実施例36(2)と同様の手法により1ー [1-(5-シアノー2-ピリジル)-3-メチルー5-ピラゾリル]ピペラジン1.1gを褐色固体として得た。
- (4)上記化合物1.1g及び参考例3の表題化合物0.900gを用い、実施20 例2.9(1)と同様の手法により3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニルー4-{4-[1-(5-シアノー2-ピリジル)-3-メチルー5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル)-2-ピロリジニルカルボニル)-1,3-チアゾリジン1.6gを白色固体として得た。
- (5) 上記化合物 1. 6 g を用い、実施例 3 8 (4) と同様の手法により表題化 25 合物 1. 3 g を白色粉末として得た。

 1 H-NMR (DMSO-d $_{6}$) δ 2. 21 (3H, s), 2. 25-2. 45 (1H, m), 2. 95-4. 19 (17H, m), 4. 47-4. 77 (3H, m), 6. 05 (1H, s), 7. 97 (1H, d, J=8. 7Hz), 8. 3 7 (1H, dd, J=8. 7, 2. 3Hz), 8. 93 (1H, d, J=2. 3

Hz), 9. 15 (1H, brs), 10. 80 (1H, brs). 実施例44

 $3-\{(2S,4S)-4-[4-(3-トリフルオロメチルー1-フェニルー 5-ピラゾリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル<math>\}-1$, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

- (1) 1ーベンジルオキシカルボニルピペラジン19.0gをピリジン150m Lに溶解し、室温にて無水酢酸9.0mLを加えて18時間攪拌した。反応液を 減圧下で濃縮し、残渣に10%クエン酸水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。 抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより4ーアセチ ルー1ーベンジルオキシカルボニルピペラジン22.6gを油状物として得た。
- (2)上記化合物7.12gをテトラヒドロフラン150mLに溶解し、-7.8℃において1mo1/Lリチウムピストリメチルシリルアミドーテトラヒドロフラン溶液41mLを40分かけて滴下した。その温度で1時間攪拌後、反応液にトリフルオロ酢酸エチル4.85mLのテトラヒドロフラン20mL溶液を加え、ゆっくり室温まで昇温し、18時間攪拌した。反応液に飽和塩化アンモニウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-ベンジルオキシカルボニル-4-トリフルオロアセトアセチルピペラジン
- (3)上記化合物1.96gおよびフェニルヒドラジン0.540mLを用い、
 実施例36(1)と同様の手法により1ーベンジルオキシカルボニルー4ー(3ートリフルオロメチルー1ーフェニルー5ーピラゾリル)ピペラジン0.416gを油状物として得た。

7. 35gを淡黄色固体として得た。

- (4) 上記化合物416mgを用い、実施例33(3)と同様の手法により1-25 (3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル)ピペラジン286mgを白色固体として得た。
 - (5) 上記化合物 2 8 6 m g 及び参考例 3 の表題化合物 2 8 0 m g を用い、実施例 2 9 (1) と同様の手法により 3 {(2S, 4S) 1 tert-プトキシカルボニル-4-[4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラグ

リル) -1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル $\}-1$, 3-チアゾリジン322 mg を淡褐色粉末として得た。

- (6)上記化合物322mgを用い、実施例33(5)と同様の手法により表題 化合物294mgを白色固体として得た。
- 5 ¹H-NMR (DMSO-d₆) δ2. 00-2. 28 (1H, m), 2. 80-4. 00 (16H, m), 4. 44-4. 74 (3H, m), 6. 64 (1H, s), 7. 44-7. 49 (1H, m), 7. 54-7. 59 (2H, m), 7. 77-7. 79 (2H, m), 9. 03 (1H, brs), 10. 55 (1H, brs).
- 10 実施例45

実施例46

- $3-\{(2S,4S)-4-[4-(1H-インダゾール-3-イル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル<math>\}-1$,3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成
- (1) 1-(1H-インダゾール-3-イル)ピペラジン178mg及び参考例
 3の表題化合物264mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(1H-インダゾール-3-イル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}
 -1,3-チアゾリジン442mgを無色透明油状物として得た。
- (2) 上記化合物 4 4 2 m g をメタノール 1 0 m L 及びクロロホルム 5 m L に溶 解し、4 m o l / L 塩酸一酢酸エチル溶液 5 m L を加え、1 8 時間攪拌した。反 応液を減圧下で濃縮することにより表題化合物 2 1 0 m g を白色固体として得た。 l H-NMR (DMSO-d 6) δ 2. 20-2. 48 (1 H, m), 2. 90-4. 30 (16 H, m), 4. 41-4. 80 (3 H, m), 7. 02 (1 H, t, J=6. 9 Hz), 7. 25-7. 46 (2 H, m), 7. 79 (1 H, d, J=8. 4 Hz), 9. 20 (1 H, brs), 10. 78 (1 H, brs), 12. 26 (1 H, s), 12. 34 (1 H, brs).

 $3-\{(2S, 4S)-4-[4-(4-トリフルオロメチルー6-メトキシー2-+ノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル<math>\}-1, 3-$ チ

アゾリジン・2塩酸塩の合成

(1) p-r=シジン10gをトルエン100mLに溶解し、トリフルオロアセト酢酸エチル12mLおよびモレキュラーシープス4A5.0gを加え2時間還流した。モレキュラーシープス4Aを濾去にて除き、濾液を減圧下で濃縮した。

- 5 残渣に75%ポリリン酸40mLを加え、130℃にて2時間攪拌した。反応溶液を氷に注ぎ、析出物を濾取し、乾燥後、クロロホルムーエーテル (1:2)の混合溶液で洗浄することにより4ートリフルオロメチルー2ーヒドロキシー6ーメトキシキノリン4.9gを白色固体として得た。
- (2) 上記化合物 4. 9 gをオキシ塩化リン8. 0 m L に加え、100℃にて3. 10 時間攪拌した。反応液に氷を加え、次いで4 m o 1 / L の水酸化ナトリウム水溶液を加えて強塩基性とした後、析出物を濾取することにより2-クロロー4ートリフルオロメチルー6-メトキシキノリン4. 9 gを白色固体として得た。
 - (3) ピペラジン10gを130℃にて融解し、上記化合物4.9gを加えて2 時間攪拌した。反応混合物に水を加え、酢酸エチル及びクロロホルムで抽出した。
- 15 抽出液を乾燥後、溶媒を減圧下で留去し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-(4-トリフルオロメチルー6-メトキシー2-キノリル) ピペラジン5.7gを黄色固体として得た。
- (4)上記化合物1.1g及び参考例3の表題化合物0.900gを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキ20シカルボニル-4-[4-(4-トリフルオロメチル-6-メトキシー2-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン1.7gを白色固体として得た。
 - (5) 上記化合物 1. 7 g を用い、実施例 3 8 (4) と同様の手法により表題化合物 1. 6 g を黄色粉末として得た。
- 25 ¹H-NMR (DMSO-d₆) δ2. 30-2. 45 (1H, m), 2. 95-3. 17 (3H, m), 3. 25-4. 25 (15H, m), 4. 48-4. 7 8 (5H, m), 7. 16 (1H, brs), 7. 45 (1H, dd, J=9. 0, 2. 4Hz), 7. 74 (1H, s), 7. 80 (1H, d, J=9. 0Hz), 9. 16 (1H, brs), 11. 06 (1H, brs).

実施例47

 $3-\{(2S,4S)-4-[4-(4-トリフルオロメチル-8-メトキシー2-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル<math>\}-1$,3

- 5 (1) オルトアニシジン50gと4, 4, 4ートリフルオロアセト酢酸エチル7
 1. 3mLをベンゼン800mLに溶解し、pートルエンスルホン酸一水和物7.72gを加えて20時間加熱環流した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣に75%ポリリン酸300mLを加え、90℃にて6時間攪拌した。反応液を氷水3Lに注ぎ、析出した固体を濾取した。そのものを酢酸エチルに溶解し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、水及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより4ートリフルオロメチルー2ーヒドロキシー8ーメトキシキノリンを含む混合物31.7gを淡褐色固体として得た。
- 15 (2)上記混合物31.7gにオキシ塩化リン48.6mLを加え、100℃にて2時間攪拌した。反応液に氷を加え、5mo1/L水酸化ナトリウムを加えて塩基性とした後、析出物を濾取することにより2-クロロー4ートリフルオロメチル-8-メトキシキノリンを含む混合物34.2gを淡褐色固体として得た。
- (3) ピペラジン25.8gを130℃にて融解し、上記化合物13.1gを加20 え、3時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製することにより1-(4-トリフルオロメチル-8-メトキシ-2-キノリル) ピペラジン5.21gを淡黄色固体として得た。
- (4)上記化合物0.933g及び参考例3の表題化合物0.891gを用い、
 実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(4-トリフルオロメチル-8-メトキシ-2-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン1.82gを黄色固体として得た。
 - (5) 上記化合物1. 82gを4.1mol/L塩酸-エタノール溶液1mLに

溶解し、室温で3時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、溶媒を留去した。残渣をHPLCにて精製し、4.1mol/L塩酸-エタノール溶液1mLを加え、減圧下で濃縮することにより表題化合物0.310gを白色粉末として得た。

¹ H-NMR (DMSO-d₆) δ2. 11 (1H, m), 2. 67-3. 92 (20H, m), 4. 29-4. 78 (3H, m), 7. 04 (1H, m), 7. 17-7. 25 (2H, m), 7. 55 (1H, s), 8. 98 (1H, brs), 10. 46 (1H, brs).

- 10 実施例48
 - $3-\{(2S,4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチル-6-ヒドロキシー4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル<math>\}-1$,3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成
- (1) p-アニシジン10gをトルエン100mLに溶解し、トリフルオロアセトではいる。
 ト酢酸エチル12mLおよびモレキュラーシーブス4A5.0gを加え2時間還流した。モレキュラーシーブス4Aを濾去にて除き、濾液を減圧下で濃縮した。残渣に75%ポリリン酸40mLを加え、130℃にて2時間攪拌した。反応液を氷に注ぎ、析出物を濾取した。析出物を乾燥後、クロロホルムーエーテル(1:2)の混合溶液を加え、不溶物を濾去にて除き、濾液を減圧下で濃縮することにより2-トリフルオロメチルー4-ヒドロキシー6-メトキシキノリンを含む混合物8.1gを油状物として得た。
 - (2) 上記混合物 8. 1gを及びオキシ塩化リン12mLを用い、実施例 46
 - (2) と同様の手法により4ークロロー2ートリフルオロメチルー6ーメトキシキノリン4.2gを白色固体として得た。
- 25 (3) 上記化合物 4. 2 gを及びピペラジン10 gを用い、実施例 4 6 (3) と 同様の手法により 1- (2-トリフルオロメチル-6-メトキシー4-キノリル) ピペラジン3. 6 gを淡黄色固体として得た。
 - (4) 上記化合物 2.2 g 及び参考例 3 の表題化合物 1.7 g を用い、実施例 29 (1) と同様の手法により 3 {(2S, 4S) 1 tert ブトキシカ

ルボニルー4-[4-(2-h)]フルオロメチルー6-メトキシー4-キノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン3. 6 gを白色固体として得た。

- (5)上記化合物3.6gを酢酸エチル20mLに溶解し、室温にて4mo1/ Lの塩酸-酢酸エチル100mLを加えて10時間攪拌した。析出物を濾取し、 水に溶解し、クロロホルムで洗浄した。その水溶液を飽和炭酸水素ナトリウム水 溶液で塩基性とした後、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃 縮することにより3ー{(2S, 4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチルー 6-メトキシー4ーキノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニ 10 ル}-1,3-チアゾリジン2.8gを白色固体として得た。
 - (6) 上記化合物1.1gをジクロロメタン40mLに溶解し、-78℃にて三臭化ホウ素0.96mLを加え、室温にて4時間攪拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、残渣をHPLCにより精製した。その精製物を酢酸エチルに溶解し、
- 15 4 m o l / L の塩酸-酢酸エチルを加え、析出物を濾取することにより表題化合物236 m g を淡黄色粉末として得た。

¹ H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 10-2. 39 (1H, m), 2. 89-3. 99 (17H, m), 4. 48-4. 77 (3H, m), 7. 25 (1H, s), 7. 32 (1H, d, J=2. 4Hz), 7. 43 (1H, dd, J=9.

20 0, 2. 4Hz), 7. 98 (1H, d, J=9. 0Hz), 9. 09 (1H, brs), 10. 42 (1H, brs), 10. 53 (1H, brs). 実施例49

 $3-\{(2S, 4S)-4-[4-(6-トリフルオロメトキシ-2-トリフルオロメチル-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル<math>\}-1$, 3-チアプリジン・2塩酸塩の合成

. 25

(1) 4ートリフルオロメチルアニリン25.0g及びトリフルオロアセト酢酸エチル22.7mLを酢酸140mLに溶解し、室温で23時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣にジフ

ェニルエーテル140mLを加え、250℃で1.5時間攪拌した。反応液にヘキサン140mLを加え、析出物を濾取することにより6ートリフルオロメトキシー2ートリフルオロメチルー4ーヒドロキシキノリン12.0gを白色結晶性粉末として得た。

- 5 (2) 上記化合物 1 2. 0 g を用い、実施例 4 6 (2) と同様の手法により 4 ー クロロー 6 ートリフルオロメトキシー 2 ートリフルオロメチルキノリン 1 2. 1 g を白色固体として得た。
 - (3) 上記化合物12.1gを用い、実施例46(3) と同様の手法により1-(6-トリフルオロメトキシー2-トリフルオロメチルー4-キノリル) ピペラジン14.3gを淡黄色固体として得た。
 - (4) 上記化合物 402 mg及び参考例 30 o表題化合物 300 mgを用い、実施例 29(1) と同様の手法により $3-\{(2S,4S)-1-\text{tert-ブトキシカルボニルー4-}[4-(6-トリフルオロメトキシー2-トリフルオロメチルー4ーキノリル) <math>-1-\text{ピペラジニル}]$ -2-ピロリジニルカルボニル -1, 3-チアゾリジン 601 mg を白色固体として得た。
 - (5) 上記化合物601mgを用い、実施例29(2) と同様の手法により表題 化合物521mgを微黄色粉末として得た。

¹ H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 46 (1H, m), 3. 03-3. 25 (3H, m), 3. 31-4. 05 (13H, m), 4. 24 (1H, m), 4.

20 52-4.85 (3H, m), 7.52 (1H, s), 7.92 (1H, d, J =9.2Hz), 8.02 (1H, s), 8.31 (1H, d, J=9.2H z), 9.25 (1H, brs), 10.19 (1H, brs).

実施例50

10

15

 $3-\{(2S,4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチル-8-ヒドロキシ$ 25 $-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル\}-1,$ 3-チアゾリジン・3 塩酸塩の合成

(1) オルトアニシジン50gと4, 4, 4ートリフルオロアセト酢酸エチル7 1. 3mLをベンゼン800mLに溶解し、pートルエンスルホン酸一水和物7. 72gを加えて20時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和炭酸水素

ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣に75%ポリリン酸300mLを加え、90℃にて6時間攪拌した。反応液を氷水3Lに注ぎ、析出した固体を濾取した。そのものを酢酸エチルに溶解し、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、水及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより2ートリフルオロメチルー4ーヒドロキシー8ーメトキシキノリンを含む混合物31.7gを淡褐色固体として得た。

- (2) 上記化合物 3 1. 7 g にオキシ塩化リン4 8. 6 m L を加え、100℃にて2時間攪拌した。反応液に氷を加え、5 m o 1 / L 水酸化ナトリウムを加えて
 塩基性とし、析出物を濾取することにより4-クロロー2ートリフルオロメチルー8-メトキシキノリンを含む混合物 3 4. 2 g を淡褐色固体として得た。
 - (3) ピペラジン25.8gを130℃にて融解し、上記混合物13.1gを加え、3時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製することにより1-(2-トリフルオロメチル-8-メトキシ-4-キノリル)ピペラジン8.48gを黄色固体として得た。
 - (4) 上記化合物 0. 9 3 3 g 及び参考例 3 の表題化合物 0. 8 9 1 g を用い、 実施例 2 9 (1) と同様の手法により 3 - {(2 S, 4 S) - 1 - t e r t - ブ トキシカルボニルー4 - [4 - (2 - トリフルオロメチルー8 - メトキシー4 -キノリル) - 1 - ピペラジニル] - 2 - ピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チ アプリジン 1. 5 4 g を白色固体として得た。
 - (5) 上記化合物 3 9 4 m g を用い、実施例 4 8 (6) と同様の手法により表題 化合物 1 0 9 m g を黄色粉末として得た。

¹ H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 3 4 (1 H, m), 2. 90-4. 2 3 25 (17 H, m), 4. 48-4. 8 1 (3 H, m), 7. 2 2 (1 H, d d, J =1. 5, 7. 2 H z), 7. 3 6 (1 H, s), 7. 49-7. 5 9 (2 H, m), 9. 15 (1 H, b r s), 10. 16 (1 H, b r s), 10. 7 7 (1 H, b r s).

実施例51

15

 $3-\{(2S, 4S)-4-[4-(8-エトキシ-2-トリフルオロメチル-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル<math>\}-1$, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成

- (1) 実施例 5 0 (3) の生成物 4. 8 6 gをジクロロメタンに溶解し、-7 8℃にて三臭化ホウ素 7. 3 9 m Lを加え室温で 3 時間攪拌した。反応液を水に注ぎ、炭酸水素ナトリウムを加え p H 8 とした。クロロホルムで抽出し飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより 1 (2 トリフルオロメチル-8-ヒドロキシ-4-キノリル)ピペラジン 1. 5 2 gを淡黄色固体として得た。
- 10 (2) 上記化合物 0.648g及び参考例 3の表題化合物 0.595gを用い、実施例 29(1)と同様の手法により 3-{(2S,4S)-1-tert-ブトキシカルボニルー4-[4-(2-トリフルオロメチルー8-ヒドロキシー4ーキノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン 1.30gを微黄色固体として得た。
- 15 (3) 水素化ナトリウム40mgをDMF1mLに懸濁し、氷冷下で上記化合物 291mgを加え、10分間攪拌した。反応液にpートルエンスルホン酸エチル エステル200mgを加え、70℃にて4時間攪拌した。反応液に水を加え、ク ロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水にて洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮 した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにて精製することにより3-
- 20 {(2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニルー4-[4-(8-エトキシー2-トリフルオロメチルー4ーキノリル) -1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン280mgを微黄色固体として得た。(4) 上記化合物280mgを用い、実施例47(5) と同様の手法により表題化合物141mgを黄色粉末として得た。
- 25 ¹H-NMR (DMSO-d₆) δ1. 57 (3H, t, J=6. 9Hz), 2. 54 (1H, m), 3. 02-4. 17 (16H, m), 4. 19-4. 46 (3H, m), 4. 51-5. 18 (3H, m), 7. 42 (1H, m), 7. 51 (1H, s), 7. 73-7. 77 (2H, m), 9. 33 (1H, brs), 10. 94 (1H, brs).

実施例52

 $3-\{(2S, 4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチル-8-イソプロポキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}ー1,3-チアゾリジン・3塩酸塩の合成$

- 5 (1)実施例51(2)の生成物291mg及びpートルエンスルホン酸イソプロポキシエステル161mgを用い、実施例51(3)と同様の手法により、3ー{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニルー4-[4-(2-トリフルオロメチルー8-イソプロポキシー4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2ーピロリジニルカルボニル}ー1,3-チアゾリジン28mgを無色油状物として得た。
 - (2) 上記化合物 28 m g を用い、実施例 29 (2) と同様の手法により表題化合物 10 m g を黄色粉末として得た。

¹ H-NMR (DMSO-d₆) δ1. 43 (3H, s), 1. 45 (3H, s),
2. 45 (1H, m), 3. 04-3. 26 (6H, m), 3. 61-4. 03

15 (10H, m), 4. 22 (1H, m), 4. 50-4. 97 (4H, m), 7.

40 (1H, m), 7. 44 (1H, s), 7. 67-7. 69 (2H, m),
9. 24 (1H, brs), 10. 99 (1H, brs).

実施例53

- $3-\{(2S,4S)-4-[4-(8-トリフルオロメトキシー2-トリフル 20 オロメチル<math>-4-$ キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル $\}-1$, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成
 - (1) 2-トリフルオロメチルアニリン5. 10gを用い、実施例47(1) と同様の手法により8-トリフルオロメトキシー2-トリフルオロメチルー4-ヒドロキシキノリン0.345gを白色粉末として得た。
- 25 (2)上記化合物345mgを用い、実施例47(2)と同様の手法により4-クロロー8ートリフルオロメトキシー2ートリフルオロメチルキノリン316m gを橙色油状物として得た。
 - (3) 上記化合物 3 1 6 m g を用い、実施例 4 7 (3) と同様の手法により 1 ー (8 トリフルオロメトキシー 2 トリフルオロメチルー 4 キノリル) ピペラ

ジン349mgを黄色油状物として得た。

- (4) 上記化合物349mg及び参考例3の表題化合物261mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tertープトキシカルボニル-4-[4-(8-トリフルオロメトキシー2-トリフルオロメチル5-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン513mgを白色固体として得た。
 - (5) 上記化合物 5 1 3 m g を用い、実施例 4 7 (5) と同様の手法により表題 化合物 3 6 5 m g を白色粉末として得た。

¹ H-NMR (DMSO-d₆) δ 2. 26 (1H, m), 2. 80-4. 19

10 (17H, m), 4. 30-4. 72 (3H, m), 7. 38 (1H, s), 7.

68 (1H, dd, J=7. 9, 7. 9Hz), 7. 82 (1H, d, J=7.

9Hz), 8. 06 (1H, d, J=7. 9Hz), 9. 06 (1H, brs),

10. 84 (1H, brs).

実施例54

- 15 3-((2S, 4S) -4-{4-[8-(2, 2, 2-トリフルオロエトキシ) -2-トリフルオロメチル-4-キノリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成
 - (1) 実施例51 (2) の生成物345mgをDMF3mLに溶解し、炭酸カリウム164mg及びメタンスルホン酸2, 2, 2-トリフルオロエチルエステル
- 20 212mgを加え、100℃にて5時間攪拌した。反応液に水を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィーにて精製することにより3-((2S,4S)-1-tertーブトキシカルボニル-4-{4-[8-(2,2,2-1)フルオロエトキシ)-2-トリフルオロメチル-4-キノリル]-1-ピペ
- 25 ラジニル $}$ -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン283 mg を黄色油状物として得た。
 - (2) 上記化合物 283 mgを用い、実施例 47 (5) と同様の手法により表題 化合物 19 mgを白色粉末として得た。
 - 1 H-NMR (DMSO-d $_{6}$) δ 2. 34 (1H, m), 2. 92-4. 21

(17H, m), 4. 49-4. 79 (3H, m), 5. 03 (2H, q, J=9.0Hz), 7. 44 (1H, s), 7. 51 (1H, d, J=7.5Hz), 7. 68 (1H, dd, J=7.5, 8.4Hz), 7. 78 (1H, d, J=8.4Hz), 9. 16 (1H, brs), 10. 84 (1H, brs).

5 実施例55

3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチル-6, 8-ジメトキシ-4-キノリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアプリジン・2塩酸塩の合成

(1) 2, 4-ジメトキシアニリン30gをベンゼン400mLに溶解し、トリフルオロアセト酢酸エチル34mL及びpートルエンスルホン酸一水和物3.7gを加え、21時間還流した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣に75%ポリリン酸150mLを加え、130℃にて2時間攪拌した。反応溶液を氷に注ぎ、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液、1mo1/Lの塩酸及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣にエタノールを加え、析出物を濾去し、濾液を減圧下で濃縮することにより2ートリフルオロメチルー4ーヒドロキシー6,8ージメトキシキノリン12gを油状物として得た。

- (2) 上記化合物 1 2 g 及びオキシ塩化リン 1 7 m L を用い、実施例 4 6 (2) 20 と同様の手法により 4 ークロロー2 ートリフルオロメチルー6, 8 ージメトキシキノリン 1 3 g を白色固体として得た。
 - (3) 上記化合物 13g及びピペラジン23gを用い、実施例 46 (3) と同様の手法により 1- (2-トリフルオロメチル-6, 8-ジメトキシー4ーキノリル) ピペラジン13gを淡褐色固体として得た。
- 25 (4) 上記化合物 1.2 g及び参考例 3 の表題化合物 0.9 0 0 gを用い、実施例 2 9 (1) と同様の手法により 3 {(2 S, 4 S) 1 tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(2-トリフルオロメチル-6, 8-ジメトキシー4-ナノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン 2.1 gを白色粉末として得た。

(5) 上記化合物 1. 8 g を用い、実施例 3 8 (4) と同様の手法により表題化合物 1. 4 g を淡黄色粉末として得た。

¹ H-NMR (DMSO-d₆) δ2. 25-2. 43 (1H, m), 2. 97-3. 18 (3H, m), 3. 25-4. 20 (20H, m), 4. 48-4. 7
5 0 (3H, m), 6. 84 (1H, d, J=2. 4Hz), 6. 95 (1H, d, J=2. 4Hz), 7. 38 (1H, s), 9. 14 (1H, brs), 10. 70 (1H, brs).

実施例56

15

3-{(2S, 4S) -4- [4-(3, 5-ジメチル-1-ピラゾリル) ピペ 10, リジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン・3塩酸塩の 合成

- (1) tertーブチルカルバゼート26.4gをエタノール100mLに溶解し、1-エトキシカルボニルー4-ピペリドン34.2gのエタノール80mL溶液を加え、一昼夜攪拌した。5%白金炭素2gを加え、1気圧の水素下室温にて攪拌した。白金炭素を濾去し、濾液に4mol/L塩酸ージオキサン溶液200mLを加え、50℃に加温した。溶液を氷冷し、析出物を濾取することにより1-エトキシカルボニルー4-ヒドラジノピペリジン・2塩酸塩44.4gを白色結晶として得た。
- (2)上記化合物 2.9gをメタノール10mLに溶解し、トリエチルアミン3. 1mLとアセチルアセトン1.1gを加え、室温にて攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和食塩水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を10%クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮することにより1-エトキシカルボニルー4-(3,5-ジメチルー1-ピラゾリル)ピペリジン2.69gを油状物として得た。
- 25 (3)上記化合物 2.6 gを 30%臭化水素 酢酸 25 m L に溶解し、室温で 3 日間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、炭酸カリウム水溶液で中和し、酢酸エチルで抽出した。抽出液を炭酸カリウムで乾燥後、減圧下で濃縮することにより 4-(3,5-ジメチル-1-ピラゾリル)ピペリジン1.12gを油状物として得た。

(4) 上記化合物 592mg 及び参考例 3 の表題化合物 901mg を用い、実施例 29(1) と同様の手法により $3-\{(2S,4S)-1-tert-プトキシカルボニルー4-[4-(3,5-ジメチルー1-ピラゾリル) ピペリジノ] <math>-2-ピロリジニルカルボニル} -1$, 3-チアゾリジン834mg を白色固体として得た。

5

- 3-{(2S, 4S)-4-[4-(3-メチル-5-フェニル-1-ピラゾリル)ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン・3 塩酸塩の合成
- (1) 実施例 5 6 (1) の生成物 5.2 gをメタノール 2 5 m L に溶解し、トリエチルアミン 5.6 m L とジベンゾイルアセトン 3.2 gを加え、室温で 3 日間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、飽和食塩水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を 1.0% クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1 ーエトキシカルボニルー 4 ー (3 ーメチルー 5 ーフェールー1 ーピラゾリル)ピペリジン 3.74 gを得た。
 - (2) 上記化合物 3. 1 g を用い、実施例 5 6 (3) と同様の手法により 4 (3-メチル-5-フェニル-1-ピラゾリル) ピペリジンを結晶物として得た。
- 25 (3) 上記化合物 0. 796 g 及び参考例 3 の表題化合物 0. 901 g を用い、 実施例 29 (1) と同様の手法により 3 ー { (2S, 4S) - 1 - tert-プ トキシカルボニルー4 - [4 - (3-メチル-5-フェニルー1-ピラゾリル) ピペリジノ] - 2 ーピロリジニルカルボニル} - 1, 3 - チアゾリジン 1. 43 g を 白色 固体として得た。

(4)上記化合物 1. 4 2 g を用い、実施例 3 1 (4)と同様の手法により表題 化合物 1. 1 7 g を淡黄色粉末として得た。

¹ H-NMR (DMSO-d₆) δ 1. 95-2. 12 (2H, m), 2. 20 (3H, s), 2. 22-2. 37 (1H, m), 2. 87-3. 27 (5H,

- 5 m), 3. 38-4. 05 (9H, m), 4. 33-4. 76 (4H, m), 6. 13 (1H, s), 7. 42-7. 57 (5H, m), 9. 09 (1H, br. s), 10. 79 (1H, br.s), 11. 79 (1H, br.s). 実施例 58
- 3-{(2S, 4S)-4-[4-(3, 5-ジフェニル-1-ピラゾリル)ピ 10 ペリジン-1-イル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩の合成
 - (1) 実施例 5.6 (1) の生成物 2.6 gをメタノール 1.0 m L に溶解し、トリエチルアミン 2.8 m L とジベンゾイルメタン 2.2 g を加え、6.0 で一昼夜攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、水を加え、析出した結晶を濾取することにより 1-xトキシカルボニルー 4-(3,5-ジフェニルー1-ピラゾリル)ピペリジン 2.71 g を結晶物として得た。

15

- (2) 上記化合物 2. 7 g を用い、実施例 5 6 (3) と同様の手法により 4 ー (3, 5 ジフェニルー1 ピラゾリル) ピペリジン 2. 1 4 g を結晶物として 得た。
- 20 (3) 上記化合物 1. 00g及び参考例 3の表題化合物 0. 901gを用い、実施例 29(1)と同様の手法により 3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニルー4-[4-(3, 5-ジフェニルー1-ピラゾリル)ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チアゾリジン1. 12gを無色透明油状物として得た。
- 25 (4)上記化合物1.12gをメタノール20mL及びクロロホルム10mLに溶解し、4mo1/L塩酸一酢酸エチル溶液10mLを加え、18時間攪拌した。 反応液を減圧下で濃縮することにより表題化合物0.804gを白色固体として得た。

 1 H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 00-2. 70 (5H, m), 2. 82-

4. 10 (12H, m), 4. 37-4. 80 (4H, m), 6. 85 (1H, s), 7. 25-7. 63 (8H, m), 7. 74-7. 95 (2H, m) 実施例59

 3-{(2S, 4S)-4-[4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニルー 5-ピラゾリル)ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チア ゾリジン・2塩酸塩の合成

- (1) トリフルオロ酢酸エチル6.32gをtertーブチルメチルエーテル10mLに溶解し、室温にて28%ナトリウムメトキシドーメタノール溶液9.40g及び4ーアセチルピリジン4.90gのtertーブチルメチルエーテル20mL溶液を順次加え、22時間攪拌した。反応液に10%クエン酸水溶液を約pH4になるまで加え、析出物を濾取し、水洗し、乾燥することにより4ートリフルオロアセトアセチルピリジン5.46gを黄色固体として得た。
- (2)上記化合物760mgをエタノール20mLに懸濁させ、室温にてフェニルヒドラジン0.380mLを加え、23時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル)ピリジン470mgを油状物として得た。
- (3) 上記化合物 4 7 0 m g をアセトニトリル 5 0 m L に溶解し、ベンジルクロリド 0. 3 8 0 m L を加え、2 4 時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣にジエチルエーテルを加え、析出物を濾取した。このものをエタノール 3 0 m L に溶解し、氷冷下で水素化ホウ素ナトリウム 1 3 0 m g を加え、室温にて22時間攪拌した。反応液に水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより 1 ーベンジルー 4 ー (3 ー トリフルオロメチルー 1 ーフェニルー 5 ーピラゾリル) ー1, 2, 3, 6 ーテトラヒドロピリジン 1 4 2 m g を油状物として得た。
 - (4) 上記化合物 1 4 2 m g 及びギ酸アンモニウム 2 4 0 m g をメタノール 2 0 m L に溶解し、10%パラジウム/炭素 1 5 0 m g を加え、窒素雰囲気下 2 時間

加熱還流した。不溶物を濾去後、濾液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより4-(3-トリフルオロメチル-1-フェニル-5-ピラゾリル) ピペリジン90mgを油状物として得た。

- 5 (5) 上記化合物90mg及び参考例3の表題化合物90mgを用い、実施例2 9 (1) と同様の手法により3ー{(2S, 4S) -1-tert-プトキシカ ルボニルー4ー[4-(3-トリフルオロメチルー1-フェニルー5ーピラゾリ ル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン13 4mgを白色粉末として得た。
- (6) 上記化合物 1 3 4 m g を用い、実施例 3 3 (5) と同様の手法により表題化合物 9 6 m g を白色固体として得た。
 ¹ H-NMR (500MHz, DMSO-d₆) δ 1. 90-2. 30 (5 H, m), 2. 83-4. 00 (13H, m), 4. 46-4. 71 (3H, m), 6. 78 (1H, s), 7. 57-7. 62 (5 H, m), 9. 07 (1 H, b r s), 10. 45 (1 H, b r s), 11. 82 (1 H, b r s).

実施例60

2 塩酸塩の合成

 $3-\{(2S,4S)-4-[4-(1-フェニルー1H-テトラゾールー5- イル) ピペリジノ] <math>-2-$ ピロリジニルカルボニル $\}-1$, 3-チアゾリジン・

- 20 (1) 1ーベンジルオキシカルボニルイソニペコチン酸13.1g、HOBT1
 1.4g及びEDCの塩酸塩11.4gをテトラヒドロフラン200mLに溶解し、アニリン5.0mLを加え、室温にて17時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、0.5mol/L塩酸を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒を減圧下で25 留去することにより1ーベンジルオキシカルボニルイソニペコチン酸アニリド17.0gを白色固体として得た。
 - (2) 上記化合物 2. 00g、トリフェニルホスフィン3. 10g及び40%ア ゾジカルボン酸ジイソプロピルートルエン溶液 6. 00gをテトラヒドロフラン 50mLに溶解し、氷冷下でトリメチルシリルアジド1. 57mLを加え、室温

にて5日間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルクロマトグラ フィーにて精製することにより 1 - ベンジルオキシカルボニルー4 - (1 - フェ ニルー1Hーテトラゾールー5ーイル) ピペリジン4.09gを茶褐色油状物と して得た。

- (3)上記化合物4.09gをメタノール50mLに溶解し、10%パラジウム /炭素420mgの存在下、1気圧の水素下室温にて攪拌した。反応液を濾過し、 濾液を減圧下で濃縮することにより4- (1-フェニル-1H-テトラゾールー 5-イル) ピペリジン1. 42gを灰色固体として得た。
- (4) 上記化合物 0. 757g及び参考例 3の表題化合物 0. 901gを用い、 実施例29 (1) と同様の手法により3-{(25, 45)-1-tert-プ トキシカルボニルー4ー[4-(1-フェニルー1H-テトラゾールー5-イ ル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアソリジン1. 07gを白色固体として得た。
- (5) 上記化合物 1. 0 6 g をエタノール 4 m L に溶解し、7. 4 m o l / L 塩 酸ーエタノール溶液3mLを加え、室温にて11時間攪拌した。析出物を濾取す ることにより表題化合物 0.688gを白色粉末として得た。

 1 H-NMR (DMSO-d $_{6}$) δ 1. 93-2. 34 (5H, m), 2. 85-3. 95 (13H, m), 4. 43-4. 77 (3H, m), 7. 69 (5H, s), 9. 12 (1H, brs), 10. 74 (1H, brs), 12. 04

(1H, brs) 20 実施例6年20日本第一日本文章20日本中中一章

- 3- ((2S, 4S) -4- {4- [1- (4-フルオロフェニル) -1H-テ トラゾールー5ーイル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1,3 ーチアゾリジン・2塩酸塩の合成
- (1) イソニペコチン酸19.0gを水150mL及び1,4ージオキサン30 25 0mLに溶解し、氷冷下1mol/L水酸化ナトリウム水溶液150mL及び二 炭酸ジーtertープチル35.3gを加え、室温にて3日間攪拌した。1,4 ージオキサンを減圧下で留去し、残渣に5%硫酸水素カリウム水溶液を加え、析 出した固体を濾取することにより、1-tertープトキシカルボニルイソニペ

コチン酸33.0gを白色固体として得た。

- (2) 上記化合物 2. 43g、HOBT 1. 95g及びEDCの塩酸塩 2. 44gをDMF 50mLに溶解し、4-フルオロアニリン1. 00mLを加え、室温にて5時間攪拌した。反応液に水を加え、析出物を濾取することにより1-tert-プトキシカルボニルイソニペコチン酸 4-フルオロフェニルアミド 2. 82gを白色固体として得た。
 - (3) 上記化合物 2. 8 2 gを用い、実施例 6 0 (2) と同様の手法に1-t, e r t- プトキシカルボニルー 4- [1- (4- フルオロフェニル) -1 H- テトラゾール- 5 イル] ピペリジン 0. 9 1 6 gを白色固体として得た。
- 10 (4) 上記化合物916mgを用い、実施例36(2)と同様の手法により4-[1-(4-フルオロフェニル)-1H-テトラゾール-5-イル]ピペリジン342mgを淡褐色固体として得た。
- (5)上記化合物338mg及び参考例3の表題化合物373mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニルー4-{4-[1-(4-フルオロフェニル)-1H-テトラゾールー5-イル]ピペリジノ}-2-ピロリジニルカルボニル)-1,3-チアゾリジン514mgを白色粉末として得た。
- (6) 上記化合物 5 1 2 m g を メタノール 1 0 m L 及びクロロホルム 5 m L に溶解させ、室温にて 4 m o 1 / L の塩酸ージオキサン 3 m L を加え 1 7 時間攪拌した後、反応液を減圧下で濃縮した。残渣をメタノールに溶解し、酢酸エチルを加えた。析出物を濾取することにより表題化合物 3 1 8 m g を 白色固体として得た。 1 H ー N M R (500 M H z, D M S O ー d 6) δ 1.90 ー 2.40 (5 H, m), 2.70 ー 3.95 (13 H, m), 4.46 ー 4.72 (3 H, m), 7.52 ー 7.55 (2 H, m), 7.77 ー 7.79 (2 H, m), 9.09 (1 H, brs), 10.57 (1 H, brs), 11.92 (1 H, brs) 実施例 6 2

これに実施例 5 6 (1) の生成物 8.2 g及びトリエチルアミン7.5 mLのメタノール20 mL溶液を滴下した。室温にて1時間攪拌した後、減圧下で濃縮し、残渣に飽和食塩水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を10%クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒 を留去した。残渣にヨウ化銅(I) 0.38 gとテトラヒドロフラン40 mLを加え、さらに氷冷下にてtertーブトキシカリウム3.8 gのテトラヒドロフラン20 mL溶液を加え、室温にて4日間攪拌した。反応液を10%クエン酸水溶液20 mLで中和して、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1-エトキシカルボニルー4-(1H-インダゾールー1-イル)ピペリジン1.04gを油状物として得た。

(2)上記化合物 0.90gを30%臭化水素-酢酸10mLに溶解し、室温で4日間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣を炭酸カリウム水で中和し、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥し、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより4-(1H-インダゾール-1-イル)ピペリジン 0.42gを油状物として得た。

- (3) 上記化合物 4 2 0 m g 及び参考例 3 の表題化合物 5 7 0 m g を用い、実施例 2 9 (1) と同様の手法により 3 { (2S, 4S) -1-tert-ブトキシカルボニル-4-[4-(1H-インダゾール-1-イル)ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン4 6 8 m g を無色透明油状物として得た。

実施例63

3-{(2S, 4S)-4-[4-(3-メチル-1H-インダゾール-1-イル) ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン・2 塩酸塩の合成

- (1) 実施例56(1)の生成物8.4gをメタノール35mLに溶解し、トリエチルアミン9.5mLと2'ーフルオロアセトフェノン4.05gを加え、1時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和食塩水を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を10%クエン酸水溶液、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒を留去した。残渣にヨウ化銅(1)0.6gとテトラヒドロフラン80mLを加え、さらに氷冷下にてtetーブトキシカリウム6gを加え、室温で5日間攪拌した。反応液を10%クエン酸水溶液40mLで中和して、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和食塩水、飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより1ーエトキシカルボニルー4ー(3ーメチルー1Hーインダゾールー1ーイル)ピペリジンを油状物として得た。
 - (2) 上記化合物 2. 3 g を用い、実施例 5 6 (3) と同様の手法により 4 ー (3 メチル- 1 H インダゾール 1 イル) ピペリジン 1. 1 g を油状物として得た。
- 20 (3)上記化合物710mg及び参考例3の表題化合物901mgを用い、実施例29(1)と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tertープトキシカルボニル-4-[4-(3-メチル-1H-インダゾール-1-イル)ピペリジン-1-イル]-2-ピロリジニルカルボニル}ー1,3-チアゾリジン793mgを白色固体として得た。
- 25 (4) 上記化合物 7 9 3 m g を用い、実施例 6 2 (4) と同様の手法により表題 化合物 5 8 0 m g を白色固体として得た。

 1 H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 00-2. 70 (8H, m), 2. 92-4. 27 (12H, m), 4. 38-4. 80 (3H, m), 4. 80-5. 1 2 (1H, m), 7. 13 (1H, t, J=7. 2Hz), 7. 40 (1H, t,

J=7. 5Hz), 7. 56-7. 81 (2H, m), 9. 15 (1H, brs), 10. 80 (1H, brs), 12. 14 (1H, brs).

3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-トリフルオロメチル-1-ベンズイミダ ゾリル)ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン・ 3塩酸塩の合成

実施例64

- (1) 1ーフルオロー4ートリフルオロメチルー2ーニトロベンゼン5. 1gを テトラヒドロフラン100mLに溶解し、ジイソプロピルエチルアミン5. 5m L及び4ーアミノー1ーtertーブトキシカルボニルピペリジン5. 37gを 加え、室温で3時間撹拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に水を加え、酢酸 エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮することにより1ーtert ープトキシカルボニルー4ー(4ートリフルオロメチルー2ーニトロフェニル) アミノピペリジンを得た。
- (2) 上記化合物をエタノール350mLに溶解し、無水塩化スズ(II) 61 gを加えて3日間撹拌した。反応液に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、析出した不溶物を濾去し、濾液を減圧下で濃縮した。残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにて精製することにより4-(2-アミノー4-トリフルオロメチルフェニル)アミノー1-tertーブトキシカルボニル20 ピペリジン3.58gを得た。
 - (3) 上記化合物 1. 5gにオルトギ酸トリメチル12mLとpートルエンスルホン酸 0. 010gを加えて90℃で90分間撹拌した。反応液を減圧下で濃縮することにより1-tertーブトキシカルボニル-4-(5-トリフルオロメチル-1-ベンズイミダゾリル)ピペリジンを得た。
- 25 (4)上記化合物をトリフルオロ酢酸10mLに溶解し、室温にて30分撹拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をジエチルエーテルから結晶化させることにより4- (5-トリフルオロメチル-1-ベンズイミダゾリル) ピペリジン960mgを得た。

(5) 上記化合物 646mg 及び参考例 3 の表題化合物 601mg を用い、実施例 29(1) と同様の手法により $3-\{(2S,4S)-1-tert-プトキシカルボニルー4-[4-(5-トリフルオロメチルー1-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] <math>-2-ピロリジニルカルボニル \}$ -1, 3-チアゾリジン <math>795mg を白色固体として得た。

- (6) 上記化合物 791 mgを用い、実施例 60 (5) と同様の手法により表題 化合物 558 mgを白色粉末として得た。
- ¹ H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 25-2. 4 3 (3H, m) 2. 6 0 = 2. 78 (2H, m), 2. 98-3. 21 (3H, m), 3. 27-4. 15
- 10 (9H, m), 4. 47-4. 80 (3H, m), 4. 91-5. 07 (1H, m), 7. 75 (1H, d, J=8. 6Hz), 8. 14 (1H, s), 8. 28 (1H, d, J=8. 6Hz), 8. 96 (1H, s), 9. 21 (1H, brs), 10. 87 (1H, brs), 12. 51 (1H, brs). 実施例65
- 15 3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-トリフルオロメチルー2-メチルー1-ベンズイミダゾリル)ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル}-1, 3-チ

アゾリジン・3塩酸塩の合成

20

- (1) 実施例64(2) の生成物1.9gをジクロロメタン15mLに溶解し、 無水酢酸0.500mLを加えて終夜撹拌した。反応液を減圧下で濃縮すること により4-(2-アセチルアミノ-4-トリフルオロメチルフェニル) アミノー 1-tert-ブトキシカルボニルピペリジンを得た。
 - (2) 上記化合物を酢酸15mLに溶解し、80℃で終夜撹拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をISOLUTE FLUSH SILで精製することにより1-tert-ブトキシカルボニルー4-(5-トリフルオロメチルー2-メチルー1-ベンズイミダゾリル)ピペリジンを得た。
 - (3) 上記化合物をトリフルオロ酢酸20mLに溶解し、4時間放置した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣を酢酸エチルーへキサンか

ら結晶化させることにより4-(5-トリフルオロメチル-2-メチル-1-ベンズイミダゾリル) ピペリジン730mgを得た。

- (4) 上記化合物 6 1 4 m g 及び参考例 3 の表題化合物 6 0 1 m g を用い、実施例 2 9 (1) と同様の手法により 3 {(2S, 4S) 1 tert-プトキシカルボニルー4 [4 (5 トリフルオロメチルー 2 メチルー1 ベンズイミダソリル)ピペリジン]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン 9 0 2 m g を白色固体として得た。
 - (5) 上記化合物 8 9 8 m g を用い、実施例 3 1 (4) と同様の手法により表題 化合物 8 1 8 m g を白色粉末として得た。
- 10 ¹ H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 20-2. 40 (3H, m), 2. 87 (3H, s), 2. 91-3. 20 (5H, m), 3. 25-4. 20 (9H, m), 4. 48-4. 79 (3H, m), 4. 95-5. 09 (1H, m), 7. 73 (1H, d, J=8. 6Hz), 8: 11 (1H, s), 8. 62 (1H, d, J=8. 6Hz), 9. 23 (1H, brs), 10. 90 (1H, br s), 12. 75 (1H, brs).

実施例66

- $3-\{(2S,4S)-4-[4-(6-フルオロー2-ベンズオキサゾリル)ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル<math>\}-1$,3-チアゾリジンの合成
- (1) エタノール76gとクロロホルム110mLの混合溶液に、氷冷下塩化アセチル107mLを滴下した。30分間攪拌後、氷冷下1ーベンジルオキシカルボニルー4ーシアノピペリジン12.2gのクロロホルム110mL溶液を加え、室温にて1時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮することにより1ーベンジルオキシカルボニルー4ー(エトキシカルボイミドイル)ピペリジン・塩酸塩15.4gを白色固体として得た。
- 25 (2) 上記化合物 3. 0 7 g及び 2 アミノー 5 フルオロフェノール 1. 6 4 gをエタノール 6 0 m L に溶解し、1 0 時間加熱還流した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に1. 0 m o 1 / L 塩酸を加え、酢酸エチルで抽出した。抽出液を飽和炭酸水素ナトリウム水溶液及び飽和食塩水で順次洗浄し、乾燥後、溶媒を減圧留去した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーで精製することにより 1 ベン

ジルオキシカルボニルー4ー (6-7) フェーターベンズオキサゾリル) ピペリジン2. 51g を褐色固体として得た。

- (3) 上記化合物 2. 50 g を用い、実施例 3.3 (3) と同様の手法により 4-(6-フルオロー2-ベンズオキサゾリル) ピペリジン 1. 46 g を褐色固体として得た。
- (4) 上記化合物 529 mg及び参考例 3 の表題化合物 601 mgを用い、実施例 29(1) と同様の手法により $3-\{(2S,4S)-1-t\text{ert}-プトキシカルボニルー4-[4-(6-フルオロー2-ベンズオキサゾリル) ピペリジノ] <math>-2-$ ピロリジニルカルボニル $\}$ -1, 3-チアプリジン 879 mg を白色
- 10 固体として得た。
 (5) 上記化合物 8 7 4 m g をエタノール 3 m L に溶解し、7. 4 m g 1 / L 塩酸ーエタノール溶液 1. 5 m L に室温下 1 4 時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を乾燥後、減圧下で濃縮し、残渣をシリカゲルクロマトグラフィーで精製 し、ジエチルエーテルから結晶化することにより表題化合物 2 1 3 m g を白色粉

¹H-NMR (DMSO-d₆) δ1. 52-1. 63 (1H, m), 1. 70-1. 87 (2H, m), 2. 02-2. 23 (4H, m), 2. 25-2. 36 (1H, m), 2. 68-3. 12 (8H, m), 3. 57-3. 98 (3H,

20 m), 4. 40-4. 71 (2H, m), 7. 71-7. 27 (1H, m), 7. 66-7. 76 (2H, m).

実施例67

末として得た。

 $3-\{(2S,4S)-4-[4-(6-メトキシー2-ベンズオキサゾリル) ピペリジノ]-2-ピロリジニルカルボニル<math>\}-1$,3-チアゾリジン・3塩酸塩の

25 合成

.5

(1) 実施例66(1) の生成物1.54g及び2-アミノー5ーメトキシフェノール1.01gを用い、実施例66(2) と同様の手法により1ーベンジルオキシカルボニルー4ー(6-メトキシー2-ベンズオキサゾリル) ピペリジン1.61gを茶色油状物として得た。

(2) 上記化合物1. 60gを用い、実施例33(3)と同様の手法により4-(6-メトキシー2-ベンズオキサゾリル) ピペリジン0. 951gを赤茶色固 体として得た。

- (3) 上記化合物 5 5 7 m g 及び参考例 3 の表題化合物 6 0 1 m g を用い、実施 例29 (1) と同様の手法により3-{(2S, 4S)-1-tert-ブトキ シカルボニルー4ー [4-(6-メトキシ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジ ノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン885mgを白色 固体として得た。
- (4) 上記化合物881mgを酢酸エチル2mLに溶解し、4mo1/L塩酸-酢酸エチル溶液 4. 3mLを加え、室温にて14時間攪拌した。析出物を濾取す 10 ることにより表題化合物780mgを白色固体として得た。

 1 H-NMR (DMSO-d ₆) δ 2. 10-2. 45 (6H, m), 2. 91-4. 08 (15H, m), 4. 45-4. 78 (3H, m), 6. 96 (1H, dd, J=8.7, 2.3 Hz), 7.34 (1H, d, J=2.3Hz), 7.

59 (1H, d, J=8.7Hz), 9.13 (1H, brs), 10.7215 (1H, brs), 12.08 (1H, brs).

実施例68

 $L = (\mathcal{L}^{-1/2})^{k}$

20

25

3- ((2S, 4S) -4- {4- [3-トリフルオロメチル-1- (4-メト キシフェニル) -5-ピラゾリル] -1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンー ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン・2塩酸塩 110

- (1) 実施例59 (1) 化合物1. 54gと4ーメトキシフェニルヒドラジン・ 塩酸塩1.36g及びピリジン630μLを用い、実施例59(2)と同様の手、 法により4-[3-トリフルオロメチル-1-(4-メトキシフェニル)-5-。 ピラゾリル] ピリジン2.26gを油状物として得た。
- (2) 実施例59(3) と同様の手法により、上記化合物2.26g及びベンジ ルクロリド1. 63mLを用いてピリジニウム塩とした後、水素化ホウ素ナトリ ウム0. 540gで還元することにより1ーベンジルー4ー[3ートリフルオロ メチルー1ー(4-メトキシフェニル)-5-ピラゾリル]-1,2,3,6-

テトラヒドロピリジン1.79gを油状物として得た。

- (3) 上記化合物1.65gをジクロロメタン40mLに溶解し、氷冷下クロロ炭酸1-クロロエチル0.520mLを加え、室温にて24時間攪拌した。反応液を減圧下で濃縮し、残渣にメタノール30mLを加え、1時間加熱還流した。溶媒を減圧下で留去し、残渣に飽和炭酸水素ナトリウム水溶液を加え、クロロホルムで抽出した。抽出液を飽和食塩水で洗浄し、乾燥後、減圧下で濃縮した。残渣をシリカゲルクロマトグラフィーにより精製することにより4-[3-トリフルオロメチル-1-(4-メトキシフェニル)-5-ピラゾリル]-1,2,3,6-テトラヒドロピリジン1.10gを油状物として得た。
- (4) 上記化合物 1. 05g及び参考例 3の表題化合物 0. 890gを用いま 施例 29(1)と同様の手法により 3-((2S, 4S)-1-tert-ブトキシカルボニルー4-{4-[3-トリフルオロメチルー1-(4-メトキシフェニル)-5-ピラゾリル]-1, 2, 3, 6-テトラヒドロピリジンー1ーイル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン1. 70gを淡黄 色粉末として得た。
 - (5) 上記化合物 7 6 2 m g を用い、実施例 3 6 (4) と同様の手法により表題 化合物 6 4 8 m g を淡黄色固体として得た。

¹ H-NMR (500MHz, DMSO-d₆) δ2.00-2.65 (2H, m), 2.78-4.10 (13H, m), 3.83 (3H, s), 4.46-20 4.72 (3H, m), 5.72 (1H, s), 7.03 (1H, s), 7.5 2-7.55 (2H, m), 7.07 (2H, d, J=8.9Hz), 7.45 (2H, d, J=8.9Hz), 9.04 (1H, brs), 10.35 (1H, brs).

なお、上記実施例で得られた化合物の構造を表1~9にまとめて示す。

表1

		<u> </u>	
(CH ₂)n_S	· }		
H ₂ N N			
実施例番号	Y	n	塩
1	O ₂ N HN	4	CF₃CO₂H
2	O ₂ N HN N	4	CF₃CO₂H
3	NC F	4	CF₃CO₂H
4	HN NO ₂	4	
5	O ₂ N CN	4	
6	HN N	4	2HCl
1 7 m ku (2	SO ₂ Me	4	
8	HN	4	<u>_</u>
9	HN	4	

表2 、

	·	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	<u></u> .
(CH ₂)n S)		
		;	1
実施例番号	Υ	:ni	塩
10	HN Br	4 े च	SHO
11	F ₃ C CN	4	-
12	CI CF ₃	4	
13	HN CF3	4	
14	HŅ NO2	4	
15	NC F	4	
16	F CN	4	
17	NC CI	4	
18	HŅ CI	4	

表3

(CH ₂)n S			
実施例番号	Y	n	塩
19	NC CI	4	
20	Br CN	4	
21	HN Br	4	
22	NC CF ₃	4	
23	HN N CF3	4	
24	HN N	4	
25	HN N CF3	4	
26	HNNN	4	
27	NC NO ₂	4	
28	CF3	4	

表 4				·
e R	HN	Y N-Z		
実施例番号	X	Υ	Z	塩
29		S	Н	знсі
30	CF ₃	S	Н	2HCI
31	N CF ₃	S	Н.	2HCI
32	N N N OMe	S	Ĥ	знсі
33		S	H	ЗНСІ
34	N N F	S	Н	знсі
35	N N F	S	. Н	3НСІ
36	N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	S ·	н	ЗНСІ

表 5

表 5				
	HN	N-Z		
実施例番号	X	Y	Z	塩
37	N N F	S	Н	ЗНСІ
38	N CI	S	Н	ЗНСІ
39	N CN	S	н	2HCI
40		S	н	2HCI
41 .		S	Н	3マレイン酸
42		S	Н	3マレイン酸
43	N N CN	S	н	2HCI

==	c
	n
ax	v

表 6			ì	
, i e i ,	HN——	Y.		i
		Z.		
実施例番号	X	Υ	. Z	塩
44	CF ₃	S	Н	3HCI
45	N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	S	H	3HCl
46	CF ₃ OMe	S	н	2HCl
47	CF ₃ OMe	S	H	3HCI
48	CF ₃	S	Н	2HCI
49	CF ₃ N OCF ₃	S	Н	2HCI

表 7	•		1	
HN—Z				
実施例番号	X	Υ	Z	塩
50	CP ₃	Ø	Н	знсі
51	CF ₃ OEt	S	Н	знсі
52	CF ₃ OlPr	S	Н	знсі
53	CF ₃ OCF ₃	S	H	2HCI
54	CF ₃ N OCH ₂ CF ₃	S	H	2HCI
55	CF ₃ N OMe	S	Н	2HCI

表8				
	HN	Y Z		
実施例番号	X,	Υ	Z	塩
56	N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-N-	S	H	3 HCI 5HCI
57		S	Н	знсі
58		S	Н	2HCI
59	CF ₃	S	Н	2HCI
60		S	Н	2HCI
61	Z Z Z L	S	Н	2HCI
62		S	Н	2HCI

0.2

表 9

	<u> </u>			
HN Z				
実施例番号	X	Υ	Z	塩
63	N N N N N N N N N N N N N N N N N N N	S	Н	2HCI
64	CF ₃	S	Н	знсі
65	N—CF ₃	S	н	знсі
66	F N O	S	Н	-
67	OMe	S	H	знсі
68	CF ₃	S	H	2HCI

上記実施例と同様の方法により、下記化合物を合成することができる。

3- [(S) -2-アミノ-6-(4-ベンゼンスルホニルフェニルアミノ)ヘキサノイル] -1, $3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノー6-[N]}$ − (4-メタンスルホニルフェニル) −N-メチルアミノ] ヘキサノイル} −1, 3-チアソリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[N-(5-シアノピリジ ン-2-イル) -N-メチルアミノ] ヘキサノイル} -1, 3ーチアゾリジン、 3- { (S) -2-アミノー6- [N- (5-シアノピリジン-2-イル) -N ーベンジルアミノ] ヘキサノイル} -1, 3-チアプリジン、1-[(S)-2 ーアミノー6ー(4ーメタンスルホニルフェニルアミノ) ヘキサノイル] ピロリ ジン、1- [(S) -2-アミノ-6- (5-シアノピリジン-2-イルアミ ノ) ヘキサノイル] ピロリジン、3- [(S)-2-アミノー6-で5, 6-ジ シアノピリジン-2-イルアミノ) ヘキサノイル] -1, 3-チアゾリジン、3 $- [(S) - 2 - P \le J - 6 - (3, 4 - \Im \Im P) - J - 2 - P \le J) \land + + J - J$ ル] -1, 3-4アゾリジン、 $3-\{(S)-2-T$ ミノ-6-[4-(4-2)]トロフェニル) ピペラジンー1ーイル] ヘキサノイル} ー1, 3ーチアゾリジン、 15 $3-\{(S)-2-アミノ-6-[4-(3,5-ジクロロフェニル) ピペラジ$ ン-1-イル] ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(S) -2-ア ミノー6- [4-(ピリジン-2-イル)ピペラジン-1-イル]へキサノイ |n| - 1, 3 - 4アゾリジン、 $3 - \{(S) - 2 - 7 \le 1 - 6 - [4 - (ピリジ$ ン-4-イル) ピペラジン-1-イル] ヘキサノイル} -1, 3ーチアゾリジン、 20 $3-\{(S)-2-アミノー6-[4-(4-シアノピリジンー2-イル) ピペ$ ラジン-1-イル] ヘキサノイル} -1, $3-チアゾリジン、3-{(S)-2}$ ーアミノー6ー [4ー(5ーシアノピリジンー2ーイル)ピペラジンー1ーイ ル] ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3- { (S) -2-アミノー6-[4-(5-ニトロピリジン-2-イル)ピペラジン-1-イル]へキサノイ 25 |n| - 1, |3 - 4| |3 - 4| |3 - 4| |3 - 4| |3 - 4| |3 - 4| |4 - 4|リフルオロメチルピリジン-2-イル) ピペラジン-1-イル] ヘキサノイル -1, $3-チアゾリジン、<math>3-\{(S)-2-アミノー6-[4-(5-カルボ$ キシピリジン-2-イル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1,3ーチ

- $3-\{(S)-2-r \le J-6-[4-(3,5-i) J i) 2-r \le J-6-[4-(3,5-i) J i) 2-r \le J-6-[4-(1-j 2-i) 2-i] \le J-6-[4-(1-j$
- 10 キサノイル $}$ -1, 3ーチアゾリジン、3ー $\{$ (S) -2ーアミノー6ー[4ー(3ーメチルー1ーフェニルー5ーピラゾリル) ピペラジンー1ーイル]へキサノイル $\}$ -1, 3ーチアゾリジン、3ー((S) -2ーアミノー6ー $\{4-[1-(ピリジン-2-イル)-5-ピラゾリル]$ ピペラジンー1ーイル $\}$ へキサノイル $\}$ -1, 3ーチアゾリジン、3ー((S) -2-アミノー6ー $\{4-[4-[4-1]]$ -1, 3ーチアゾリジン、3ー((S) -2-アミノー6ー $\{4-[4-1]\}$ -1
- 15 $(4-\nu r) 7 x = x 2 4 r y y y 1 4 x 2 x 1 4 x 2 x 1 4 x 2 x 2 x 1 4 x 2 x -$

ルオロメチルー4ーキノリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル -1,3 ーチアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(2-トリフルオロメ チルー6,8ージメトキシー4ーキノリル)ピペラジンー1ーイル]ヘキサノイ |n| - 1, 3 - fアゾリジン、 $3 - \{(S) - 2 - F > 1 - 6 - [4 - (2 - 5)]$ アノー4ーキノリル) ピペラジンー1ーイル]ヘキサノイル) ー1, 3ーチアゾ リジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(4-キナソリニル) ピペラジ ン-1-イル]へキサノイル $}$ -1, 3-チアソリジン、3-{(S)-2-ア ミノー6-[4-(2-トリフルオロメチル-4-キナゾリニル)ピペラジンー 1- | 1 - 1 | へキサノイル| -1 | 3ーチアゾリジン、3ー $\{ (S) - 2 - T > 1 \}$ −6−[4−(2−ベンズイミダゾリル)ピペラジン−1−イル]へキサノイル} 10 -1, 3ーチアゾリジン、3ー $\{(S) - 2 - T \le J - 6 - [4 - (5 - \nu T)]\}$ -2-ベンズイミダゾリル) ピペラジン-1-イル]へキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(1-メチル-2-ベン ズイミダゾリル) ピペラジンー1ーイル]ヘキサノイル}ー1,3ーチアゾリジ ン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(1-フェニル-2-ベンズイミダ 15 **ゾリル) ピペラジンー1ーイル]ヘキサノイル}ー1,3ーチアゾリジン、3ー** { (S) -2-アミノー6-[4-(2-ベンズオキサゾリル)ピペラジン-1 6-[4-(5-シアノ-2-ベンズオキサゾリル) ピペラジン-1-イル]へキ サノイル $\}$ -1, 3-4アゾリジン、 $3-\{(S)-2-7$ ミノー6-[4-4]20 (5-メトキシー2ーベンズオキサゾリル)ピペラジン-1-イル]ヘキサノイ ν } -1, 3ーチアソリジン、3-{(S)-2-アミノー6-[4-(2-ベ ンゾチアソリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジ ル) ピペラジンー1ーイル]ヘキサノイル} -1, 3ーチアゾリジン、3-25 $\{(S) -2 - T \le J - 6 - [4 - (5 - J) + 2 - ($ ペラジン-1-イル]ヘキサノイル}-1,3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノー6-[4-(5-クロロ-2-ベングチアゾリル) ピペラジン-1

6-[4-(6-シアノ-2-ベンゾチアゾリル) ピペラジン-1-イル]へキサ Jイル $\}$ -1, 3ーチアプリジン、3ー $\{(S)$ -2ーアミノー6ー[4ー(6)-メトキシ-2-ベンゾチアゾリル)ピペラジン-1-イル]へキサノイル}-1, 3- チアゾリジン、 $3- \{ (S) - 2-$ アミノー6- [4-(6-)ロロー 2ーベンゾチアゾリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1,3-チア ソリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(3-ベンズ [d] イソキサ プリル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3- $\{(S) - 2 - 7 \le 1 - 6 - [4 - (5 - 5) 7] - 3 - (5) \ [d] \ 7 + 7$ リル) ピペラジン-1-イル]ヘキサノイル} -1,3-チアゾリジン、3-{(S) -2-アミノー6-[4-(3-ベンズ [d] イソチアゾリル) ピペラ 10 ジン-1-4ル]へキサノイル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノー6-[4-(1-フェニル-5-ピラゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイ |n| = 1, |3-fry|リジン、|3-f| (S) |-2-r| ミノー|6-f|チルー1ーフェニルー5ーピラゾリル)ピペリジノ]ヘキサノイル}ー1,3-チアゾリジン、 $3-((S)-2-7ミノ-6-\{4-[1-(ピリジン-2-$ イル) -5-ピラゾリル] ピペリジノ} ヘキサノイル) -1, 3-チアゾリジン、 $3-((S)-2-r \le 1-6-\{4-[4-(4-\nu r)7) = 2-r\}$ アゾリル] ピペリジノ} ヘキサノイル) -1, 3-チアゾリジン、3-{(S) -2-アミノ-6-[4-(1-フェニル-1H-テトラゾール-5-イル) ピ [320 ペリジノ] (5) (5) (5) (7-6-[4-(2-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル}-1,3-チアソリジン、 $3-\{(S)-2-Tミノ-6-[4-(2-ベンズイミダゾリ$ ル) ピペリジノ] (-1, 3-f) デンプリジン、(3-f) (S) (-2-f)アミノー6-[4-(5-シアノー2-ベンズイミダプリル) ピペリジノ]へキサ (17) (5) (725 ーメチルー2ーベンズイミダゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} -1,3-チ アゾリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(1-フェニル-2-ベン ズイミダゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} -1,3-チアゾリジン、3-

サノイル $} -1$, 3- + 7 - 3 - 3 - 4 - 4 - 1 - $(5-シアノ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジノ]へキサノイル<math>\} -1, 3$ ーチアソリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(5-メトキシ-2-ベンズオキサソリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} -1,3-チアソリジン、3 5 - { (S) -2-アミノー6-[4-(5-クロロ-2-ベンズオキサゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル $\}$ -1, 3-チアゾリジン、<math>3- $\{(S)-2-アミ$ J-6-[4-(2-ベンプチアゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル $\}-1$, 3-チアソリジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(5-シアノ-2-ベン ゾチアソリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} -1,3-チアソリジン、3-10 { (S) -2-アミノー6-[4-(5-メトキシー2-ベングチアゾリル) ピ ペリジノ]ヘキサノイル $\} - 1$, $3 - f アゾリジン、3 - {(S) - 2 - アミノ$ -6-[4-(5-クロロー2-ベンゾチアゾリル)ピペリジノ]へキサノイル -1, $3-チアゾリジン、<math>3-\{(S)-2-アミノ-6-[4-(6-シアノ$ -2-ベンゾチアゾリル)ピペリジノ]ヘキサノイル}-1,3-チアゾリジン、 $3 - \{(S) - 2 - T \le J - 6 - [4 - (6 - J) + 5 - 2 - 4) \}$ 15 ル) ピペリジノ]ヘキサノイル} -1, 3ーチアゾリジン、3-{(S)-2-.アミノー6ー[4-(6-クロロー2-ベンゾチアゾリル) ピペリジノ]ヘキサノ イル $\} -1$, $3-チアゾリジン、3-{(S)-2-アミノー6-[4-(3-$ ベンズ [d] イソキサゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} -1, 3-チアゾリ 20 ジン、3-{(S)-2-アミノ-6-[4-(5-シアノ-3-ベンズ [d] イソキサゾリル) ピペリジノ]ヘキサノイル} -1,3-チアゾリジン、3-{ (S) -2-アミノ-6-[4-(3-ベンズ [d] イソチアゾリル) ピペリ ジノ]ヘキサノイル} -1, 3-チアソリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(5,6-ジシアノ-2-ピリジル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリ ジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4 - (3-ニトロー2-ピリジル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカル ボニル $\} -1$, $3-チアプリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-シ$ アノー4ーピリミジニル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニ |n| = 1, |3-47| 3 |-4-[4-(4-2)] 3 |-4-[4-(4-2)]| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-4-(4-2)| 1 |-

-2-フェニルフェニル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニ μ -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-シアノ -2-ピリジルフェニル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニ ν -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-シアノ -3-フェニル-2-ピリジル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカル ボニル $\}$ - 1, 3 - チアプリジン、3 - $\{(2S, 4S) - 4 - [4 - (1 - 7)]\}$ ェニルー2ーピロリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-fry 1 2 3 -1, 3-fry 1 3 -1, 3-fry 1 3 -1, 3-fry 1 3 -1, 3-fry 1, 3-fry 1ーフェニルー2ーピロリル) -1ーピペラジニル] -2ーピロリジニルカルボニ |n| -1, 3-チアプリジン、3-((2S, 4S) -4-{4-[1-(2-10 ピリジル) -2-ピロリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニ ル) -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[4-メチル -1-(2-ピリジル)-2-ピロリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジ $= -\mu$ カルボニル) - 1, 3 - チアゾリジン、3 - { (2S, 4S) - 4 - [4 - 1](1, 3-ジメチル-5-ピラゾリル) -1-ピペラジニル]-2-ピロリジニ 15 ルカルボニル} -1, 3-チアプリジン、3-((2S, 4S) -4- {4-[1-(2-ピリジル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリ ジニルカルボニル) -1, $3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4}$ - [3-メチルー1-(2-メチルフェニル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラ ジニル } -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-((2 S,4S)-4-{4-[3-メチル-1-(3-メチルフェニル)-5-ピラ ゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3ーチア プリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[3-メチル-1-(4-メチル フェニル) -5-ピラゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボ ニル)-1, 3-チアゾリジン、3- ((2S, 4S) -4- {4- [1- (2 25 ーメトキシフェニル)-3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- ((2S, 4S)) $-4 - \{4 - [1 - (3 - \lambda) + + \nu) - 3 - \lambda + \nu - 5 - \nu \}$ -1-ピペラジニル}ー2ーピロリジニルカルボニル)ー1,3ーチアゾリジン、

 $3-((2S, 4S)-4-\{4-[1-(4-1)++2)]$ ルー5ーピラゾリル] -1ーピペラジニル} -2ーピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(2-クロロ フェニル)-3-メチル-5-ピラプリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリ 5 ジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S) -4-{4 **− [1− (3−クロロフェニル) −3−メチル−5−ピラゾリル] −1−ピペラ** ジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-((2 S, 4S) -4- {4- [1- (2-シアノフェニル) -3-メチル-5-ピラ ゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-ブリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(3-シアノフェニル) 3-メチル-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボ ニル) −1, 3−チアゾリジン、3−((2S, 4S) −4− {4− [3−メチ ルー1-(2-ピリミジニル)-5-ピラゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S) -4- {4-[3-メチル-1-(4-ピリミジニル) -5-ピラゾリル] -1-ピ 15 ペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-ピラゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、 $3-((2S, 4S)-4-\{4-[3-メチル-1-(2-オ)]$ キサゾリル)-5-ピラゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカル 20 ボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[3-ト リフルオロメチルー1ー(2ーピリジル)ー5ーピラプリル]ー1ーピペラジニ · ル} ー2ーピロリジニルカルボニル)-1,3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S) -4-[4-(4-メチル-1-フェニル-2-イミダゾリル) -1-ピ ペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン、3-25 $((2S, 4S) - 4 - \{4 - [1 - (2 - ピリジル) - 2 - イミダゾリル] -$ 1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1,3ーチアゾリジン、 $3-((2S, 4S) - 4 - \{4 - [1 - (3 - ピリジル) - 2 - イミダゾリ$ ル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3ーチアゾリ

ジン、3-((25, 45)-4-{4-[1-(4-ピリジル)-2-イミダ **ゾリル**] −1−ピペラジニル} −2−ピロリジニルカルボニル) −1, 3−チア ゾリジン、3- ((2S, 4S) -4- {4- [4-メチル-1-(2-ピリジ ル) -2-イミダゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニ ル) -1, 3-チアゾリジン、3- ((2S, 4S) -4- {4- [4-メチル $-1-(3-ピリジル) -2-イミダゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロ$ リジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-((25, 45) -4-{4- [4-メチル-1-(4-ピリジル) -2-イミダゾリル] -1-ピペラ ジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアプリジン、3-{(2 S, 4S) -4-[4-(2-フェニル-1, 2, 4-トリアゾール-3-イ . 10 ル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリ $\Im V$, $3 - \{(2S, 4S) - 4 - [4 - (5 - \forall \infty \cdot V) - 2 - 7 \tau = 1, 2,$ 4-トリアゾールー3-イル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボ $= \mu$ -1, $3 - f \gamma j j j j j j$, 3 - ((2S, 4S) - 4 - (4 - [2 - (2S, 4S) - 4 - (4 - (ーピリジル) -1, 2, 4ートリアゾール-3-イル] -1-ピペラジニル} ー 15 2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアゾリジン、3- ((2S, 4S) $-4-\{4-[5-メチルー2-(2-ピリジル)-1, 2, 4-トリアゾール$ -3-4ル] -1-2ペラジニル} -2-2ロリジニルカルボニル) -1, 3-2チアゾリジン、 $3-\{(2S, 4S)-4-[4-(5-フェニルー4-オキサ$ ブリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チア プリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-メチル-5-フェニル-4 ーオキサゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, **| 3ーチアゾリジン、3-((2S,4S)-4-{4-[5-(2-ピリジル)** -4-オキサゾリル]-1-ピペラジニル}-2-ピロリジニルカルボニル)-1, 3-チアプリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[2-メチル-5-25 (2ーピリジル) -4-オキサゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニ **ルカルボニル)−1, 3−チアゾリジン、3−{(2S, 4S)−4−[4−** (2-メチル-5-フェニル-4-チアゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピ ロリジニルカルボニル $\} -1$, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-

3. 4. 1.

{4-[2-メチルー5-(2-ピリジル)-4-チアゾリル]-1-ピペラジ =ル $\}$ -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- $\{$ (2S,4S) -4- [4- (2-メチル-5-フェニル-1H-イミダゾール-4-イ ル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリ ジン、3- ((25, 45) -4- {4- [2-メチルー5- (2-ピリジル) -1H-イミダゾール-4-イル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカ ルボニル) -1, 3-チアソリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-シアノー1ーナフチル) ー1ーピペラジニル] ー2ーピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-クロロ・ ーナフチル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル] 10 チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-トリフルオロメチル-1ーナフチル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3 -チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(4-トリフルオロメチル -1-イソキノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(3-シアノ-4-15 キノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1,3-チ アゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-シアノ-8-メトキシー 4-キノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1,3 -チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(7-クロロー2-トリフ ルオロメチルー4ーキノリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボ . 20 ニル} −1, 3−チアゾリジン、3− { (2S, 4S) −4− [4− (2−トリ フルオロメチルー7ーヒドロキシー4ーキノリル) ー1ーピペラジニル] ー2ー ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4 - {4- [2, 7-ビス (トリフルオロメチル) -4-キノリル] -1-ピペラ ジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-{(2 25 S, 4S) -4- [4-(2-トリフルオロメチル-5-メトキシー4-キノリ ル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3ーチアゾリ ジン、3-{(25, 45)-4-[4-(2-シアノ-4-キナゾリニル)-1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、

 $3 - \{(2S, 4S) - 4 - [4 - (2 - F)] \}$ リジン-4-イル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(2-トリフルオロメチ ルー1,6-ナフチリジンー4-イル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニ ルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(1H-インドール-2-イル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカル ボニル $\}$ -1, 3-チアプリジン、3-{(2S, 4S) -4-[4-(1-フ ェニルー1 Hーインドールー2ーイル) ー1ーピペラジニル] ー2ーピロリジニ ルカルボニル $}$ -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S) -4- $\{4-$ [1-(2-ピリジル)-1H-インドール-2-イル]-1-ピペラジニル} 10 -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- $\{(2S, 4)$ S) $-4 - [4 - (3 - \cancel{5} + \cancel{5$ -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、 $3-\{(2S, 4S)-4-[4-(1-フェニル-2-ベンズイミダプリル)$ -1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル]-1,3-チアゾリジン、 15 $3-((2S, 4S) - 4 - \{4 - [1 - (2 - ピリジル) - 2 - ベンズイミダ$ ゾリル] -1-ピペラジニル} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チア ゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-シアノ-1-フェニル-2 ーベンズイミダブリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} 20 13 3ーチアプリジン、3ー { (2S, 4S) -4- [4-(5-メトキシー 1ーフェニルー2ーベンズイミダゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジ ニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-クロロー1-フェニルー2-ベンズイミダゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル $} -1$, 3-チアゾリジン、3- $\{$ (2S, 4)25 S) $-4-[4-(6-\nu T)-1-7$ ーピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1,3-チアゾリジン、3 - { (2S, 4S) -4- [4- (6-メトキシ-1-フェニル-2-ベンズイ ミダゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(6-クロロ-1-フェニル

-2-ベンズイミダプリル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニ ル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-メトキ シー2-ベンズオキサゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボ ニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-クロ ロー2ーベンズオキサゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボ ニル} −1, 3−チアソリジン、3− { (2S, 4S) −4− [4− (6−シア ノー2ーベンズオキサゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボ ニル} −1, 3−チアソリジン、3−{(2S, 4S) −4−[4−(6−メト キシー2ーベンズオキサゾリル)、-1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカル ボニル} -1, 3-チアソリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(6-ク 10 ロロー2ーベンズオキサゾリル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカル ボニル $\}$ -1, $3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(6-メ$ トキシー2ーオキサゾロ[4,5-b]ピリジル)-1-ピペラジニル]-2-ピロリジニルカルボニル}-1,3-チアゾリジン、3-{(2S,4S)-4 - [4- (6-シアノー2-オキサゾロ [4, 5-b] ピリジル) -1-ピペラ 15 ジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1,3-チアゾリジン、3-{(2 S, 4S) -4- [4- (5-シアノ-2-オキサゾロ [4, 5-b] ピリジ ル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリ ジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(1-メチル-2-フェニル-1H-インドールー3ーイル) ー1ーピペラジニル] ー2ーピロリジニルカルボニル} 20 -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(9-アクリジニ ル) -1-ピペラジニル] -2-ピロリジニルカルボニル} -1,3-チアゾリ ジン、3-{(25, 45)-4-[4-(2-フェニル-1, 2, 4-トリア ソールー3-イル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チ アソリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-メチル-2-フェニルー 25 1, 2, 4-トリアゾールー3-イル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボ $= \mu$ -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S) -4-{4-[2-(2] -ピリジル) -1, 2, 4-トリアゾール-3-イル] ピペリジノ} -2-ピロ リジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-((25, 45)-4-

{4-[5-メチルー2-(2-ピリジル)-1, 2, 4-トリアゾールー3-イル] ピペリジノ} ー 2 ーピロリジニルカルボニル) ー 1, 3 ーチアゾリジン、 3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-フェニル-4-オキサゾリル) ピペリ ジノ] - 2 -ピロリジニルカルボニル $\} - 1$, 3 -チアゾリジン、3 - { (2S)4S)-4-[4-(2-メチル-5-フェニル-4-オキサプリル) ピペリジ J] -2-ピロリジニルカルボニル]-1, 3-チアプリジン、3-((2S) 4S) -4- {4- [5- (2-ピリジル) -4-オキサゾリル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- ((2S, 4) S) -4-{4-[2-メチル-5-(2-ピリジル)-4-オキサソリル]ピ ペリジノ}ー2ーピロリジニルカルボニル)ー1、3ーチアゾリジン、3ー 10 {(2S, 4S) -4-[4-(5-フェニル-4-イソオキサゾリル) ピペリ ジノ] $-2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-((2S,$ 4S)-4-{4-[5-(2-ピリジル)-4-イソオキサゾリル] ピペリジ ノ ト 2 ーピロリジニルカルボニル) ー 1, 3 ーチアゾリジン、3 ー { (2 S, 4S) -4- [4-(5-フェニル-4-チアゾリル) ピペリジノ] -2-ピロ 15 リジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(25, 45)-4-[4-(2-メチル-5-フェニル-4-チアゾリル)ピペリジノ]-2-ピロ リジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-((25, 45)-4-{4-[5-(2-ピリジル)-4-チアゾリル]ピペリジノ}-2-ピロリジ ニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3- ((2S, 4S) -4- {4-20 10 [2ーメチルー5ー(2ーピリジル)-4ーチアプリル] ピペリジノ)-2ーピ ロリジニルカルボニル) -1, $3-チアソリジン、3-{(2S, 4S) -4-$ [4-(2-フェニルー1ーピロリル)ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボ ニル -1. 3-チアソリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[2-(2 ーピリジル) -1-ピロリル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -25 ーイミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チア プリジン、3ー((2 S、4 S)-4-{4-「2-(2-ピリジル)-1-イ · ミダゾリル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリ

ジン、3-{(28.48)-4-[4-(4-メチル-2-フェニル-1-イ ミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリ ジン、3-((25, 45)-4-{4-[4-メチル-2-(2-ピリジル) -1-イミダゾリル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4-[1-(4-メチルフェニ ル) -1H-テトラゾール-5-イル] ピペリジノ -2-ピロリジニルカルボ $= \mu$) -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S) -4-{4-[1-(2)] ーフルオロフェニル) -1H-テトラゾール-5-イル] ピペリジノ} -2-ピ ロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3-((2S, 4S)-4-{4- [1-(3-フルオロフェニル) -1H-デトラゾール-5-イル] ピペ 10 リジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアプリジン、3-((2 $S. 4S) - 4 - \{4 - [1 - (2 - ピリジル) - 1 H - テトラゾール - 5 - 4]$ ル] ピペリジノ} -2-ピロリジニルカルボニル) -1, 3-チアゾリジン、3 - { (2S. 4S) - 4- [4- (1-フェニル-2-ベンズイミダゾリル) ピ ペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1,3-チアゾリジン、3-. 15 { (2S. 4S) - 4- 「4- (5-シアノ-1-フェニル-2-ベンズイミダ ゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1.3-チアゾリジン、 $3 - \{(2S, 4S) - 4 - [4 - (5 - \rho uu - 1 - \gamma uu - 2 - \kappa) \times \chi \chi \}$ ミダソリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル] -1, 3-チアゾリ ジン、 $3-\{(2S, 4S)-4-[4-(5-メトキシ-1-フェニル-2-$ 20 ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1,3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S)-4-[4-(5-クロロ-2-ベンズオ キサゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリ ジン、3-{(25, 45)-4-[4-(5-シアノ-2-ベンゾチアゾリ ル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル] -1, 3-チアゾリジン、3 25 - { (2S, 4S) - 4- [4- (5-メトキシ-2-ベンプチアゾリル) ピペ リジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2 S, 4S) -4- [4-(2-オキサゾロ [4, 5-b] ピリジル) ピペリジ

4S) -4- [4-(6-シアノ-2-オキサゾロ [4, 5-b] ピリジル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S) -4- [4-(2-フェニル-1-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S) -4- [4-(5-トリフルオロメチル-2-フェニル-1-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン、3-{(2S, 4S) -4- [4-(5-シアノ-2-フェニル-1-ベンズイミダゾリル) ピペリジノ] -2-ピロリジニルカルボニル} -1, 3-チアゾリジン。

10 また、比較化合物1として3-L-リジル-1, 3-チアゾリジン・2トリフルオロ酢酸塩を以下の方法により合成した。

実施例7(1)のレジン1209mgに50%トリフルオロ酢酸/ジクロロメタン8mLを加え、2時間撹拌した。レジンを濾去し、減圧下で濃縮した。得られた残渣をISOLUTE FLUSH C18により精製することにより表題化合物280mgを得た。

MS (ESI) m/z 218 [MH] +

15

本発明の化合物は以下に示す実験例1により、強力なDPP-IV阻害活性を示した。

実験例1 (血漿DPP-IV阻害活性)

表10

ラットあるいはヒト血漿(10倍希釈液)	20μL/ウェル
蛍光基質(100μmol/L)	20μL/ウェル
被験物質。	20μL/ウェル
緩衝液 (0.003%Brij-35含有PBS	S) 140μL/ウェル
全量	200μL/ウェル

溶媒添加群に対する阻害率を算出し、IC 50値をロジスティック解析により求めた。

5 以上の方法により求めた本発明の血漿DPP-IV阻害活性のIC 50 値を表 1 1および12に示す。

表11

実施例化合物番号	ヒト血漿DPP-IV 阻害活性IC ₅₀ (nM)	ラット血漿DPP-IV 阻害活性IC ₅₀ (nM)	
5	2 8	1 9	
6	3 4	2 9	
7	1 5	1 3	
13	6 6	4 0	
1 4	2 9	1 8	
2 8	3 5	. 49	
比較化合物1	8 5 6	7 1 9	
表12			
who like the Lat. A. A. A. at. T.	ヒト血漿DPP-IV	ラット血漿DPP-IV	
実施例化合物番号	阻害活性 I C ₅₀ (nM)	阻害活性 I C ₅₀ (nM)	
4 0	0.63	0.72	
4 8	0. 25	0.37	
5 5	0. 24	0.30	
5 6	0. 91	1. 17	

なお、比較化合物1はWO99/61431公報に包含される化合物であるが、 表11に示すように血漿DPP-IV阻害活性は十分ではない。

表11に示すように血漿DPP-IV阻害活性は十分ではない。 また、表13に示すように、特表平9-509921号公報の化合物及びWO 99/61431公報の化合物の血漿DPP-IV阻害活性は十分ではない。

-	-	\sim
==		
70		

	ヒト血漿DPP-IV	
公知化合物	阻害活性 I C ₅₀ (n M)	
(S) -2-シアノ-1-L-プロリルピロリミ	ジン	
・塩酸塩	2. 9	
3-L-プロリルー1, 3-チアゾリジン	5 3 8	

産業上の利用可能性

以上の実験例及び各種の薬理実験から、本発明化合物は、強力なDPP-IV 5 阻害活性を示し、糖尿病の予防、治療、又は、肥満の予防、治療に有用である。

本出願は日本で出願された特願2001-279084および特願2001-304650を基礎としており、その内容は本明細書にすべて包含するものである。

請求の範囲

1. 一般式(I):

$$X \longrightarrow X$$
 (I)

〔式中、Xは下式

$$(CH_2)n$$
 $(I-a)$ 又は

$$Q$$
 N
 $(I-b)$

〔式中、mは1又は2の整数を示し、

5 nは1~5までの整数を示し、

10

X'は水素原子又は置換基を有してもよいアルキルを示し、

Y'は-NR¹R²(R¹は置換基を有してもよいアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールを示し、R²は水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換

基を有してもよいヘテロアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールアルキルを示すか、又は互いに結合して、炭素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ原子を有していてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合していてもよい。)を示し、

Aは炭素原子又は窒素原子を示し、

¹⁵ は、単結合又は二重結合を示し、

ただし、i) Aが炭素原子を示す場合、Aは水酸基、カルボキシ又はアルコキシカルボニルで置換されていてもよく、ii) Aが窒素原子を示す場合、

は単結合を示し、

Qは下式 (II) \sim (XII) で表される化合物から選ばれるアリールまたは \sim

5 テロアリールである;

$$\begin{array}{c|c} a & b & R^{2a} \\ \hline & & & \\ & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & &$$

$$-N$$
 R^3
 R^4
 (III)

$$\begin{array}{c}
R^{12} \\
P \\
R^{13}
\end{array}$$
(VI)

$$R^{26}$$
 $X - R^{23}$
 $X - R^{23}$
 $X - R^{24}$

5

JAMES A

ただし、

20

(i) 式(II)中、a、b、c及びdは、 $1\sim3$ 個が窒素原子であり、かつ残i

 R^{1a} は、アルキル、フェニル、ピリジル、ピリミジニル、イミダゾリルまたはオキサゾリルであり、これらの基はそれぞれ1または2以上のアルキル、アルコキシ、ハロゲンまたはシアノで置換されていてもよく、

R² は水素原子、アルキルまたはハロアルキルであり、ただし、

- 10 (i-1) b が窒素原子のときはR^{2a}は存在せず、
 - (i-2) c および d が共に窒素原子であり、 a および b が共に炭素原子であり、 R^{1a} がフェニルであり、かつ R^{2a} がアルキルであるときは、 R^{1a} は、上記の置換基を 1 または 2 以上有し、
- (i-3) a および d が共に窒素原子であり、 b および c が共に炭素原子であり、 b かつ R 1 e が置換基を有しないフェニルであるときは、 R 2 e は、 アルキルまたはハロアルキルであり、
 - (i-4) a、b、c及びdがすべて窒素原子であり、かつ R^{1a} がフェニルであるときは、①式 (I-b) のAは炭素原子であり、かつ R^{1a} は上記置換基を有しないか、あるいは② R^{1a} はアルキルまたはハロゲンで1または2以上置換されるかのいずれかであり、

(ii) 式(III) 中、e及びfは一方が窒素原子であり、他方が炭素原子であるか、あるいは共に炭素原子であり、

R³及びR⁴は、同じでも異なっていてもよく、それぞれ水素原子、アルキル、フェニルまたはピリジルであり、

5 (iii) 式(IV) 中、j は硫黄原子、酸素原子または窒素原子であり、 h及びiは、同じでも異なっていてもよく、それぞれ窒素原子又は炭素原子であ り、

R⁵及びR⁷は、同じでも異なっていてもよく、それぞれ水素原子、フェニルまたはピリジルであり(ただし、hが窒素原子のときはR⁷は存在しない)、

- 10 R⁶は、水素原子またはアルキルであり(ただし、iが窒素原子のときはR⁶は存在しない)、
 - (iv) 式 (V) 中、k、l 及びn i は、同じでも異なっていてもよく、それぞれ 炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくともひとつは炭素原子であり、

R®は、水素原子、フェニル、ピリジルまたはニトロであり(ただし、n'が窒

5 素原子のときはR⁸は存在しない)、

R^{8a}は水素原子またはフェニルであり、

R®は、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

 R^{10} は、水素原子またはシアノであり(ただし、1が窒素原子のときは R^{10} は存在しない)、ただし、

- 20 (iv-1) kおよびn が共に窒素原子のときは、①式(I-b)のAは窒素原子であり、かつ R^{8} 、 R^{9} 及び R^{10} はすべて水素原子であるか、または② R^{8} はフェニルであり、かつ R^{9} はハロアルキルであるかのいずれかであり、
 - (iv-2) k、1及びn'がすべて炭素原子であるときは、R⁸はフェニルまた はピリジルであり、
 - 25 (iv-3) kが窒素原子であり、かつ1およびn'が共に炭素原子であるときは、
 ① R^8 はフェニルまたはニトロであるか、あるいは② R^9 はシアノであるかのいず
 れかであり、
 - (iv-4) 1が窒素原子であるときは、kまたはn'のいずれか1個が窒素原子

であり、

(v)式(VI)中、pは、窒素原子または炭素原子であり、

 R^{11} は、水素原子、フェニルまたはピリジルであり(ただし、p が窒素原子であるとき、 R^{11} はフェニルまたはピリジルである)、

5 R^{12} は、水素原子またはアルキルであり(ただし、p が窒素原子のときは R^{12} は存在しない)、

R¹³及びR¹⁴は、共に水素原子であるが、あるいはいずれか1個が水素原子であ り、かつ残りがシアノ、アルコキシまたはハロゲンであり、

 (vi) 式 (VII) 中、r及びsは、1個が窒素原子であり、残りが炭素原子で

 10 あり、

 R^{15} は、水素原子、アルキルまたはフェニルであり(ただし、rが窒素原子のときは R^{15} は存在しない)、

 R^{16} は、水素原子またはアルキルであり(ただし、s が窒素原子のときは R^{16} は存在しない)、

15 R¹⁷は、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

(vii) 式 (VIII) 中、r, 及びs, は同じでも異なっていてもよく、それぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくともひとつは窒素原子であり、 R^{15} は、水素原子、アルキルまたはフェニルであり(ただし、r, が窒素原子のときは R^{15} は存在しない)、

20 R^{16} は、水素原子またはアルキルであり(ただし、r およびs が共に窒素原子であるときは、 R^{16} は水素原子である)、

R¹⁷aは、水素原子、ハロアルキルまたはシアノであり、

(viii) 式 (IX) 中、tは、硫黄原子または酸素原子であり、

uは、炭素原子または窒素原子であり、

25 R^{18} および R^{19} は、共に水素原子であるか、あるいはいずれか1個が水素原子であり、かつ残りがシアノ、アルコキシまたはハロゲンであり、ただし、

(viii-1) uが炭素原子であるときは、 R^{18} および R^{19} のいずれか1個は、シアノ、アルコキシまたはハロゲンであり、

(viii-2) t が硫黄原子であるときは、式 (I-b) 中のAは炭素原子であり、 R^{19} は水素原子であり、かつ R^{18} はメトキシまたはシアノであり、

(viii-3) 式 (I-b) 中のAが窒素原子であり、t が酸素原子であり、 R^{19} が水素原子であり、かつu が炭素原子であるときは、 R^{18} はアルコキシまたはハロゲンであり、

(viii-4) 式 (I-b) 中のAが炭素原子であり、 R^{19} が水素原子であり、uが炭素原子であり、かつ t が酸素原子のときは、 R^{18} はハロゲンであり、

- (ix) 式(X)中、v、w、x及びyは、同じでも異なっていてもよく、それぞれ炭素原子又は窒素原子であり、ただし、少なくとも2つは炭素原子であり、
- 10 R^{20} 、 R^{21} 、 R^{22} 、 R^{23} 、 R^{24} 、 R^{25} 及び R^{26} は、同じでも異なっていてもよく、 $1\sim3$ 個がハロアルキル、メトキシ、エトキシ、イソプロポキシ、トリフルオロメトキシ、2,2,2ートリフルオロエトキシ、ヒドロキシ、シアノまたはハロゲンであり、残りが水素原子であり(ただし、v が窒素原子のときは R^{20} は存在せず、v が窒素原子のときは R^{23} は存在せず、v が窒素原子のときはr なが変素原子のときはr ながなからない。
 - (ix-1) vが窒素原子であり、かつw、x及びyがすべて炭素原子のときは、 R^{22} はハロアルキルであり、
 - (ix-2) vおよびwが共に窒素原子であり、かつxおよびyが共に炭素原子のときは、 R^{21} はシアノであり、
- $^{1}20$ 2 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1 2 1 1 1 1 2 1

(x)式(XI)中、R²⁷及びR²⁸は、同じでも異なっていてもよく、それぞれ ハロアルキルまたはアルコキシである。〕から選ばれる置換基であり、 Yはメチレン、ヒドロキシメチレン、硫黄原子、スルフィニル又はスルホニルを 示し、

- 5 Zは水素原子又はシアノを示す;
 - ただし、Xが式 (I-a) で表される置換基である場合は、Zは水素原子である。〕で表されるチアソリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。
- 2. 一般式 (I-a) のY'が、-NR¹R² (R¹は置換基を有してもよいアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールを示し、R²は水素原子、置換してもよいアリール、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールスは置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール又は置換基を有してもよいヘテロアリールアルキルを示すか、又は互いに結合して、1~2個の窒素原子又は酸素原子をそれぞれ含んでいてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサイクルに置換基を有していてもよい、プラを環が置換又は縮合していてもよい。」である請求項1に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。
 - 3. 一般式 (I) のXが式 (I-a) で表される置換基であり、かつZが水素原子である請求項1 または2 に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。
- 20 4. 一般式 (I) の X が式 (I b) で表される置換基である請求項 1 に 記載 のチアソリジン誘導体又はその 医薬上許容される 塩。
 - 5. 一般式 (I-a) のY' が下式

〔式中、

は、単結合又は二重結合を示し、

R²は請求項1と同義であり、

R³a及びR⁴aは同一又は異なっていてもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールアルキル、ハロゲン、ハロアルキル、シアノ、ニトロ、ーNR⁵aR⁶a、-NHSO₂R⁷a、-OR⁸b、-COOR⁹a、-CONHSO₂R¹⁰a、-SO₂OR¹¹a、-SO₂R¹²a又は-CONR¹³aR¹⁴a(式中、R⁵a、

- 10 R^{6a}、R^{7a}、R^{8b}、R^{9a}、R^{10a}、R^{11a}、R^{12a}、R^{13a}及びR^{14a}は同一又は異なっていてもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキル、置換基を有してもよいシクロアルキルアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロアリールで加ァルキル又はハロアルキルを示し、R^{5a}とR^{6a}、R^{13a}とR^{14a}はそれぞれ互いに結合して、炭素及び少なくとも1個の窒素を有しさらに他のヘテロ原子を有していてもよく、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成しても
- り、ではでもよい。()を示し、ジャッシンなって、ションカー
- 20 a', b', c', d', e', f'およびg'は全て炭素原子であるか、あるいはいずれか1つ又は2つが窒素原子であり、かつ残りが炭素原子を示し、m'は0、1、2又は3を示し、

よく、このペテロサイクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合し

A'は炭素原子または窒素原子を示し、

ただし、i) A'が炭素原子を示す場合、A'は水酸基、カルボキシル又はアル 25 コキシカルボニルで置換されていてもよく、i i) A'が窒素原子を示す場合、

は、単結合を示す。〕から選ばれる置換基である請求項3に記載のチアゾリジン

誘導体又はその医薬上許容される塩。

- 6. 一般式 (II-a)、 (II-b)、 (II-c) および (II-d) の R 3 A 及び R 'A a が、同一文は異なっていてもよく、それぞれ独立して水素原子、置 換基を有してもよいアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有して 5 もよいアリールアルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有し てもよいヘテロアリールアルキル、ハロゲン、ハロアルキル、シアノ、ニトロ、 $-NR^{5a}R^{6a}$, $-NHSO_2R^{7a}$, $-OR^{8b}$, $-COOR^{9a}$, $-CONHSO_2$ R¹⁰*、-SO₂OR¹¹*、-SO₂R¹²*又は-CONR¹³*R¹⁴* (式中、R⁵*、 R^{6a}、R^{7a}、R^{8b}、R^{9a}、R^{10a}、R^{11a}、R^{12a}、R^{13a}及びR^{14a}は同一又 は異なっていてもよく、それぞれ独立して水素原子、置換基を有してもよいアル 10 キル、置換基を有してもよいシクロアルキル、置換基を有してもよいシクロアル キルアルキル、置換基を有してもよいアリール、置換基を有してもよいアリール アルキル、置換基を有してもよいヘテロアリール、置換基を有してもよいヘテロ アリールアルキル又はハロアルキルを示し、R⁵ とR⁶ 、R¹³ とR¹⁴ はそれ ぞれ互いに結合して1~2個の窒素原子又は酸素原子をそれぞれ含んでいてもよ 15 く、かつ置換基を有してもよいヘテロサイクルを形成してもよく、このヘテロサ イクルに置換基を有していてもよい芳香環が置換又は縮合していてもよい。)で ある請求項5に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩。
- 7. Yが硫黄原子であり、かつX'が水素原子である請求項3に記載のチアゾ 20 リジン誘導体誘導体又はその医薬上許容される塩。
 - 8. Yが硫黄原子であり、X'が水素原子であり、かつY'が置換基を有していてもよいフェニルアミノ、2ーピリジルアミノ又は4ー(1ーイソキノリル) -1ーピペラジニルである請求項3に記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上 許容される塩。
- 25 9. 請求項1~8のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容 される塩と薬理学上許容しうる担体とを含有する医薬組成物。
 - 10. 請求項1~8のいずれかに記載のチアソリジン誘導体又はその医薬上許容される塩を含有するDPP-IV阻害剤。

11. 請求項1~8のいずれかに記載のチアゾリジン誘導体又はその医薬上許容される塩を有効成分とするDPP-IVが関与する疾患の治療剤。

12. DPP-IVが関与する疾患が糖尿病又は肥満である請求項11に記載の治療剤。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP02/09419

A. CLASS	IFICATION OF SUBJECT MATTER C1 ⁷ C07D277/04, 417/12, 417/14 A61P3/04, 3/10, 43/00	, A61K31/4439, 31/496,	31/454,
According to	o International Patent Classification (IPC) or to both na	tional classification and IPC	
	SEARCHED		
Int.	Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols) Int.Cl ⁷ C07D277/04, 417/12, 417/14, A61K31/4439, 31/496, 31/454, A61P3/04, 3/10, 43/00		
•	Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched		
Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used) CAPLUS (STN), CAOLD (STN), REGISTRY (STN), WPI/L (DIALOG)			
C. DOCU	MENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT		
Category*	Citation of document, with indication, where ap		Relevant to claim No.
P,X P,Y	EP 1245568 A1 (Les Laborator 02 October, 2002 (02.10.02), Par. Nos. [0003], [0018]; exa & FR 2822826 A		1-3,9-12 5-8
P,X P,Y	JP 2002-265439 A (Mitsubishi 18 September, 2002 (18.09.02) Claims; examples 1 to 24 (Family: none)		1-2,9-12 3,5-8
P,X P,Y	WO 02/14271 A1 (Welfide Corp 21 February, 2002 (21.02.02), Claims; examples (Family: none)		1,4,9∸12 1,4,9−12
× Furth	er documents are listed in the continuation of Box C.	See patent family annex.	
"A" docume conside "E" earlier date "L" docume cited to special "O" docume means "P" docume than the	categories of cited documents: ent defining the general state of the art which is not tred to be of particular relevance document but published on or after the international filing ent which may throw doubts on priority claim(s) or which is c establish the publication date of another citation or other reason (as specified) ent referring to an oral disclosure, use, exhibition or other ent published prior to the international filing date but later te priority date claimed	considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art document member of the same patent family	
21 N	actual completion of the international search fovember, 2002 (21.11.02)	Date of mailing of the international sear 24 December, 2002	
Name and n Japa	nailing address of the ISA/ Inese Patent Office	Authorized officer	
Facsimile N	a.	Telephone No.	

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP02/09419

		102/03413
C (Continua	ation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT	
Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
P,X P,Y	WO 02/068420 A1 (Boehringer Ingelheim Pharma KG), 06 September, 2002 (06.09.02), Page 2; compound (142); Claims (Family: none)	1-3,9-12 5-8
P, X	WO 01/81337 A1 (Ferring B.V.), 01 November, 2001 (01.11.01), Page 2; examples 9 to 11, 116 to 118; Claims & AU 5053701 A	1-3,5-12
Y	DE 19826972 A1 (OTTO-VON-GUERICKE-UNIVERSITAT MAGDEBURG; MARTIN-LUTHER-UNIVERSITAT HALLE-WITTENBERG), 23 December, 1999 (23.12.99), All pages (Family: none)	1-3,7,9-12
Y	EP 450352 A1 (Poli Industria Chimica S.p.A.), 09 October, 1991 (09.10.91), All pages (Family: none)	1-3,7,9-12
Y	US 5462928 A (New England Medical Center Hospitals, Inc.), 31 October, 1995 (31.10.95), Compounds stated in Fig. 2 & WO 91/16339 A1 & EP 610317 A1 & JP 7-504158 A	1-3,7,9-12
Y	WO 95/15309 Al (Ferring B.V.), 08 June, 1995 (08.06.95), All pages	1-3,7,9-12
÷.	& EP 731789 A1 & JP 9-509921 A & US 5939560 A	
Mar Section	「Appelled Configuration」をいていません。 「Manager Configuration」をいる。 「Appelled Configuration」をは、「Appelled Configuration」をいていません。	
	$\begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
•		

Form PCT/ISA/210 (continuation of second sheet) (July 1998)

A. 発明の属する分野の分類(国際特許分類(IPC))

Int. Cl⁷ C07D277/04, 417/12, 417/14, A61K31/4439, 31/496, 3 1/454, A61P3/04, 3/10, 43/00

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料(国際特許分類(IPC))

Int. Cl⁷ C07D277/04, 417/12, 417/14, A61K31/4439, 31/496, 3: 1/454, A61P3/04, 3/10, 43/00

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語) CAPLUS (STN), CAOLD (STN), REGISTRY (STN), WPI/L (DIALOG)

C. 関連すると認められる文献

し. 関連する	5 と認められる 人間	
引用文献の , カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	・関連する 請求の範囲の番号
PX PY	EP 1245568 A1 (LES LABORATORIES SERVIER) 2002.10.02 [0003]、[0018] 段落、EXAMPLE 73 等を参照。 &FR 2822826 A	1-3, 9-12 5-8
PX PY	JP 2002-265439 A(三菱ウェルファーマ株式会社)2002.09.18 請求の範囲、実施例1-24等を参照。 (ファミリーなし)	1-2, 9-12 3, 5-8

X C欄の続きにも文献が列挙されている。

□ パテントファミリーに関する別紙を参照。

- *・引用文献のカテゴリー
- 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示す もの
- 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日 以後に公表されたもの
- 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行 日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する 文献(理由を付す)
- 「O」ロ頭による開示、使用、展示等に言及する文献
- 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

- の日の後に公表された文献
- 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって 出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論 の理解のために引用するもの
- 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明 の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
- 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以 上の文献との、当業者にとって自明である組合せに よって進歩性がないと考えられるもの
- 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

21. 11. 02

国際調査報告の発送日

24.12.02

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP) 郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官(権限のある職員) 榊原 貴子 4P 3040

電話番号 03-3581-1101 内線 3450

国際調査報告

C (#++)	明神・ナイルのルトレッ・大林	
C (続き). 引用文献の	関連すると認められる文献	関連する
カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	請求の範囲の番号
PX PÝ	WO 02/14271 A1 (ウェルファイド株式会社) 2002.02.21 請求の範囲、実施例等を参照。 (ファミリーなし)	1, 4, 9-12 1, 4, 9-12
PX PY	WO・02/068420 A1 (BOEHRINGER INCELHEIM PHARMA KG) 2002.09.06 第2頁、化合物(142)、請求の範囲等を参照。 (ファミリーなし)	1-3, 9-12 5-8
PX ·	WO 01/81337 A1 (FERRING B. V.) 2001.11.01 第2頁、EXAMPLE 9-11,116-118、請求の範囲等を参照。 &AU 5053701 A	1-3, 5-12
Y	DE 19826972 A1 (OTTO-VON-GUERICKE-UNIVERSITAT MAGDEBURG; MARTIN-LUTHER-UNIVERSITAT HALLE-WITTENBERG) 1999. 12. 23 全頁を参照。 (ファミリーなし)	1-3, 7, 9-12
Υ .	EP 450352 A1 (POLI INDUSTRIA CHIMICA S. P. A.) 1991.10.09 全頁を参照。 (ファミリーなし)	1-3, 7, 9-12
Υ	US 5462928 A (NEW ENGLAND MEDICAL CENTER HOSPITALS, INC.) 1995.10.31 FIG. 2に記載の化合物等を参照。 &WO 91/16339 A1 &EP 610317 A1 &JP 7-504158 A	1-3, 7, 9-12
Y	WO 95/15309 A1 (FERRING B. V.) 1995.06.08 全頁を参照。 &EP 731789 A1 &JP 9-509921 A &US 5939560 A	1-3, 7, 9-12

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
□ BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
☐ FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
GRAY SCALE DOCUMENTS
LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
$\stackrel{\textstyle /}{\Box}$ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
OTHER:

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.